

1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
4 月	はるが きた 2 時間（話・聞②） ◎互いの話に関心をもつことができる。（思・判・表A(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活（生活科）	1～2	1 P0-3の挿絵を見て、何をしているのか、気づいたことや想像したことを話す。 2 P4-7の挿絵を見て、気づいたことや想像したことを言ったり、絵の中の人物になりきって話したり 3 P8を教師に合わせて声に出す。想像したこと等を話す。
4 月	さあ はじめよう おはなし ききたいな 2 時間（読②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■読み聞かせを聞いて楽しむ。	1 2	1 教科書の絵を見て、読み聞かせをしてもらった体験を想起し、自分の好きな本を発表する。 2 教科書で紹介されている本の読み聞かせを聞き、感想を発表する。 3 教師の選んだ本や、読んでもらいたい作品を選んで、読んでもらう。 4 読み聞かせを聞いて、本や作品の内容について感想を発表する。
	なんて いおうかな 2 時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 ☆先生や友達などの多くの人と親しみをもって関わって学校生活を楽しむことや、場に応じた挨拶に関わる題材（道徳）	1～2	1 P12-13の絵を見て、何をしてどんな話をしている場面なのか出し合う。 2 それぞれの場面に合った言葉や動作を考えてやり取りしたり、発表したりする。 ・教師に対する言葉遣いと友達どうしの言葉遣いの違いを考える。
	かく こと たのしいな 1 時間（知・技①） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。（知・技(3)ウ） ■正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方（書写）	1	1 P14の唱え歌を唱えながら、鉛筆の正しい持ち方を知る。 2 P15の唱え歌を唱えながら、正しい姿勢を知る。 3 正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢に気をつけてP14-15の挿絵をなぞる。 4 一画の平仮名「く」「つ」を書く。 5 ワークシートを使って練習する。
	どうぞ よろしく 3 時間（話・聞②、書①） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■名前カードを使って友達と交流する。 ☆互いを知り、新しい仲間をつくる題材（生活科） ☆好きなものの絵を描く活動（図画工作）	1 2 3	1 P16を見て、友達をたくさん増やすために、自己紹介をし合うことを知る。 2 「い・ち」と組や自分の名前を平仮名で書く。 ・姿勢や鉛筆の持ち方を唱え歌で確認しながらP17に自分の名前を書く。 ・分からない文字は、教師にきく。 3 名前カードを書く。 ・カードに自分の名前を丁寧に書く。（好きなものの絵等を描いてもよい。） 4 名前カードを見せ合い、交流する。 ・挨拶、名前、好きなもの等を伝え合い、たくさんの友達と交流する。
	こんな もの みつけたよ 2 時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 ☆学校探検（生活科）	1～2	1 校内で見つけたものを思い出して、紹介したいことを考えながら絵に描く。 2 絵を使って、自分で見たことや見て思ったことを友達に紹介する。 ・みんなの前で話すときの言葉遣いを考えて話す。

1 年上卷

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	うたに あわせて あいうえお 2時間（知・技②） ◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ■音読する。 ■正しい筆順で文字を書く。 ☆歌を通して正しい発声を身につける題材（音楽）	1 2	1 P20-21のあいうえおのうたを、いろいろな方法で音読する。 ・姿勢、口形、発声、リズム等に気をつける。 ・全員、グループ等いろいろな形態で読む。 ・体を動かしたり、手足でリズムをとったりして読む。 2 P22-23の「あ、い、う、え、お」の文字を指でなぞる。 ・青い部分が一面目であることに気をつける。 ・P22-23のマス目に、筆順に気をつけて「あ、い、う、え、お」を書く。 3 これまでに習った文字を使って言葉を作り、ノートに書いて言葉集めをする。
5月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。 こえに だして よもう 1時間（読①） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を音読する。 ■想像を広げながら詩を読む。	1	1 詩を声に出して読む。 ・声の大きさやリズムを工夫してはっきりと読む。 2 朝日や海の様子について、想像したことを話す。 3 言葉の響きやリズムに気をつけながら、暗唱する。
	よく きいて、はなそう 2時間（話・聞②） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさと速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■応答したり、感想を伝えたりする。	1～2	1 P26-27を読み、教師の説明を聞いて、活動内容を 知る。 2 友達とペアになり、好きな遊びについて聞く。 ・P27の挿絵を参考に、話し手を見て話を聞くことを知る。 3 分かったことや感想を、声の大きさや速さに気をつけて全体に知らせる。 4 聞き手と話し手を交代して、2の活動をする。 5 教師と活動の振り返りをする。
	ことばを さがそう 2時間（知・技②） ◎音節と文字との関係に気づくことができる。（知・技(1)イ） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■言葉集めをする。	1～2	1 P28を見て、「あ」で始まる言葉はいろいろあることを知る。 ・手を打ちながら1音節1文字であることを気づき、2文字3文字4文字の言葉等があることを知る。 2 「い」「う」「え」「お」など、既習の平仮名で始まる言葉集めをする。 ・手を打ちながら、文字数を意識する。 ・これまでに習った文字を使って言葉を見つけて、ノートに書く。
5月	はなの みち 6時間（読⑥） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ■想像を広げながら物語を読む。 ■物語の音読をする。 ☆動植物や自然に親しむことに関わる題材（道徳） ☆植物の種をまき育てることに関わる題材（生活科）	1 2～5 6	1 教科書の挿絵を手がかりに、場所や季節、登場人物のイメージを膨らませる。 2 教師の範読を聞いて、内容の大体を知る。 ・教師の後について全文を音読する。 3 お話の内容を確かめながら、場面の様子や「くまさん」の行動について考える。 ・挿絵と本文を対応させながら、登場人物の行動や様子を考える。 ・挿絵のワークシートにぬり絵をしながらか、季節に気づいたり場面の様子について想像を広げたりする。 4 好きな挿絵の場面を選んで音読する。 ・二人組で音読を聞き合い、感想を伝え合う。
5月	としょかんへ いこう 2時間（知・技②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知るることができる。（知・技(3)エ） ■学校図書館で好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたり、司書の方にかいたりする活動（図書館活用）	1～2	1 学校図書館へ行く。 ・図書館巡りをし、図書館の様子を知る。 ・たくさんの本があることに気づく。 2 学校図書館での決まりについて考える。 ・みんなの本であることに気づき、大切に扱うことや静かに読むこと等の約束を知る。 ・読み終わった元の場所に返すことを知る。 3 読みたい本を選んで、読書に親しむ。

1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
5月	かきと かぎ 2時間（知・技②） ◎平仮名を読み、書くことができる。 （知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 （思・判・表B(1)ウ）	1～2	1 P40の唱え歌を、いろいろな言い方で楽しく読み、濁音に気づく。 2 P41にある単語を、一語一語唱えながら濁音の有無を確認する。 ・清音と濁音の平仮名をノートに書く。 3 濁音を含む単語を見つけてノートに書く。 4 短い唱え歌を作って、まとめをする。
5月	ぶんを つくろう 4時間（書④） ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■主語と述語を意識して文を書く。	1～2 3～4	1 P42の挿絵を見ながら、二つの文を読む。 ・主語や述語に注意し、「――が――。」「――は――。」の文型であることに気づく。 ・主語・述語・句点を意識して、P42の文を視写する。 2 P43の挿絵を見て、「――が――。」「――は――。」の文で表し、ノートに書く。 3 日常の生活から、「――が――。」の文をノートに書く。
5月	ねこと ねっこ 2時間（書②） ◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■促音や濁音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P44の唱え歌をいろいろな言い方で楽しく読み、促音に気づく。 2 P45を見て、一語一語唱えながら促音の読み方を確認する。 3 P45を見て、促音のある言葉とない言葉を比べながらノートに書く。 4 促音や濁音のある言葉と助詞「を」を使って、簡単な文を書く。
6月	わけを はなそう 2時間（話・聞②） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■自分の考えとそのわけを話す。 ☆わけを説明する題材（生活科・算数）	1 2	1 質問に対して、答えとその理由を伝える言い方を確認する。 ・P47の挿絵を見ながら、質問する人と答える人の二人組になって、P46のやり取りを声に出して読む。 2 P47の挿絵を見ながら、二人組で学んだ話型を使って伝え合う。 3 小学校の生活等で好きなことや楽しみなことを、学んだ話型を使って話す。 ・二人組で交流した後、グループや全体で発表する。
6月	おばさんと おばあさん 2時間（書②） ◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■長音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P48の唱え歌をリズムに気をつけて読む。 ・長音になることで言葉の意味が変わるものがあることに気づく。 2 P49の長音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 長音のある言葉を集めてノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 長音のある言葉を使って文を書く。 ・「――へ――。」という助詞「へ」を使った文を書く。
6月	あいうえおで あそぼう 3時間（知・技③） ◎平仮名を読み、書くことができる。 （知・技(1)ウ） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ■言葉遊び歌を楽しむ。	1 2 3	1 P50-51の言葉遊び歌を読む。 ・調子のよい言葉のリズムに気づき、節を付けて歌うように読む。 ・何度も読んで、言葉遊びの歌の仕組みに気づく。 2 自分たちで「あいうえおで あそぼう」を作る。 ・P50-51の吹き出しやP129-131の平仮名表を参考に好きな行を作り、発表し合って楽しむ。 3 P52-53の五十音表を読む。 ・口形に気をつけて縦や横に読んだり、各行や列の音の特徴に気をつけて読んだりする。 ・区切ったり伸ばしたりいろいろな声の大きさで読んだりする。 ・P52-53の「しりとり」を参考にして、しりとり遊びを楽しむ。

1 年上卷

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
6月	つぼみ 8時間（知・技②、読⑥） ◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■ 文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。 ☆動植物や自然に親しむ題材（道徳） ☆図鑑でいろいろな花のつぼみを見つける活動（図書館活用）	1 2～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・花やつぼみについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。 ・P54の写真を見て、三つのつぼみからそれぞれどんな花が咲くかを予想して絵に描いてみる。 ・教師の範読を自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。 2 全文を読み、内容の大体を捉える。 ・本文と写真とを対応させながら、3種類の花のつぼみについて取り上げられていることを確かめる。 ・それぞれのつぼみについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。 ・「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、二人組で音読する。 3 いちばん興味をもったつぼみについて、わけとともに伝え合う。 4 学習を振り返る。
6月	おもちゃと おもちゃ 2時間（書②） ◎拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■ 拗音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P62の唱歌をリズムに気をつけて読み、「おもちゃ」と「おもちゃ」の言葉の違いに気づく。 2 P63の拗音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 拗音のある言葉を集めて、ノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 拗音のある言葉を使って文を書く。 ・語と語の続き方に気をつけて文を書く。
6月	おおきく なった 4時間（書④） ◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■ 観察したことを記録する文を書く。 ☆植物を観察する活動（生活科） ☆観察時に写真を撮影（ICT活用）	1 2～3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・生活科で育てている植物の様子を想起し、「よくみてくわしくかく」という学習課題を確認する。 2 どんな観点で観察したいかを出し合う。 ・出し合ったものとP64の観点を合わせて整理し、クラス全体で共有する。 3 観察記録の書き方を知る。 ・P64-65の二つの作例を読み、書かれている観点と書き方の共通点・相違点を見つける。 4 観察記録を書く。 ・生活科で育てている植物を観察し、観点を想起して気づいたことをメモしたり絵に描いたりする。 ・メモを見て、二つの作例の書き方から選んで観察記録を書く。 ・P124を参考に、横書きのカードの書き方を知り、生活科の学習に生かす。 5 書いたものを友達と交流する。 ・交流しながら、友達の観点や書き方との共通点・相違点に気づく。 6 学習を振り返る。 ・いろいろな観点から観察することで、様子を詳しく記録できることを確かめる。
6月	おおきな かぶ 6時間（読⑥） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■ 物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。 ☆人との関わりで協力したり親切にしたりする題材（道徳） ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ICT活用）	1～3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて、内容の大体を捉える。 ・P76-77を見て、これからの学習に意欲をもつ。 ・教師の後にについて全文を音読する。 2 お話の設定と展開を捉える。 ・登場人物と増えていく順序を確かめる。 ・繰り返しの言葉や副詞に着目して読む。 ・繰り返しの面白さやリズムを楽しんで音読する。 3 グループで役を決めて登場人物になりきって音読する。 ・動作やせりふを考えて楽しむ。 4 登場人物になりきって劇遊びをする。 ・グループ内で互いのよさや改善点を助言し合いながら練習する。 5 音読や劇の発表をする。 6 学習の振り返りをする。 ・繰り返しや言葉の響きやリズムを楽しみながら、学習したことを確かめる。
7月	はをへを つかおう 3時間（書③） ◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うこと	1	1 P78の唱歌を、リズムに気をつけて読む。 ・教師の範読を聞いてから、いろいろな読み方で繰り返し音読する。 ・「は」「を」「へ」の読み方に注意する。

1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	かできる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 (思・判・表B(1)ウ) ■助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。	2 3	2 唱歌を視写する。 ・「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「へ」の使い方に注意する。 3 P79の文型に合わせて文を作り、発表し合う。
7月	すきな こと、なあに 7時間(話・聞③、書④) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 (思・判・表B(1)ウ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ■「好きなこと」を紹介する。 ☆好きなことを知らせる活動(生活科)	1～3 4～6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・教科書を見て、「好きなことをともだちにしようかいしょう」という学習課題を確認する。 2好きなことを、グループの友達に紹介する。 ・いちばん好きなことを選んで紹介の準備をする。 ・聞いたことについて、感想を言ったり理由を尋ねたりする。 ・理由を言うと、好きなことが相手によく伝わる。 3自分が好きなこととその理由を書く。 ・P82の作例を視写して、名前の書き方や始まりを1字下げて書くことを知る。 ・視写したものを参考にして、2文で書く。 ・主語と述語の関係や、句読点の打ち方、理由の書き表し方に注意する。 4 書いた文章を友達と読み合って、感想を交流する。
7月	おむすび ころりん 5時間(読⑤) ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■昔話を音読したり演じたりする。 ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り(ICT活用)	1～3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでに学んだ音読について、おもしろかったところを発表する。 ・「おおきな かぶ」での音読や劇遊びを思い出して、音読発表会をすることを知る。 2 全文について、教師の範読を聞く。 ・内容の感想を発表する。 ・繰り返しや言葉のリズム(七五調)に気づく。 3 お話の内容を捉える。 ・全体で音読練習をする。 ・挿絵を基に、場面の様子や「おじいさん」の行動を読む。 4 グループで音読の練習をする。 ・役割を決めて、役になりきって音読する。 ・音読に合わせて動作をつけて楽しんで演じる。 5 音読発表会を開く。 6 学習を振り返る。 ・他のグループの読み方でよかったところを伝えたり、自分たちのグループを振り返ったりする。
7月	こんな ことが あったよ 6時間(書⑥) ◎経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■出来事や経験を報告する文章を書く。	1～2 3～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・最近楽しかったことを思い出して発表し合う。 ・P92-93を見て、「たのしかったことを、ぶんしょうにかいてよみあおう」という学習課題を確認する。 2 P92の絵日記を参考に、書き方を知る。 ・文章に書く内容(したこと、見たこと、聞いたこと、思ったこと)を確認する。 3 経験したことを知らせる文章を書く。 ・伝えたい経験について、詳しく思い出す。 ・経験したことを絵に描く。 ・「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」等が分かるようにするとよいことを知る。 4 書いたものを読み合い、感想を交流する。 5 学習を振り返る。 ・自分の経験を文章で表し、友達に紹介したことを確認する。
7月	とじょかんと なかよし 2時間(知・技②) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ■図書館に行き、好きな本を選んで読書をする。	1～2	1 図書館に行って、読みたい本を見つける。 ・読みたい本の見つけ方を知る。(表紙や題名や本の中身を見る、司書の先生にきく等) 2 読みたい本を選んで読む。 ・おもしろいところや心に残るところを見つけながら読む。

1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	に楽しむ。 ☆好きな本を見ついたり、司書の方にかいたりする活動（図書館活用）		3 本を読み終わったら、P95を参考にして、読書記録をつける。
9月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。		
	こえを あわせて よもう 2時間（読②） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を音読する。 ☆好きな詩を探して読む活動の継続（図書館活用）	1 2	1 詩を声に出して読む。 ・リズムを感じながら元気に読む。 ・声の大きさ、速さ、読む人数などを変えて読 2 詩の様子を想像したり、音読して気づいたりしたことを話し合う。 3 工夫して音読する。 ・内容から想像したり感じたりしたことを、自分なりの読み方で読んで音読を楽しむ。 4 指導書付録C Dを聞き、「いちねんせいの うた」を歌う。
	みんなに しらせよう 2時間（話・聞②） ◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさと速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ■知らせたい内容を聞き合う。 ☆話の内容を補うために、端末で撮影した写真などを共有（ICT活用）	1 2	1 P98を見て、夏休みの経験を話す際の具体的なイメージをもつ。 2 夏休みの出来事を思い出して題材を決める。 3 知らせたいことの内容を考える。 ・P98を参考に、内容や話し方を考えて練習する。 ・視覚に訴えられるよう、写真や絵を用意してもよい。 4 発表のしかたを知る。 ・みんなが聞きやすい話し方（声の大きさや速さ）を考える。 ・P98の挿絵を参考に、集中して聞くことを確かめる。 5 夏休みの経験を発表して聞き合う。 ・伝えたいことを工夫して話す。 ・友達が知らせたい内容を聞き取り、質問や感想を伝える。 6 学習を振り返る。
	ことばを みつけよう 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■みんなで言葉遊びをする。	1 2	1 P100-101の表を見て、縦、横、斜めに隠れている言葉を見つける。 ・見つけた言葉をノートに書き、発表する。 2 自分で問題を作り、友達と出し合って楽しむ。
9月	おはなしを たのしもう やくそく 8時間（読⑧） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■お話を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。 ☆人との関わりや譲り合い等に関わる題材（道徳）	1 2～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・「やくそく」という題名から、連想することや自分の経験等を出し合って、お話に関心をもつ。 ・「おはなしのすきなところをみつけて、こえにだしてよもう」という学習課題を確認する。 2 教師の範読を聞いて、感想を発表する。 3 教材文を読み、内容を捉える。 ・題名と作者、登場人物を確認する。（P109で「さくしや」という言葉を知る。） ・登場人物の言動を押さえながら、お話の展開を整理する。 ・3匹のその後を想像して伝え合い、お話の余韻を楽しむ。 4 グループで場面を選んで、音読する。 ・音読したい場面を選ぶ。 ・場面の様子を想像し、3匹の「あおむし」や「木」になりきって役割読みをする。 ・グループの音読を聞き合って感想を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9月	かたかなを みつけよう 2時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。	1 2	1 片仮名を書く。 ・P110の唱え歌を音読し、その中から片仮名を見つけてノートに書く。 ・P111で、片仮名の長音、拗音、促音、濁音の書き方を確かめる。 2 身の回りから片仮名で書く言葉を探す。 ・探した言葉を、長音、拗音、促音、濁音に気をつけながら、ノートに書く。 ・P126-127の片仮名表を参考に、片仮名で書く言葉の入った簡単な文を書く。
9月	よんで たしかめよう		

1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	うみの かくれんぼ 8 時間（読⑧） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選出することができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 ☆自然に親しむ題材（道徳） ☆他の生き物の隠れ方を図鑑等で調べる活動（図書館活用）	1～2 3 4～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・「つぼみ」の学習で「問い」と「答え」の文があったことを思い出す。 ・P112-113の写真を見て、海にはたくさんの生き物がいることを経験や知識を基に話し合い、教材に興味をもつ。 ・「いきものがどんなかくれんぼをしているかをしらべて、ともだちにしらせよう」という学習課題を確認する。 2 教材文を読む。 ・最初の「問い」で問われていることを確かめる。 3 生き物の隠れる場所と隠れる方法を確かめる。 ・1 文目に海の生き物とその隠れ場所、2 文目に体の仕組みや機能、3 文目に隠れる方法という順序で書かれていることに気づく。 ・内容や構成について気づいたことを交流し、生き物ごとに、読み取ったことをカードにまとめて確かめる。 4 P117の図鑑や科学読み物等から、他の生き物の隠れ方を調べて友達と交流する。 ・興味をもった生き物について「1 なにが、どこに 2 かくれるためのからだのつくり 3 かくれんぼのしかた」を調べる。 ・調べて見つけたことを、順序を考えてカードに書く。 ・P112と同様の問いかけをしながら、友達と交流する。 5 学習を振り返る ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9 月	かずと かんじ 4 時間（知・技②、書②） ◎第 1 学年に配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■数え歌を書く。	1～3 4	1 教科書の数え歌をリズムカルに楽しく読む。 ・数に合わせて、子ブタの鳴き声を入れて読む。 2 数を表す漢字を練習する。 ・読み方が複数あることを知る。 3 身の回りにあるものを数えてノートに書く。 4 P120-121を参考に、折り紙、鉛筆、車などの数え歌を作って友達と読み合う。

評価規準
【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。 ((1)ア) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。(A(1)オ) 【態】進んで友達の話に関心を持ち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。
【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読み聞かせを楽しもうとしている。
【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。
【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。((1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。((3)ウ) 【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけてようとしている。
【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(A(1)ア) ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(A(1)ア) 【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。

評価規準
【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。
【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1)イ) 【態】進んで詩に描かれた様子を想像し、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A1)エ) 【態】興味をもって進んで友達の話聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとしている。
【知・技】 ・音節と文字との関係に気づいている。(1)イ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態】語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。
【知・技】 ・敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1)イ) 【態】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。
【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【態】積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つけようとしている。

評価規準
【知・技】平仮名を読み、書いている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。
【知・技】 ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。(1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) 【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。
【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ・平仮名を読み、書いている。(1)ウ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。

評価規準
【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。
【知・技】拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア) 【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。
【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。
【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)

評価規準
て、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) 【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。
【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 (1)ア) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。 (1)キ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 (A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。 (A(1)イ) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) 【態】粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。
【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (1)ク) ・昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。 (3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 (C(1)イ) 【態】進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 (1)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。 (B(1)オ) 【態】積極的に出来事や経験を思い出し、これまでの学習をいかして日記に書こうとしている。
【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 (3)エ) 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの学習をいかして本を選ぶようとしている。

評価規準
【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に友達の話の聞き、これまでの学習をいかして質問や感想を述べようとしている。
【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態】積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。
【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。
【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ) 【態】身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。

評価規準
【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。
【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ) 【態】積極的に教え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って教え歌を書こうとしている。

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
10月	おもいうかべながら よもう くじらぐも 8時間（知・技①、読⑦） ◎かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■読んで想像したことを伝え合う。	1～2 3～6 7～8	1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・題名から「くじらぐも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 教材文を読み、内容の大体を捉えて、様子を思い浮かべる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 ・様子を想像して、かぎ（「 」）のところをどのように音読するか考える。 4 読んで想像したことを伝え合って共有する。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 5 話した言葉を、かぎ（「 」）を使って書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
10月	まちがいを なおそう 2時間（書②） ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正すことができる。（思・判・表B(1)エ） ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（知・技(1)ウ） ■正しい表記で文章を書く。	1～2	1 これまでの学習を振り返る。 ・文章を読み返して間違いに気づいた経験や、日常的に文章を読み返す習慣がついているかを振り返る。 2 文章の中から表記の間違いを見つけて直す。 ・P19の文章例を読み、文字の間違いを直す。 ・友達と交換し、確認し合う。 ・「は」「へ」「を」を使って文章を書き、読み直す。 ・友達と交換し、確認し合う。
10月	くわしく かこう しらせたいな、見せたいな 10時間（書⑩） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■見つけたことを記録して伝える。 ☆動植物の観察記録文を書く活動（生活科） ☆知らせたい対象を端末で撮影（ICT活用）	1 2～3 4～8 9～10	1 学習の見通しをもつ。 ・P20を読み、「学校にいる生きものや、学校で見つけたものをよく見て、いえのひとにしらせる文しょうをかこう」という学習課題を確認する。 ・教材文を読んで学習の流れを確かめ、知らせたいものを考える。 2 家の人に知らせたいものを決め、絵や見つけたことをカードに記録する。 ・知らせたいものをよく見て、P21のカードを参考に、絵の周りに色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書く。 3 見つけた事柄を文章に書く。 ・P21のカードとP22の作例を比べ、見つけたことをどのように文章に表すのかを考える。 ・短冊カードを用意するなどして、見つけた事柄を一つずつ文にする。 ・カードを並べ替えながら文章の順序を考える。 ・考えた順序に沿って文章を書く。 4 文章を声に出して読み返す。 ・句読点や「は」「へ」「を」が正しく使えているか推敲する。 5 書いた文章を読んでもらう。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ・知らせたいことを伝える文章を書いて、家の人に読んでもらった感想をまとめる。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
10月	かん字の はなし 6時間（知・技③、書③） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■漢字を使った短文を書く。	1～2 3～4 5～6	1 教科書を読み、漢字の成り立ちを知る。 ・P24-25の挿絵を見て、何を表す絵が描いてあるかを確かめる。 ・絵と漢字を見比べて、漢字の成り立ちを知る。 2 教材文に出ている漢字の書き方を学び、書き順や字形に気をつけて練習する。 ・絵からできている漢字の意味を考える。 ・ある事柄を示す印からできている漢字の意味を考える。 3 例文にある絵を漢字に直し、ノートに視写する。 4 学習した漢字を使って、短文を作る。 ・作った文を友達と読み合い、交流する。 ・互いに読み合い、漢字や文の書き方に間違いがないかを確かめる。

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
			5 学習を振り返る。 ・漢字の成り立ちについて知ったことを振り返
10月 ～ 11月	ことばを たのしもう 2時間（知・技②） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩や早口言葉を楽しむ。 ☆他にもおもしろい発音の詩を探す活動（図書館活用）	1 2	1 濁音・半濁音・促音・撥音の入った詩のおもしろさを味わいながら声に出して読む。 2 早口言葉を調子よく、正確に唱える。 3 他にもおもしろい発音の詩などを探して、声に出して読み合う。
11月	せつめいする 文しょうを よもう じどう車くらべ 7時間（読⑦） ◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる。	1 2～5 6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・P30の挿絵を見て、それぞれの車がどんな仕事をするのか、そのためにどんなつくりになっているのか、考えを出し合う。 ・「いろいろな車のしごととつくりがどんなふうにしょうかいされているかかんがえながら、せつめいする文しょうをよもう」という学習課題を確認する。 2 教材文を読む。 ・文章全体の構造を捉える。（問いと答えの形式・三つの事例を挙げて説明） ・各事例の「しごと」と「つくり」を見分け、二つの事柄の順序や、「そのために」でつながっていることを押さえる。 ・事例を比べ、車の「つくり」は、「しごと」によって変わることを押さえる。 3 説明のしかたについて確かめる。 ・身近な自動車から順に登場していたことを押さえる。 4 はしご車の「しごと」とそのための「つくり」についてまとめる。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
11月	せつめいする 文しょうを かこう じどう車ずかんを つくろう 5時間（書⑤） ◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ■「じどう車しょうかいカード」を書く。 ☆自動車について書かれた図鑑等を選んで読む活動（図書館活用）	1 2～4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・教材「じどう車くらべ」の学びを思い出す。 ・一人一人が「じどう車しょうかいカード」を書き、「クラスでまとめて、じどう車ずかんをつくろう」という学習課題を確認する。 2 「じどう車しょうかいカード」を作る。 ・図鑑などで知った自動車の中から紹介したい自動車を選ぶ。 ・説明の観点に着目しながら、「しごと」と「つくり」をノートに書く。 ・カードに文章を清書し、できたら、挿絵用の絵や写真のコピーを添える。 3 カードを交換して読み合う。 ・友達の作ったカードを読み、感想を伝え合う。 ・クラスで図鑑としてまとめる際、どんな順番でページに並べるか話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
11月	かたかなを かこう 2時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■片仮名で書く言葉を集め、短文を書く。	1～2	1 身近なものの中で、片仮名で表記する語を出し合う。 2 教科書にある片仮名で書く言葉をノートに書く。 ・片仮名の長音・促音・拗音の表し方を確認する。 3 片仮名で書く言葉を集め、短文を作る。 4 作った短文を友達と交流する。
11月	ともだちと はなして、おはなしを かこう		

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	どんな おはなしが できるかな 6時間（話・聞②、書④） ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ○句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ■友達と話したことを基にして物語を作る。	1 2～3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・「どうぶつになったつもりでともだちとはなして、おはなしをつくろう」という学習課題を確認 2 P40-41の挿絵を参考に、登場人物を決める。 3 友達と役割を決めて、動物になったつもりで話をする。 ・友達と話したことをノートにメモする。 ・「たいせつ」で、友達の話を聞くときに気をつけることを確認する。 4 友達と話したことを基に、お話を考えて文にする。 ・P42を参考に、友達と話したことを会話の形にする。 5 書いたお話を読み合い、感想を交流する。 ・「たいせつ」で、交流の観点を確認する。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
11月 ～ 12月	すきな ところを 見つけよう たぬきの 糸車 8時間（読⑧） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の好きなところを見つけて、そのわけを話し合う。	1 2～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて好きなところを見つけ、文章に線を引く。 ・挿絵を手がかりに、内容の大体を捉える。 ・「すきなところとそのりゆうをみんなにしらせよう」という学習課題を確認する。 2 場面ごとに様子を思い浮かべる。 ・「たぬき」や「おかみさん」と同じ動作を試みる。 ・「たぬき」のしたことを確かめ、そのときの様子を思い浮かべる。 ・「おかみさん」の気持ちを想像する。 3 好きなところとそのわけを友達と話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
12月	日づけと よう日 3時間（知・技①、書②） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■唱え歌を作る。	1 2 3	1 日付歌を唱える。 ・日付歌に出てくる漢字の読み方を学び、日付歌を声に出して練習する。 ・日付歌に出てくる漢字の練習をする。 2 曜日歌を唱える。 ・曜日歌に出てくる漢字の読み方を学び、曜日歌を声に出して練習する。 ・曜日歌に出てくる漢字の練習をする。 3 自分の日付歌、曜日歌を作る。
12月	てがみを かこう てがみで しらせよう 6時間（書⑥） ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)エ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■伝えたいことを手紙に書く。 ☆お世話になった人に手紙を書く活動（生活科）	1 2 3～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・手紙を書いたり、もらったりした経験を出し合う。 ・教材文を読み、「うれしかったことやたのしかったことを、てがみにかいてしらせよう」とい 2 誰にどんなことを知らせたいか考える。 ・相手と書く題材を決め、必要な事柄を集める。 3 手紙を書く。 ・P58-59の作例を参考に、クラス全員で共通の相手に手紙を書く練習をする。 ・読み返して、書くときに気をつけることを意識して書いているかを確認する。 ・自分がいちばん知らせたい相手に手紙を書く。 4 学習の振り返りをする。 ・手紙を書いた感想を交流する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
12月	本は ともだち		

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	むかしばなしを よもう おかゆの おなべ 8時間（書④、読④） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■昔話を読み、感想を伝え合う。 ☆いろいろな昔話を選んで読む活動（図書館活用）	1～2 3～5 6～8	1 学習の見通しをもつ。 ・知っている昔話や読んでみたい昔話を出し合う。 ・P60-61を見て、「いろいろなむかしばなしをよんで、ともだちにしらせよう」という学習課題をたてる。 2 カードの書き方を学習する。 ・「おかゆの おなべ」を読む。 ・お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 ・P73を参考にカードの書き方を確認する。 3 読みたい昔話を選んで読み、カードを書く。 ・カードの書き方を再度確かめる。 4 友達のカードを読んで感想を伝え合う。 ・カードを読み、さらに物語を読んだり、カードに対する感想を書いたりする。 5 学習を振り返る。 ・昔話を読んで紹介カードを交流し合った学習から、学んだことや感じたことを振り返る。
1月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。 なりきって よもう 2時間（読②） ◎場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ☆お気に入りの詩を見つける活動（図書館活用） ☆工夫した読み方を端末で動画撮影し、友達と交流（ICT活用）	1～2	1 作者（かたつむり、にじ）の気持ちを想像しながら詩を音読する。 ・読む速度を変えたり、動作化したりして、いろいろな読み方を楽しむ。 2 詩集などからお気に入りの詩を選び、音読する。 ・声に出して詩集を読んだり、友達と気に入った詩を紹介し合ったりしながら、詩を選ぶ。 3 学習を振り返る。
	くわしく きこう 2時間（話・聞②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■紹介を聞いて、質疑応答する。 ☆紹介したい本を選ぶ活動（図書館活用） ☆話す練習を動画で撮影（ICT活用）	1～2	1 自分の好きな本を友達に紹介する。 ・教師の本の紹介を聞き、これからの学習に見通しをもつ。 ・どの本を友達に紹介するか決める。 ・知りたいことを考えながら聞き、もっと知りたいことを質問する。 2 学習を振り返る。 ・本を紹介し合う活動の振り返りをし、これからも友達と好きなものを紹介し合って、友達のことをもっとよく知っていくように促す。
	ことばで あそぼう 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ）	1～2	1 言葉遊びの仕組みを理解する。 ・P78-79を見て、言葉遊びのしかたを理解し、ノートに書く。 2 言葉遊びを楽しむ。 ・教科書を参考に自分で言葉遊びのルールを決め、言葉遊びの問題を作る。 3 問題を出し合う。 ・問題を出し合うことでさまざまなルールの言葉遊びを知り、継続して言葉遊びを続ける意欲をもつ。
1月	くらべて よもう どうぶつの 赤ちゃん 10時間（読⑩） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■書かれていることを比べて読む。 ☆他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読む活動（図書館活用）	1～2 3～6	1 学習の見通しをもつ。 ・いろいろな動物の赤ちゃんの写真を見て、動物の赤ちゃんへの興味・関心をもつ。 ・「どうぶつの赤ちゃんについて、かかれていることをくらべながらよもう」という学習課題を確認する。 2 教師の範読を聞く。 ・初めて知ったことや不思議に思ったことを話し合う。 3 ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子や成長を比べながら読み取る。 ・「生まれたばかりのようす」「大きくなっていくようす」を観点ごとにまとめる。 ・お母さんとの違いや、成長過程での親子のつながりについて確認する。 ・どのような違いがあるのか、気づいたことを発表する。

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
		7～10	4 他の動物の赤ちゃんについても違いを調べる。 ・P88-89の「もっと よもう」を読み、比べる観点を確認する。 ・他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読み、生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子で気づいた違いを発表し合う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
1 月	ことばって、おもしろいな ものの 名まえ 6 時間（知・技④、話・聞②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。（知・技(1)オ） ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ■尋ねたり、応答したりする。	1 2～3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・買い物をしたときの経験を出し合い、店での言葉のやり取りに関心をもつ。 ・P94-95を見て、「ものの名まえをあつめておみせやさんごっこをしよう」という学習課題を確認する。 2 教材文を読み、物の名前には上位語と下位語があることを理解する。 ・教材文に出てくる物の名前を上位語と下位語に整理してノートに書く。 ・身の回りの物の名前を集め、上位語と下位語に分けてノートにまとめる。 ・集めた言葉を発表し合う。 3 「おみせやさんごっこ」の準備をする。 ・2 で発表し合った身の回りの物の名前を参考にして、開きたいお店ごとにグループを作る。 ・上位語で看板やポスターを、下位語で品物カードを作る。 ・教科書を参考にして、グループごとに「お店の人」と「お客さん」の話し方を練習する。 4 「おみせやさんごっこ」をする。 ・「お店の人」と「お客さん」の言葉のやり取りを楽しむ。 5 学習を振り返る。
2 月	わらしべちょうじゃ 1 時間（読①） ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ○文章を読んで感じたことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■昔話の読み聞かせを聞く。 ☆我が国の文化や生活に親しみ愛着をもたせる題材（道徳） ☆いろいろな昔話を読む活動（図書館活用）	1	1 知っている昔話を出し合う。 2 教科書の挿絵を見ながら「わらしべちょうじゃ」の読み聞かせを聞く。 3 おもしろかったところや、気に入ったところについて友達と感想を伝え合う。 ・P126を参考に、読み聞かせやその他の楽しみ方について話し合ってもよい。
2 月	かたかなの かたち 3 時間（知・技②、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■片仮名の言葉を使って文を書く。	1 2～3	1 平仮名と形の似ている片仮名や、似た形の片仮名を区別して書く。 ・一字ずつ形を確認しながらノートに書く。 ・P139-140の「ひらがなと かたかな」を見て、他にも似ている形の字を探してノートに書く。 2 間違えやすい片仮名を練習する。 ・P99を見て、間違えやすい文字・長音・拗音の書き方を理解し、形に気をつけてノートに書く。 3 片仮名で書く言葉を集める。 ・見つけた片仮名の言葉を使って文を書く。 4 書いた文を発表し合う。
2 月	ことばあそびを つくろう 6 時間（知・技①、書⑤） ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■言葉遊びを作る。	1 2 3～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教材文を見て、「ことばクイズをつくって、みんなできあおう」という学習課題を理解する。 2 P100-101の□にあてはまる言葉を考える。 ・「いる」「ある」をヒントにして言葉を見つける。 3 「ことばクイズ」を作る。 ・（ ）の言葉の中に隠れている□の言葉を考える。 ・グループで相談し合う。 ・「いる」「ある」の使い分けに注意しながらクイズカードを作る。 4 クイズ大会をする。 ・グループごとにブースを作り、クイズを出し合う。 5 学習を振り返る。
2 月	ふたりで かんがえよう		

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	これは、なんでしょう 4 時間（話・聞④） ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■二人で相談し、考えをまとめる。	1 2～3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを把握する。 ・「ふたりでもんだいをかながえて、クイズたいかいをしよう」という学習課題を確認する。 2 二人組を作り、クイズの問題を考える。 ・問題にするものを決める。 ・決めたものの特徴（色や形、働き、様子など）をノートに書き出す。 3 問題の出し方を話し合う。 ・動画を見て問題の出し方を確かめ、話し合いのしかたを学ぶ。 ・書き出したことをどのような順番で言うのかを決め、練習する。 4 「これは、なんでしょう」クイズ大会をする。 ・二人組で出題したり、答えたりする。 ・解答者は、出題者の二人に問題の出し方について感想を伝える。 5 学習を振り返る。 ・二人で感想を出し合い、話し合うときにどのようなことが大切か、気づいたことを出し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
2月 ～ 3月	よんで かんじた ことを はなそう ずうっと、ずっと、大すきだよ 8 時間（読⑧） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■読んで感じたことを伝え合う。 ☆生命を尊重する心を育てる題材（道徳）	1 2 3～4 5～7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・家でペットを飼っている児童に、ペットとの関わりを紹介してもらう。 ・「おはなしをよんでかんじたことをはなそう」という学習課題を確認する。 2 お話を読んで思ったことを話す。 ・教師の範読を聞いて、「いいな」「すきだな」「どうしてかな」など、心に残ったことを出し合う。 ・出し合った感想をもとに、みんなで話し合いたいことを発表する。 3 お話の筋を押さえる。 ・「エルフ」がどんなふうにならなっていったか確かめる。 ・「ぼく」が、「エルフ」のことが大好きだと分かる場所を見つける。 4 学習計画に沿って話し合う。 ・2で決めた話し合いたいことについて、考えを出し合う。 ・「ぼく」が、なぜ「となりの子」から子犬をもらわなかったのかを、自分に引きつけて考える。 ・このお話を読んで、最も心に残ったことを友達と話す。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
3月	にて いる かん字 3 時間（知・技②、書①） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■似ている漢字を使って文を書く。	1 2 3	1 似ているところに気をつけて漢字を書く。 ・P120の漢字を見比べ、どこが似ているか出し合う。 ・似ているところと異なる場所を確かめながら書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。 2 書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。 3 漢字を使って文を作る。
3月	おもい出して かこう いい こと いっぱい、一年生 10時間（書⑩） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■経験したことを報告する文章を書く。 ☆生活を明るくする態度を育てる題材	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・写真やアルバムを見ながら1年間を振り返り、心に残っていることを話し合う。 ・教材文を読み、学習の手順を知る。 ・「おもいだして、『1年生のおもいで』をかこう」という学習課題を確認する。 2 1年間の出来事を振り返る。 ・P123を参考に、「がんばったこと」「できるようになったこと」などの観点から思い出す。 ・写真を見たり、家の人に聞いたりする。 3 書きたい事柄を選ぶ。 ・一つ一つの事柄を思い出し、書きたい内容を集めてメモを作る。

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	(道徳) ☆これまでの活動の様子の写真や動画を端末に保存している場合は、それらも参照 (I C T活用)	4～8 9～10	4 メモを基に、文章を書く。 ・ P124の作例を読み、書き方を考える。 ・ 順番を考えながらメモを並べ替え、文章にする。 5 推敲する。 ・ 句読点や文字の間違いを見直す。 ・ 内容の分かりにくいところはないか、読み直す。 6 書いたものをまとめて冊子を作る。 ・ 時間順に並べるなど、構成を工夫する。 7 冊子を読み合う。 ・ 友達の思い出についての感想や、書き方のよかったところを伝え合う。 ・ 家の人に読んでもらい、感想をもらう。 8 学習を振り返る。 ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 9 1年間の学習を振り返り、頑張ったことを思い出してP136の表彰状に書く。 ・ 1年生の初めに書いた字と比べ、自分の成長を確認する。

評価規準
【知・技】 ・かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。（B(1)エ） 【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。
【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。（B(1)ウ） 【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。
【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。

評価規準
【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。(1)イ ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ 【態】積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。
【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかきたいことを見つけようとしている。
【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見通しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。
【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとしている。

評価規準
【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（A(1)エ） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ） ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。（B(1)オ） 【態】物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。
【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） 【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。
【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱え歌を作ろうとしている。
【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（B(1)ウ） ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（B(1)エ） 【態】書いた文章を積極的には見直ししながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書こうとしている。

評価規準
【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。

【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。

【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に友達の話の聞き、学習の見通しをもって、質問や感想を述べようとしている。
--

【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。

【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】文章の内容を比べながら粘り強く読み、学習の見通しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。
--

評価規準
【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。(1)オ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【態】積極的に言葉の上位語と下位語に関心を持ち、学習の見通しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。
【知・技】昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。(C(1)カ) 【態】積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。
【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書こうとしている。
【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】身近なことを表す語句に積極的な関心を持ち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。

評価規準
【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【態】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。

【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】友達のかえや感想を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。

【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。(B(1)ウ) 【態】進んで漢字の形に注意し、これまでの学習をいかして楽しみながら文を書こうとしている。

【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える

評価規準

文章を書こうとしている。

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
4 月	じゅんばんに ならぼう 1 時間（話・聞①） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。（思・判・表A(1)エ） ■出された課題に応じて、声をかけ合いながら順番に並ぶ。	1	1 1 年間の国語の学習の見直しをもつ。 ・扉の詩を音読したり、目次やP5「こくごの学びを見わたそう」を見たりして、上巻の学習への期待感や見直しをもつ。 2 「じゅんばんにならぼう」のやり方を知る。 ・どんな順番で並ぶのか、説明をしっかりと聞いて理解する。 3 教師の話聞いて、実際に並ぶ。 ・何の順番で並ぶのか確認する。 ・自分の場所を見つけるためには、どのような声のかけ合いをすればよいか相談する。 4 正しい順番に並べたかを確認、感想を交流する。 ・「もっとたのしもう」を参考に、さらにさまざまな順番で並ぶことを楽しもう。
4 月	絵を見て かこう つづけて みよう 1 時間（書①） ○第 1 学年に配当されている漢字を文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵に描かれた様子を文章に書く。	1	1 絵を見て気づいたことを発表し合う。 2 絵から分かることを確かめる。 ・どこで ・どんな人が ・どんなことをしているか 3 どの部分の様子を書くかを決め、教科書の例文を参考にして文章にする。 ・1 年生で学習した漢字を使って書く。 4 友達と文章を読み合って感想を伝える。 5 P18「つづけてみよう」を読み、年間を通してひと言日記に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。
4 月	どんな おはなしかを たしかめて、音読しよう ふきのとう 9 時間（読⑨） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■音読を聞き合い、感想を伝え合う。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆音読の様子を撮影し、見せ合う活動（ICT 活用）	1～2 3～5 6 7～8 9	1 学習の見直しをもつ。 ・P19を見て、どのような物語かを想像する。 ・音読して「おもしろいな。」と思ったところを見つけ、友達と比べる。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 お話の大体を考えながら繰り返し音読する。 3 登場人物とその行動について確かめる。 4 「ふきのとう」が顔を出せた理由や、会話文の音読のしかたについて考える。 5 おもしろいと思ったところを、様子が伝わるように音読し、互いに聞き合い、感想を伝え合う。 6 グループで役割に分かれて音読発表を行い、感想を交流する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
4 月	図書館たんけん 1 時間（知・技①） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■図書館の本の並べ方の決まりや工夫を見つけ、発表する。 ☆図書館で読みたい本を探し、本の分類を学ぶ教材（図書館活用） ☆書架の様子や本の並べ方の撮影（ICT 活用）	1	1 図書館の本の並べ方の決まりや工夫を見つけるとい学習課題をもつ。 2 図書館探検に行く。 ・本はどのような工夫をして並べてあるのか、各自で見て回り、気づいたことを共有する。 ・P34「読みたい本をさがすときは」を確認する。 3 P35で提示された本や、各自で見つけたい本を決めて、どこにあるのか予想して探す。 4 学習を振り返る。 ・自分の読みたい本を探すときに気をつけることをまとめて発表し合う。
4 月	春が いっぱい 2 時間（書②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりし	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「はなが さいた」の詩を読む。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた春を感じるものをカードに書く。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 ・見つけたときに感じたこと。

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	て伝えたいことを明確にすることができる。 （思・判・表B(1)ア） ■春を感じるものを見つけ、自分の感想を添えた、春のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆春らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動（音楽） ☆春を感じるものの撮影（ICT活用）		4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。
4 月	思い出して 書こう 日記を 書こう 4 時間（書④） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。 （思・判・表B(1)ア） ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。 （知・技(1)ア） ■身近な出来事を日記に書く。 ☆学校生活や家庭生活、身近な自然や季節の行事などに目を向けさせる題材（特別活動、生活科）	1 2 3 4	1 P18「つづけてみよう」で書いてきたひと言日記を紹介し合うなどして、学習の見通しをもつ。 2 日記例を基に、日記の書き方を確認する。 ・日付、曜日、天気 ・したこと（いつ・誰が・誰と・何を・どうした） ・見たこと、見つけたもの ・言ったこと、聞いたこと ・思ったこと 3 昨日のことやひと言日記から題材を決め、思い出したことを書き出す。 4 出来事の順序を思い出して日記を書く。 5 書いた日記を読み合い、学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
4 月 ～ 5 月	だいじな ことを おとさないように 聞こう ともだちは どこかな 【コラム】声の 出し方に 気を つけよう 5 時間（話・聞⑤） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 （知・技(2)ア） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。 （思・判・表A(1)エ） ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■目的に応じて大事なことをメモしながら聞き取る。 ☆必要なことについて、身近な人と連絡し合う活動（学校生活）	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・音声聞いて、絵の中から「ゆかさん」を探す。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 絵を見てどんな人がいるかを話し合う。 ・手がかりになりそうな言葉や事柄の予想を立てる。 3 話を聞くときに大事なことを考える。 4 絵の中から子どもを選んで友達と探し合う。 ・P44コラム「声の出し方に気をつけよう」を参考に、分かりやすい話し方を練習する。 ・グループで相互に探し合いをする。探し役はメモを見せ合って協力してもよい。 5 探しやすい話し方や聞き方、メモの取り方を発表し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・P44のコラムで音の高さによる言葉の意味の違いを理解する。
5 月	じゅんじょに 気を つけて 読もう たんぼぼの ちえ 【じょうほう】じゅんじょ 10 時間（知・技①、読⑨） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■植物の知恵について書かれている文章を読み、感想を書く。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科）	1～2 3 4～5 6～7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・P45を見て、文章の内容を想像したり、たんぼぼについて知っていることを出し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 たんぼぼの知恵が幾つあるかを考えながら音読する。 ・知恵が幾つあるかを数えることで、何を知恵と確かめる。 3 たんぼぼが、いつどんな知恵を働かせているのかを捉える。 ・順序を表す言葉に着目して、たんぼぼの知恵を確かめる。 4 たんぼぼの知恵にはどんなわけがあるのか、文末表現に注意して読み取る。 5 感心したたんぼぼの知恵を選び、なぜそう思ったのか自分の考えを書く。 ・書いたものを友達と読み合い、同じだと思ったことを伝え合う。

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
		9～10	6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 7 P55「じゅんじょ」を読み、説明するときの順序の種類や、効果を確認する。 ・身の回りの出来事や自分の行動などを、順序を考えながら話す。
5月	ていねいに かんさつして、きろくしよう かんさつ名人に なるう 10時間（書⑩） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■観察したことを記録する文章を書く。 ☆育てている動植物を観察し、分かったことなどを記録する活動（生活科） ☆身近な動植物の変化や成長の様子への関心を育む題材（道徳、生活科） ☆観察するものを撮影して記録する活動（ICT活用）	1 2～8 9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・生き物や植物を育てた経験を振り返り、友達と話し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 観察するものを決め、見つけたことや気づいたことをメモして、書く順序を考える。 ・P57「かんさつするときは」を参考にする。 ・観察して見つけたことや気づいたことを、メモを基に友達と尋ね合い、記録しておきたいことをどんな順序で書くか考える。 3 メモを基に観察記録文を書く。 ・P59、60の作例を参考に観察記録文のイメージをもつとともに、記録文を書くときに必要なことを整理する。 ・読む人に伝わるように、書くこととその順序を再度確認したり、P60「かんさつしたことを書くときのことば」を参考にしたりする。 4 書いた文章を友達と読み合い、よいところやよく分かる書き方について伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
6月	いなばの 白うさぎ 2時間（知・技②） ◎神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ■神話の読み聞かせを聞き、感想を伝え合う。 ☆郷土への愛着を養う題材（道徳） ☆昔話や神話の本を図書館で探して読む活動（図書館活用）	1 2	1 これまでに読んだり聞いたりした神話や昔話を紹介し合い、教材文に興味をもつ。 2 挿絵からお話の内容を想像し、読み聞かせを聞く。 3 登場人物や出来事、お話の結末を確認し合い、おもしろかったことを伝え合う。 4 P64「この本、読もう」を参考に、図書館で自分の住む地方に伝わる昔話や神話を探して読む。
6月	同じ ぶぶんを もつ かん字 2時間（知・技②） ◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 P65のイラストを基に、漢字の同じ部分を探し、漢字の意味やつながりについて、考えたことや思ったことを出し合う。 2 P66の例文を音読したり視写したりして、同じ部分を見つけ、つながりを考える。 3 P154「これまでにならったかん字」を活用し、同じ部分をもつ漢字を探す。
6月	お話を 読み、すきな ところを つたえよう スイミー 9時間（読⑨） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ■物語を読み、好きな場面について伝え合う。	1～2 3～4 5～7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・P67を見て、どのような物語かを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文を読み、五つの場面を確認する。 ・それぞれの場面の出来事を確認する。 3 言葉に着目して場面の様子を思い浮かべる。 ・スイミーがしたことや見たもの、思ったことを表す言葉を見つけながら読む。 ・たとえを使った描写のおもしろさを想像しながら読む。 ・それぞれの場面でのスイミーの様子が伝わるように、音読する。 4 好きな場面とその理由を書き、友達と伝え合う。 ・伝え合うときは、P79の「話し方のれい」を参考にする。

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
		9	5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
6 月	かん字の ひろば① 2 時間（書②） ◎第 1 学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵を説明する文を書く。	1～2	1 P154「これまでにあったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P81の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って、島の様子を表す文を書く。 3 書いた文を友達と読み合う。
6 月	【じょうほう】メモをとるとき 3 時間（書③） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、事柄の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ☆気づいたことや分かったことをメモする活動（生活科、学校生活）	1 2～3	1 学習の見通しをもつ。 ・メモの必要性、有効性について経験を出し合う。 2 P83の例を基に、メモを取るときに気をつけることを確認する。 3 実際に、学校のことを家の人などに知らせるためのメモを取る。 ・自分で読み返す。 ・書いたメモを友達と見せ合い、お互いのよいところを伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・メモを取るときに気をつけたいことをまとめ
6 月 ～ 7 月	組み立てを 考えて 書き、知らせよう こんな もの、見つけたよ 【コラム】丸、点、かぎ 10 時間（書⑩） ◎句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ■自分が見つけた「いいな」と思うものを友達に伝える文章を書く。 ☆身近な地域の特色や行事、施設などに目を向けさせる題材（生活科） ☆見つけたものを撮影する活動（ICT 活用）	1 2～4 5～6 7～9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・生活科の町探検などで見つけたものを共有し、いいなと思ったものを話し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P85のメモ例を参考に、見つけたものや尋ねて分かったことなどをメモにする。 ・P82「メモをとるとき」の学習内容を活用する。 ・メモを見直して、見つけたもののよさを伝えるのに必要なことを付け加える。 3 メモを基に、文章の組み立てを考える。 ・P86の組み立て例や、「組み立てを考えるときは」を参考に、「はじめ」「中」「おわり」にそれぞれ何を書くかを考える。 ・P163の「図をつかって考えよう」を活用し、順序を入れ替えながら確認する。 4 組み立てメモを基に文章を書き、読み返して推敲する。 ・P89コラム「丸、点、かぎ」を参考に、書いたものを読み返し、間違いなどを正す。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・初めて知ったことや分かりやすかったところなどを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
7 月	あいての考えを引き出す しつもんをしよう あったらいいな、こんなもの 7 時間（話・聞⑦） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア）	1 2 3～5	1 学習の見通しをもつ。 ・あったらいいなと思うものを考える。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 あったらいいなと思うものを考えて、絵に描く。 ・描いた絵に簡単な説明をメモしておくとい。 3 友達がどんなものを考えているのか、詳しく知るための質問のしかたを考える。 ・P92「しつもんをするときは」や動画を参考に、どんなことを質問すれば効果的か考える。

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	■質問をし合うことを通して考えをまとめる。	6～7	4 友達と質問し合って詳しく考える。 ・働きや作りについて質問されて答えたことは、自分の絵に付け加えておく。 5 考えたものをグループで発表し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
7 月	夏がいっぱい 2 時間（書②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏を感じるものを見つけ、自分の感想を添えた、夏のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆夏らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動（音楽） ☆夏を感じるものの撮影（I C T活用）	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「みんな」の詩を読む。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた夏を感じるものをカードに書く。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 ・見つけたときに感じたこと。 4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。
7 月	本はともだち お気に入りの本をしょうかいしよう ミリーのすてきなぼうし 6 時間（読⑥） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■お気に入りの本を紹介し合う。 ☆お気に入りの本を探す活動（図書館活用）	1 2 3～4 5～6	1 学習の見通しをもつ。 ・「お気に入りの本をしょうかいしよう」という学習課題を知り、学習の進め方を確認する。 ・読書カードなどを使ってこれまでの読書生活を振り返り、どんな本が好きかを考える。 2 友達に紹介したい本を選ぶ。 ・学校図書館などで、実際に本を見ながら選ぶ。 3 紹介メモの書き方を確かめる。 ・「ミリーのすてきなぼうし」を読む。 ・「ミリーのすてきなぼうし」を紹介するメモ（P99）を参考に、書き方を確かめる。 4 自分の選んだ本で紹介メモを書く。 5 P100の紹介例を参考に、友達と本を紹介し合う。 6 学習を振り返る。 ・「読書にしたいしむために」で、本の読み方を押さえる。
9 月	雨のうた 2 時間（読②） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○詩を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■様子を想像しながら音読して、詩を楽しむ。	1 2	1 雨のイメージを出し合い、音を想像する。 2 詩を音読し、好きなところについて話し合う。 3好きなところのよさが伝わるように、詩を音読する。 4 友達の音読について、よかったところを伝え合う。
9 月	ことばでみちあんない 3 時間（話・聞③） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ■友達と道案内をし合う。	1 2 3	1 P116の「みどりさん」の道案内のしかたについて考える。 ・分かりにくいところとその理由を話し合う。 ・自分だったらどんな言葉を使って案内するかを考え、分かりやすい説明のポイントを見つける。 ・友達の案内を聞いて地図をたどってみる。案内役を交代して何回か試す。 2 グループで道案内をする。 ・実際の場所を目的地にして、道案内をしてみてもよい。 3 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9 月	みの回りのものを読もう 2 時間（読②） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)エ）	1	1 P118の写真や絵を見て、身の回りにある標識や看板、ちらしなどの媒体を思い出す。 2 ㊦から㊧それぞれの写真に写ったものが何を伝えしているかを考える。

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	リ) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■身の回りの情報を集めて整理する。 ☆町探検(生活科) ☆見つけたものの撮影(ICT活用)	2	3 それぞれの工夫を見つける。 ・情報を迅速・的確に伝えるためという観点からの工夫にも気づくようにする。 4 身の回りの標識や看板などを探して、何を伝えているかを考える。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9月	書いたら、見直そう 2時間(書②) ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)	1 2	1 普段の生活を振り返り、書いたものを見直すことの大切さを実感する。 2 P120の「はやしさんが、はじめに書いた手紙」を読んで、間違いや分かりにくいところを個々に探 3 P121の書き直した手紙を見て、直したところを確かめる。 4 P121下段の文章を書き直す。 ・書いたものを見直す習慣をつける。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確認める。
9月	かん字のひろば② 2時間(書②) ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■絵の言葉を使って、日記を書くように文章を書く。	1～2	1 P154「これまでにあったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P122の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って1週間の日記を書く。 3 書いた文を友達と読み合う。
9月	読んで考えたことを 話そう どうぶつ園のじゅうい 10時間(読⑩) ◎文の中における主語と述語の関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ■説明的な文章を読んで、考えたことを話す。 ☆働くことの価値や意味を理解する精神や、身近な動物に優しい心で接する態度を養う題材(道徳、生活科)	1～2 3～4 5～7 8～9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・P123を見て、動物園や獣医について知っていることや知りたいことを出し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文の内容を表に整理してまとめる。 ・いつ、どんな仕事をしているか確かめる。 3 筆者の仕事について、読み深める。 ・その仕事をする理由や工夫を見つける。 ・毎日することと、この日だけにしたことを分けて捉え、違いについて話し合う。 4 読んで、気づいたことや考えたことをまとめる。 ・獣医の仕事について自分の知識や体験と比べ、発見したことや驚いたこと、もっと知りたいことなどをまとめる。 5 書いたものを発表し、感想を伝え合う。 ・まとめたものをグループで共有し、いろいろな気づきや考え方があることを知る。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
9月	かたかなのひろば 2時間(書②) ◎片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■絵の中の言葉を使って、文を作る。	1 2	1 P135の絵の中の片仮名で書かれた言葉を読む。1年生で習った片仮名の書き方の復習をする。 2 絵や「れい」を見ながら、片仮名を使った言葉を考え、文を作る。
9月	ことばあそびをしよう 2時間(知・技②) ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ■言葉遊びを楽しむ。	1 2	1 これまでにしたことのある言葉遊びを思い出し、言葉を楽しむ学習のイメージをもつ。 2 「数え歌」「ことばあそび歌」を声に出して読む。 ・徐々に声を大きくしながら読んだり、速さを変 3 「いろは歌」を音読し、リズムを楽しむ。 4 「いろはがた」や地域に伝わるかるたなどを用いて、かるた遊びをする。

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
10月	なかまのことばとかん字 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 P138-139の言葉を使って、仲間の言葉と漢字を確かめる。 2 グループで仲間の言葉を集め、言葉の仲間分けクイズを作るなどして交流する。 ・漢字を使って書けるものは、漢字を使う。
10月	かん字のひろば③ 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵を説明する文を書く。	1～2	1 P154「これまでにあったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P140の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って小学校の様子を文に書く。 ・文を作る際、「は」や「を」が正しく使えているかを確認する。 3 書いた文や文章を友達と読み合う。

評価規準

【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。
 (1)ア)
 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。(A(1)エ)
 【態】自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き取り、学習課題に沿って声をかけ合い、正しい順番で並ぼうとしている。

【知・技】第1学年に配当されている漢字を文章の中で使っている。(1)エ)
 【思・判・表】
 ・「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)
 ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)
 【態】絵の中から進んで書くことを見つけ、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。

【知・技】
 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ)
 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)
 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)
 【態】場面の様子を表す言葉を手がかりに粘り強く物語の内容を確かめ、これまでの学習をいかして音読を工夫し、感想を伝え合おうとしている。

【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)
 【態】積極的に図書館の配架や本の並べ方を学び、学習課題に沿って自分の読みたい本を探そうとしている。

【知・技】
 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)
 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)
 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしてい

評価規準

る。(B(1)ア)

【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。

【知・技】言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア)

【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】進んで経験したことなどから伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。

【知・技】

・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ)

・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】

・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)

・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A(1)エ)

【態】自分にとって必要なことを集中して粘り強く聞き取り、これまでの学習をいかして簡潔にメモしようとしている。

【知・技】

・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)

・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】

・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア)

・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)

【態】粘り強く時間的な順序を考えて内容を捉え、学習の見通しをもって読んだ文章の感想を書こうとしている。

評価規準

【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】書くために必要な事柄を進んで集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、これまでの学習をいかして観察記録文を書こうとしている。

【知・技】神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア)

【態】進んで神話の読み聞かせを聞き、これまでの学習をいかして感想を伝え合おうとしている。

【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字の読み書きに取り組み、学習課題に沿って、同じ部分をもつ漢字を見つけようとしている。

【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】

・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)

・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)

【態】粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。

評価規準

【知・技】
・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ)
・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)
【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)
【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。

【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)
【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)
【態】積極的に必要な事柄を集め、これまでの学習をいかして知らせたいことをメモに取ろうとしている。

【知・技】句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ)
【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)
【態】事柄の順序に沿った構成を粘り強く考え、学習の見通しをもって、読み手に分かりやすく伝える文章を書こうとしている。

【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)
【思・判・表】
・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(A(1)ア)
・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)

評価規準

【態】話し手が知らせたいことを落とさないように粘り強く聞き、学習課題に沿って質問をし合って考えをまとめようとしている。

【知・技】
・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)
・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B1)ア)

【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。

【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)

【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ)

【態】進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。

【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ)

【態】粘り強く語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読し、これまでの学習をいかして詩を楽しんで読もうとしている。

【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】
・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A1)イ)

・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A1)エ)

【態】話す事柄の順序を粘り強く考え、学習課題に沿って相手を目的地に導く道案内をしようとしている。

【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)

【思・判・表】

評価規準

・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)

・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)

【態】積極的に身の回りのものから重要な情報を読み取り、学習課題に沿って、考えを交流しようとしている。

【知・技】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ)

【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)

【態】進んで文章を読み返し、学習課題に沿って間違いなどを正そうとしている。

【知・技】第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)

【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして日記を書こうとしている。

【知・技】

・文の中における主語と述語の関係に気づいている。(1)カ)

・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】

・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア)

・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)

【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、これまでの学習をいかして、文章を読んで考えたことを友達と話そうとしている。

【知・技】片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ)

【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

【態】進んで片仮名を使って書く語を見つけ、学習課題に沿って文を書こうとしている。

【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ)

【態】進んで、言葉の豊かさに気づき、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。

評価規準

【知・技】

・第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。((1)エ)

・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。

((1)オ)

【態】進んで、言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って仲間の言葉を集めようとしている。

【知・技】

・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ)

・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)

【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文章を書こうとしている。

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
10月	自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう お手紙 (読⑫) 12時間 (読⑫) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語を読み、登場人物に向けて手紙を書く。 ☆同じシリーズの本を図書館で探して読む活動(図書館活用)	1～2 3～5 6～8 9～10 11～12	1 扉の詩を音読したり、目次やP5「国語の学びを見わたそう」を見たりして、下巻の学習への期待感をもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・P13を見て、登場人物に何が起こるかを考える。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 教材文を読み、物語の大体を捉える。 ・各場面での登場人物の様子や行動を、言葉や挿絵を手がかりにしてつかむ。 4 登場人物の行動の理由、発言の様子や考えていることを、言葉や挿絵を手がかりにして推測する。 ・「がまくん」がどのように、「ああ。」「いいお手紙だ。」と言ったのか、「がまくん」になりきって音読する。 5 それぞれの登場人物を自分と比べて考える。 ・自分だったら、何をしたり、言ったりするか。 ・自分だったら、どう思うか。 6 「がまくん」か「かえるくん」のどちらかの登場人物を選んで、手紙を書く。 7 友達と手紙を読み合い、交流する。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
10月	主語と述語に 気をつけよう 2時間 (知・技②) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)	1 2	1 「といをもとう」を基に、絵の男の子がどのように言えばよかったのかを話し合う。 ・主語と述語の役割を知る。 ・例文や「お手紙」を基に、主語と述語の定義を確認する。 2 P30の課題に取り組む。 ・いろいろな文の主語と述語を見つける。 3 最近の出来事について主語と述語を意識して話したり書いたりし、友達と交流する。 4 「いかそう」を基に学習を振り返る。
10月	かん字の読み方 2時間 (知・技②) ◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1 2	1 例文を読んで、一つの漢字でも複数の読み方があることを知る。 ・「九」を「八」に、「日」を「月」に変えるなどして確認するとよい。 2 P32の「上」と「下」の読み方を確認する。 ・多くの読み方がある「上」「下」が含まれる文を音読したり視写したりする。 3 送り仮名についてその役割を知る。 ・P33の課題に取り組む。 ・他にも複数の送り仮名がある漢字を探し、漢字に対する理解や興味を深める。
10月	秋がいっぱい 2時間 (書②) ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■秋を感じる言葉や詩を見つけ、自分の感想を添えた、秋のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材(道徳、生活科) ☆秋の風情が感じられる曲や歌を楽しんだり、景色を描いたりする活動(音楽・図工) ☆秋を感じるものの撮影(ICT活用)	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「やま」の詩を読む。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた秋を感じるものをカードに書く。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。
10月 ～ 11月	みんなで話をつなげよう そうだんにのってください 8時間 (話・聞⑧) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(1)イ)	1	1 学習の見通しをもつ。 ・友達と相談してよかったことを出し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	る。(知・技(2)ア) ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■グループで相談する。 ☆互いの困りごとを解決するために協力する題材(学級活動、生活科) ☆話し合いの様子を撮影し、自分や相手の話し方を見返す活動(ICT活用)	2～3 4～7 8	2 話題を決める。 ・友達に相談してみたいことを、P37を参考に出し合う。 ・話し合いで解決できそうな相談事を選ぶ。 3 話し合いの進め方を確かめる。 ・P38の「話し合いをすすめるときは」や動画資料を参考にする。 4 グループで話し合う。 ・P38-39の話し合いの例を参考にして、話し合うときに気をつけるとよいことを考える。 ・順番に相談者になって話し合う。 ・「みんなで話し合うときは」を参考にする。 ・「話をつなげるときのことば」を意識して使う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
11月	せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう 紙コップ花火の作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう 14時間(書⑧、読⑥) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ■おもちゃの作り方を説明する文章を読み、それをいかして書く。 ☆おもちゃを作る活動(図工・生活科) ☆説明するおもちゃの写真の撮影(ICT活用)	1～2 3～5 6 7 8～10 11～12 13 14	1 学習の見通しをもつ。 ・P41を見て、自分が作ったことのあるおもちゃや、紙コップ花火はどのように作るのか、予想して話し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文を読んで、文章がどんなまとまりに分かれているかを確かめて、紙コップ花火を作る。 3 紙コップ花火を作るときに気をつけた言葉を交流する。 4 それぞれの写真が、文章のどの部分と合わせて読むとよいかを確かめる。 5 分かりやすく説明するための筆者の工夫を確かめ、自分が使ってみたい工夫は何かを考える。 6 筆者の説明の工夫を交流し、学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 7 P48「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習のめあてを確かめる。 8 説明するおもちゃを決める。実際におもちゃを作るなどして、説明に必要な情報を集める。 9 文章全体の組み立てと、どんな順序で説明するかを考える。 10 おもちゃの作り方を説明する文章を書く。 ・P50の作例から工夫しているところを見つけ、それを参考に言葉を考えて書く。 11 友達どうしでお互いの説明を読み、感想を交流する。 12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
11月	にたいみのことば、はんたいのいみのことば 2時間(知・技②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	1 2	1 「といをもとう」を基に、意味が似ている言葉や、意味が反対の言葉を出し合う。 2 似た意味の言葉について理解し、P52の課題に取り組み、似た意味の言葉を集める。 3 反対の意味の言葉について理解し、P53の課題に取り組み、反対の意味の言葉を集める。 4 似た意味の言葉や、反対の意味の言葉の組を作り、友達と見せ合う。 ・P165「ことばのたからばこ」を参考にしてもよい。
11月	せかいーの話 1時間(読①) ◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■昔話の読み聞かせを聞き、おもしろいと思うところを伝え合う。	1	1 題名や挿絵から、どんなお話なのかを想像する。 2 挿絵でお話の筋を追いながら、読み聞かせを聞いて 3 いちばんおもしろいと思ったところを友達と伝え合う。
11月	かん字のひろば④ 2時間(書②)	1～2	1 P158「これまでにならったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■数を表す言葉を使って、算数の問題を作って書く。 ☆足し算や引き算の問題作り (算数)		2 P56の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って、算数の問題を作る。 ・問題の書き方を確かめる。 ・「は」「へ」「を」や句読点の使い方に気をつける。 ・数詞の存在に気づき、それを用いて書く。 3 作った問題を友達と読み合う。
11月 ～ 12月	思いうかべたことをもとに、お話をしようかしよう みきのたからもの 10時間 (読⑩) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ■物語を読み、あらすじをまとめて紹介する文章を書く。 ☆教科書で紹介されている本を参考に、楽しく読める本を図書館で探して読む活動 (図書館活用)	1～2 3～4 5～7 8 9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・P57を見て、カードの持ち主や「みき」の宝物は何かを予想する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文を読み、あらすじをまとめる。 ・誰が何をしたか、どんな出来事が起こったかを確かめる。 ・登場人物の様子や行動を、言葉や挿絵を手がかりにして捉える。 3 P70「①ことば」を手がかりに、登場人物の行動について、その理由や言い方、様子を想像したり考えたりする。 4 P71の文章例を参考に、家の人に「みきのたからもの」を紹介する文章を書く。 ・あらすじと、自分が好きなところとその理由が伝わるように書く。 5 書いた文章を友達と読み合い、いいなと思うところを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
12月	組み立てを考えて、お話を書こう お話のさくしゃになろう 10時間 (書⑩) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ■絵から想像を広げて物語を書く。	1 2～3 4～5 6～8 9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・これまで学習してきた物語教材を振り返ったり、自分が好きなお話のあらすじを友達に紹介したりする。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教科書の絵を見て、どんな出来事が起こるかを考えて書き出す。 ・P75の絵や「お話を考えるときは」を参考に、考えたお話を、まとまりに分けて友達に話す。 ・「組み立てのれい」を見て、まねしてみたいと思うところを考える。 ・P76「組み立てを考えるときは」を参考に、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりで考える。 ・P77「友だちの考えたお話を聞いたときは」を参考に、友達どうしてアドバイスし合う。 4 友達のアドバイスをいかして、お話を書く。 ・P78下段を参考に、声に出して読んでみる。その際、P29「主語と述語に気をつけよう」で学んだことをいかす。 ・最後に題名をつける。 5 できたお話を読み合って、おもしろいところや、言葉の使い方などで気づいたことなどを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
12月	冬がいっぱい 2時間 (書②) ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことなどから書くことを見つ	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「ゆき」の詩を読んだり、歌ったりして楽しむ。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた冬を感じるものをカードに書く。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬を感じる言葉や詩を見つけ、自分の感想を添えた、冬のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材(道徳、生活科) ☆冬の季節感が感じられる曲や歌を楽しむ活動(音楽) ☆冬を感じるものの撮影(ICT活用)		4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。 ・これまでに書きためたカードを読み合ってもよい。
1 月	ねこのこ おとのなびら はんだいことば 2 時間(読②) ◎詩を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■詩を楽しんで読み、お気に入りの詩をカードに書いて交流する。 ☆友達に贈る詩を図書館で探す活動(図書館活用)	1 2	1 詩の多様な楽しみ方を見つけるという学習課題を確認する。 2 様子を思い浮かべたり、言葉の響きを楽しんだりしながら詩を読み、いいなと思う書き方を見つけ 3 友達に贈る詩を図書館などで探す。 4 詩と、その詩を選んだ理由をカードに書き、贈り合う。
1 月	かたかなで書くことば 2 時間(書②) ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■絵と対応する文を書く。	1 2	1 「といをもとう」を基に、普段の生活でどのように平仮名と片仮名を使い分けているのか、違いを 2 片仮名で表記する言葉の種類を知り、種類ごとに言葉集めをする。 3 P85の絵の中の言葉を確認し、それらを使った文を作り、友達とレストランの様子を説明し合う。
1 月	ことばを楽しもう 1 時間(知・技①) ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ■言葉遊びを楽しむ。	1	1 これまでに経験した言葉遊びを思い出す。 2 折句の作り方を理解し、五十音や、自分の名前の頭文字などを入れた文を作る。 3 回文のおもしろさを知り、簡単な文を作ってみる。
1 月	だいじなことに気をつけて読み、分かったことを知らせよう ロボット 12 時間(読⑫) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ■ロボットについて説明する文章を読み、考えたことを伝え合う。 ☆ロボットを紹介している本を、図書館で探して読む活動(図書館活用) ☆ロボットについてのインターネット検索(ICT活用)	1～2 3～7 8～9 10～11 12	1 学習の見通しをもつ。 ・P87を見て、文章の内容を想像したり、見たことのあるロボットについて出し合ったりする。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立て 2 ロボットについてどのようなことを説明しているのかを確認する。 3 ロボットがどんなときに何をして助けてくれるのか、大事な言葉に着目して考える。 ・大事だと思う言葉を見つけてノートに書く。 4 P97「もっと読もう」と併せて読み、他にどんなロボットがあったらいいか、自分の考えとその理由を書き、友達と交流する。 5 ロボットについて書かれた本を読む。 ・P96「この本、読もう」を参考にする。 6 あったら助かると思うロボットを選び、P95「②本を読んで、せつめいする」を参考にしながら友達に説明する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
1 月	ことばについて考えよう ようすをあらわすことば 4 時間(知・技①、書③) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文の中で使うことで、語彙を豊かに	1～2	1 学習の見通しをもつ。 ・P98を読み、「といをもとう」を基に、ロボロボが雨の様子を、友達にどのように伝えればよかったかを考える。

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	することが出来る。(知・技(1)オ) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■様子を表す言葉を使って文を書く。	3 4	2 雨の様子を詳しく伝えるにはどんな言い方をすればよいか考える。 ・様子を表す言葉には、いろいろな種類があることを理解する。 3 様子を表す言葉や比喩を使って、P101の絵を表す文を書く。 4 書いた文を友達と読み合い、表現のしかたのよさを伝え合う。 5 学習を振り返る。
1月 ～ 2月	詩を作って、読み合おう 見たこと、かんじたこと 6時間(書⑥) ◎詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ■経験したことを基に詩を書いて、読み合う。	1 2 3～4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・詩を作って、読み合うという学習課題を確認する。 ・教科書の二つの詩を読み、題材や書き方のよいところを見つける。 2 詩の題材を見つける。 ・P102「詩に書くことを考えるときは」を参考に題材を探し、カードやノートに書く。 ・心が動いたことで、詩になりそうな題材を選ぶ。 3 これまでに学習した詩のよいと思う表現のしかたを思い出して、詩を書く。 ・P98「ようすをあらわすことば」やP165「ことばのたからばこ」などから、読む人にそのときの様子や気持ちが伝わる言葉を選ぶ。 4 書いた詩を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。 ・友達の感想を基に自分の詩を読み直し、自分の詩の表現のよいところを考える。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
2月	カンジーはかせの大はつめい 2時間(知・技②) ◎第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。(知・技(1)エ)	1～2	1 漢字を合体させる機械の仕組みを理解し、設問に取り組む。 2 弓矢の問題の解き方を理解し、設問に取り組む。 3 グループごとに漢字クイズを作って楽しむ。
2月	思いをつたえる手紙を書こう すてきなところをつたえよう 10時間(書⑩) ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■友達に手紙を書いて届ける。 ☆よりよい人間関係を築くのに資する題材(生活科・道徳)	1 2～3 4～5 6～8 9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・さまざまな場面での友達との関わりを振り返り、すてきだと感じたときのことを思い出す。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 1年間を振り返り、友達に伝えたいことを決める。 ・伝えたい人を決め、さまざまな関わりを思い出してメモする。 ・メモしたことの中からいちばん伝えたいことを手紙に書くことを、まとまりごとに確かめる。 ・P108の作例を読み、気づいたことや書き方のよさを話し合う。 ・P109「思いをつたえる手紙を書くときは」を参考に、手紙の組み立てを考える。 4 手紙を書き、間違いや分かりにくいところはないか読み返す。 ・誤字・脱字はないか。 ・習った漢字は使えているか。 ・「は」「へ」「を」は、正しく書けているか。 ・主語と述語は対応しているか。 ・伝えたいことが分かりやすく書かれているか。 ・丁寧な言葉で書いているか。 5 書いた手紙を交換し合い、返事を書いて相手に渡す。 ・返事は、P110のカードを参考に、手紙の内容に学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
2月 ～	読んで、かんじたことをつたえ合おう		

2 年下卷

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
3月	スーホの白い馬 14時間（読⑭） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読み、最も心を動かされたことについて、感想を交流する。 ☆世界の文化や風土などに親しむ題材（道徳）	1～2 3～10 11～13 14	1 学習の見通しをもつ。 ・P111を見て、「スーホ」と「白い馬」の関係进行想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文を読み、場所、登場人物、主な出来事を確かめ、あらすじをつかむ。 3 言葉を手がかりに登場人物の行動の様子や心情を想像する。 ・P129「えらんで読みふかめよう」の中から読み深める観点を決めて考える。 ・同じ観点で考えた友達と比べる。 ・他の観点で考えた友達の意見を聞き合う。 4 このお話でいちばん心を動かされた場面とその理由を書く。 5 書いたことをグループで話し合って感想を交流する。 ・P129「話し方のれい」や、P165「ことばのたからばこ」を参考にする。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
3月	かん字の広場⑤ 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ・語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵の様子を説明する文を書く。	1～2	1 P158「これまでにになったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P131の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って公園の様子を文に書く。 ・主語と述語のつながりに気をつける。 3 書いた文を友達と読み合う。
3月	組み立てを考えて、はっぴょうしよう 楽しかったよ、二年生 8時間（話・聞⑧） ◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うことができる。（知・技(1)キ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■心に残ったことを発表する。 ☆1年間の生活を振り返り、心に残った経験などを紹介する活動（特別活動・生活科） ☆1年間を振り返り、自分の成長を実感させる題材（生活科） ☆練習時の様子の撮影（ICT活用）	1 2～3 4～6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・写真や学年だより、作った作品などを基に、2年生の4月から3月までの出来事を思い出す。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 1年間の学校生活を振り返り、話すことを決める。 ・たくさんの思い出の中から、いちばん伝えたい話題を選ぶ。 ・したこと、思ったこと、友達が言ったことなど、どんな順番で話せばよく伝わるかを考えて、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで発表メモを作る。 3 発表の組み立てを考えて原稿を書く。 ・P134の組み立て例を参考に組み立て方を含め、どんな順序で話せばよく伝わるかを考えて、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで発表メモを作る。 4 発表のしかたを考えて練習する。 ・話すときの姿勢や視線 ・声の大きさや話す速さ 5 グループの中で発表する。 ・心に残ったことやよかったところを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
3 月	二年生をふりかえって 1 時間（書①） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■ 1 年間の国語の学習活動を振り返って書く。	1	1 1 年間の学びを振り返り、がんばったことや、できるようになったこと、分かるようになったこと、楽しかったことを確かめる。 ・ P138 「『たいせつ』のまとめ」を参考にする。 ・ 教科書の空欄に、振り返って思ったことや考えたことを丁寧に書く。 ・ 書いたものを友達と見せ合い、思ったことを伝え合う。

評価規準

【知・技】

- ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)
- ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)

【思・判・表】

- ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(1)エ)
- ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(1)オ)

【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。

【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)

【態】積極的に、主語と述語の関係に気づき、学習課題に沿って文中から主語と述語を捉えようとしている。

【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読んでいるとともに、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【態】進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字の異なる読み方に気をつけて読もうとしている。

【知・技】

- ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)
- ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(1)ア)

【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。

【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】

「書くこと」に関する評価規準

評価規準

・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)
 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)
【態】積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。

【知・技】
 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)
 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)
【思・判・表】
 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)
 ・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア)
 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)
【態】進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもっておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ)
【態】進んで言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って、似た意味の言葉や反対の意味の言葉の組を作ろうとしている。

【知・技】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア)
【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)
【態】進んで昔話の読み聞かせを聞いて伝統的な言語文化に親しみ、これまでの学習をいかして、おもしろいと思うことを共有しようとしている。

【知・技】第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使ってい

評価規準

る。(1)エ)
【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)
【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。

【知・技】
 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)
 ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)
【思・判・表】
 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)
 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)
【態】登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習の見通しをもってお話を紹介する文章を書こうとしている。

【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)
【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)
【態】事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿って物語を書こうとしている。

【知・技】
 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)
 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)
【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめ

評価規準

たりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。

【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで、感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)

【態】詩を読んで感じたことを進んで共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。

【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。(1)ウ)

【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

【態】積極的に、片仮名で書く語の種類を知り、これまでの学習をいかして、片仮名を使って文を書こうとして

【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ)

【態】積極的に、言葉の豊かさに気づき、学習課題に沿って言葉遊びを楽しもうとしている。

【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)

【思・判・表】

・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)

・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)

【態】文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。

【知・技】

・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア)

・身近なことを表す語句の量を増し、

評価規準

話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。

(B(1)ウ)

【態】進んで身近なことを表す語句の量を増やして語彙を豊かにし、学習課題に沿って、様子を表す言葉を使って文を書こうとしている。

【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)

【態】進んで感想を伝え合い、これまでの学習をいかして詩を書き、読み合おうとしている。

【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。(1)エ)

【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりし、これまでの学習をいかして漢字クイズに取り組もうとしている。

【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ)

【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。

(B(1)ウ)

【態】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。

評価規準

【知・技】

- ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ)
- ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】

- ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)
- ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)

【態】文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し、学習課題に沿って、最も心を動かされたことを伝え合おうとしている。

【知・技】

- ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)
- ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ)

【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。

【知・技】

- ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ)
- ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。(1)キ)

【思・判・表】

- ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ)
- ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)

【態】行動したことや経験したことに基づいて話す事柄の順序を粘り強く考え、これまでの学習をいかして発表しようとしている。

評価規準

【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア)

【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】進んで、経験したことなどから書くために必要な事柄を集めたり確かめたりし、これまでの学習をいかして、1年間の振り返りを書こうとしている。

3 年上 巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
4 月	よく聞いて、じこしょうかい 1 時間（話・聞①） ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ■自己紹介をする。 ☆楽しい学級づくり（特別活動）	1	1 扉の詩を読み、目次やP5「国語の学びを見わたそう」を見て、国語学習の見通しをもつとともに、学習の進め方を確かめる。 2 P13を読み、3 年生の国語学習での目標や楽しみなことを書く。 3 P14-15を読んで活動の流れを確かめ、自分の「好きなもの」を一つ考えて、前の人の話を繰り返ししながら、順番に紹介し合う。 4 友達の好きなものを聞いた感想を伝え合う。
4 月	どきん 1 時間（読①） ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩を楽しんで音読する。	1	1 「どきん」を読み、詩の特徴を確認する。 2 言葉の調子を楽しみながら、音読の練習をする。 ・行末の擬声語や擬態語に注意する。 ・強弱をつけたり、身振りを交えたりして読む。 3 音読を聞き合い、読み方を工夫したところを伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・音読をして感じた楽しさをノートに書く。 ・「この本、読もう」で、詩集を読み広げることに関心をもつ。
4 月	わたしのさいこうの一日 つづけてみよう 1 時間（書①） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■日記を書く。	1	1 「さいこうの一日」の日記を書くことを確認し、したいことや起こってほしいことを書き出す。 2 「さいこうの一日」の日記を書く。 3 書いた日記を読み合い、感想を伝え合う。 4 P20「つづけてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。
4 月	登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつたえ合おう 春風をたどって 8 時間（読⑧） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ■読んで想像したことを伝え合う。 ☆自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすることを育てる題材（道徳）	1 2～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・P21を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立て 2 四つの場面での「ルウ」の行動を確かめながら音読する。 3 「ルウ」の気持ちが分かる言葉を見つけ、ノートに書く。 ・P32「言葉に着目しよう」を参考にして、「ルウ」の気持ちが分かる言葉をまとめる。 4 「ルウ」の気持ちの変化を具体的に想像し、ノートにまとめる。 5 物語の続きを想像し、ノートに書く。 6 友達の書いたものを読み、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
4 月	図書館たんていだん 1 時間（知・技①） ◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■図書館の地図を作り、本を探す。 ☆図書館の配架を知る活動（図書館活用）	1	1 P35の写真を参考にして、学校図書館の工夫を考える。 2 P36を読み、図書館では内容ごとに本が分類され並べられていることを知る。 3 学校図書館に行き、本の分類を理解する。 ・グループで学校図書館の地図を作り、棚ごとにどのような種類の本があるのかを調べる。 ・読みたい本や必要な本を、紹介コーナーや棚の番号などで探す。 ・読書記録のつけ方を知る。
4 月	国語辞典を使おう 2 時間（知・技②） ◎辞書の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ☆考えをまとめる活動などの漢字の確かめ（総合的な学習の時間など）	1～2	1 国語辞典を使うときについて考える。 ・「問いをもとう」を基に、どのようなときに国語辞典を使うのかを考える。 2 国語辞典の見方を理解する。 ・国語辞典を開いたり、P38の二次元コードを参考にしたりして、「国語辞典のれい」の内容を確か

3 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
			3 見出し語の見つけ方を理解する。 ・国語辞典では、どのような決まりで言葉が示されているかを知る。 4 言葉の意味を調べる。 ・P40の設問に取り組み、示されているいろいろな語を辞書で引く。 ・調べて分かった意味をノートにまとめる。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。
4 月	漢字の広場① 2 時間（書②） ◎第 2 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する 2 P41を見て、動物や人の様子や、行動について説明する。 3 提示されている漢字を使って、動物園の様子を文に書く。 4 書いた文を友達と読み合う。
4 月	春のくらし 2 時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■春を感じたことについて、文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆春を感じたものの撮影（ICT活用）	1 2	1 「みどり」を読み、生活の中で春らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた春を感じたものについて書 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。
5 月	知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう もっと知りたい、友だちのこと 【コラム】きちんとつたえるために 6 時間（話・聞⑥） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。 ☆友達の新たな一面やよさを知る活動（特別活動、道徳）	1 2 3 4～6	1 学習の見通しをもつ。 ・友達のことを知るために、グループになって話を聞き合う方法を知る。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 友達に知らせたいことを決めて、ノートに書く。 ・友達に知らせたいことを箇条書きでノートに書き、その中から一つに決める。 3 話の聞き方や質問のしかたについて確かめる。 ・P45「しつものしゅるい」を参考にして、質問の種類や話の聞き方を整理する。 4 友達の話を聞いて、質問する。 ・P46の二次元コードから、聞き方や質問のしかたのよいところを考える。 ・聞き手は、話の中心に気をつけて聞き、自分が特に知りたいことをはっきりさせ、質問を考える。 ・大事なことを落とさないように質問したり、答えたりする。その際、P48「きちんとつたえるために」を参考にしてよい。 5 どのような質問で話が広がったり、友達のことがよく分かったりしたかを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。その際、P148「インタビュー」を参考にしてもよい。
5 月	漢字の音と訓 2 時間（知・技②） ◎第 3 学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 漢字の「音」と「訓」の特徴を理解する。 ・P150「これまでに習った漢字」を使うなどして、既習の漢字の音と訓を確かめる。 2 音と訓の使い分けを練習する。 ・P51の設問に取り組む。
5 月	漢字の広場② 2 時間（書②） ◎第 2 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する 2 P52を見て、宝物を探しに出かけた男の子の話を簡単に考える。 3 「そこで」「けれども」など接続詞の使い方を確認する。 4 提示されている漢字を使って、文を書く。

3 年上卷

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	ことができる。(知・技(1)カ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		5 書いた文を友達と読み合う。
5月	まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう 文様 こまを楽しむ 【じょうほう】全体と中心 8時間(知・技①、読⑦) ◎全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ) ■説明する文章を読み、感想を伝え合う。 ☆伝統や文化を知り、歴史を愛する題材(道德)	1～2 3～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・P53を見て、文様やこまについて知っていることを発表し合う。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「文様」の構成を捉える。 ・P160を参考に「問い」と「段落」の意味を理解する。 ・「問い」に書かれていることを確かめる。 ・「問い」の「答え」に当たる部分はどこかを考えながら音読する。 ・文章全体の「まとめ」にあたる段落を確かめる。 3 「こまを楽しむ」の構成を捉える。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習のめあてを確かめる。 ・文章の中の「問い」を二つに分けて、ノートに書く。 ・段落に番号を付けて、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに分ける。その際、P65「全体と中心」を参考にするとよい。 ・「中」に書かれている「問い」に対する「答え」を確かめ、ノートに整理する。 ・「中」には、「答え」の他にどのようなことが書かれているかを確かめ、そのことが書かれている理由を考える。 ・「おわり」に書かれていることを確かめ、その役割を考える。 4 遊んでみたいこまについて、ノートにまとめる。 ・六つのこまの中から、いちばん遊んでみたいこまとその理由をノートに書く。 5 いちばん遊んでみたいこまについて、グループで話し合う。 ・友達の感想との共通点や相違点など、気づいたことをノートに書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
6月	相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう 気持ちをこめて、「来てください」 4時間(書④) ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ) ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■行事を案内する手紙を書く。 ☆時と場に応じた適切な手紙を書く活動(社会、総合的な学習の時間)	1 2～3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・運動会や学習発表会などの、誰かに見に来てほしい行事や、手紙を送りたい相手を想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 手紙を送る相手を決め、伝えることをメモに整理する。 ・日時、場所、行事の説明、気持ちなど、行事を案内するときに何を書くときよいかを考える。 3 P68「土川さんの手紙」を読み、手紙の組み立てを確かめる。 4 組み立てに沿って手紙を書き、読み返す。 ・P68「あんないの手紙を読みかえすときは」を参考にして文章を整える。 ・書き終わったら、声に出して読み返し、確かめる。 5 手紙を届ける。 ・郵便で送る場合は、住所と宛名を書く。その際、P147「手紙を送ろう」を参考にするとよい。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
6月	漢字の広場③	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認す

3 年上 巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		2 P70を見て、日曜日の出来事と家の人の今週の予定を簡単に考える。 3 提示されている漢字や時を表す言葉を使って、文を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。
6月	登場人物のへんかに気をつけて読み、好きな場面について話し合おう まいごのかぎ 6時間（読⑥） ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■物語を読んで、好きな場面について話し合う。	1 2～4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P71を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立て 2 「まいごのかぎ」を場面に分ける。 ・場所や出来事に気をつけて読み、場面分けする。 ・各場面での出来事や、そのときの「りいこ」の物語の最初と最後で「りいこ」にどのような変化があったのかを考える。 ・「りいこ」の言動を表す言葉に着目して、不思議な出来事に対する「りいこ」の考え方や気持ちをまとめる。 4 好きな場面とその理由をノートに書く。 ・「りいこ」の変化との関わりを考えながら、ノートにまとめる。 5 好きな場面を友達と伝え合い、自分の考えとの共通点や相違点を話し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
6月	俳句を楽しもう 1時間（知・技①） ◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■俳句を音読する。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆五音と七音を組み合わせた詩などを探す活動（図書館活用）	1	1 俳句の決まりを知る。 ・俳句は、「5・7・5」の17音で作られていることや季語があることを確認する。 2 俳句を声に出して読む。 ・どこで区切るかを考えたり、音のリズムを確認したりして、言葉の響きや調子を楽しむ。 ・P92の二次元コードから音声を聞くのもよい。 3 気に入った俳句を音読したり暗唱したりする。 4 P93を読み、身の回りの五音と七音を組み合わせた詩や歌を探す。 5 探した詩や歌を友達と見せ合う。
6月	こそあど言葉を使いこなそう 2時間（知・技②） ◎指示する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）	1～2	1 「こそあど言葉」を知る。 ・「問いをもとう」を基に、生活の中でうまく伝わらなかったことを想起する。 ・「こそあど言葉」には、相手との距離や目的などによって、使い分けがあることを理解する。 ・P95の設問1に取り組む。 2 「こそあど言葉」を使うことで、文をより簡潔に表現できるようになることを理解する。 3 P95の設問2・3に取り組み、「こそあど言葉」が指す語句を考えたり、短い文章を作ったりする。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。
6月	【じょうほう】引用するとき 3時間（知・技①、書②） ◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。 ☆調べたことを文章にまとめる活動（社会など）	1～3	1 「引用」を知る。 ・P96を参考に、本などから調べたことを報告する際は、自分の考えと区別しなくてはならないことを理解する。その際、P160「学習に用いる言葉」を確認する。 2 「引用」の決まりを理解する。 ・文章の中で引用する際の決まりを確認する。 ・出典の示し方を理解し、それが奥付にまとめられていることを知る。 3 P56「こまを楽しむ」から引用して、興味をもったこまとその遊び方を紹介する文章を書き、友達と読み合う。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。
7月	つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書こう		

3 年上卷

[illegible]

3 年上卷

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	を話し合う。		5 学習を振り返る。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
9月	こんな係がクラスにほしい 3時間（話・聞③） ◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。（思・判・表A(1)ア） ■グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ☆係活動における話し合い（特別活動）	1～2 3	1 クラスの係活動を振り返り、新しく作りたい係を考える。 ・思いついた係や仕事を付箋に書き出す。 2 グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ・理由と目的を出し合い、質問するなどして考えを広げる。 ・目的や仕事内容に分けて付箋に書き、話し合ったことを整理する。 3 グループで話し合ったことを発表する。 ・それぞれのグループの発表を聞いて、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9月	ポスターを読もう 2時間（読②） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ■ポスターを読み比べて、考えたことを伝え合う。	1 2	1 身の回りには、どのようなポスターがあるのかを想起する。 2 P124「ポスターのれい」を見て、工夫しているところを話し合う。 ・「キャッチコピー」について、P160「学習に用いる言葉」で確認するとよい。 3 P126-127の(ア)(イ)のポスターを比べて読む。 ・どちらのポスターのほうがお祭りに行きたくなるか、理由とともに友達と話し合う。 ・二つのポスターを比べて、共通点や相違点をノートに整理する。その際、整理のしかたはP163「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。 ・ポスターが作られた目的や知らせたい相手を考えて、なぜ相違点があるのかを話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9月	書くことを考えるときは 2時間（書②） ◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏休みの思い出を書く。	1～2	1 図を使って考えを広げることを知る。 ・中心にテーマを書き、線でつなぎながら考えを広げる。 2 書くことを選ぶ。 ・相手や目的を意識して書くことを選ぶ。 3 選んだことを基に文章に書く。 4 文章を友達と読み合う。 ・図を見ながら、どのようにして書くことを選んだのかを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。
9月	漢字の組み立て 3時間（知・技③） ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。（知・技(3)ウ）	1～3	1 「へん」「つくり」を知る。 ・P130を参考に、2枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P131の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。 2 「へん」「つくり」以外の漢字の組み立てを知る。 ・P132を参考に、2枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P133の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。
9月	ローマ字 4時間（知・技④） ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。（知・技(1)ウ） ☆ローマ字入力（ICT活用）	1～3 4	1 P138の写真を参考に、身の回りにあるローマ字表記を想起する。 2 P137のローマ字表を見ながら、ローマ字表記について知る。 ・ローマ字表の見方、書き表し方の決まり、ローマ字入力について理解する。 ・P135の設問に取り組む。 3 ローマ字入力に取り組む。 ・P134の設問に取り組む。 ・好きな言葉などをローマ字で入力する。

評価規準

【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ

【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。(A(1)エ)

【態】積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介をしようとしている。

【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)

【態】積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしている。

【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ)

【思・判・表】

- ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)
- ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

【態】経験したことや想像したことなどから書くことを進んで選び、学習課題に沿って日記を書こうとしている。

.....

【知・技】

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)
- ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ)

【態】進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。

【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)

【態】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。

【知・技】辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ)

【態】進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。

評価規準

【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。

(B(1)エ)

【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。

【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。

【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ)

【思・判・表】

・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(A(1)ア)

・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっていく。(A(1)エ)

【態】粘り強く話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。

【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ)

【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿ってよりよく漢字を学ぼうとしている。

【知・技】

・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

・接続する語句の役割について理解している。(1)カ)

【思・判・表】「書くこと」において、

評価規準	
【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 (B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。	
..... 【知・技】 ・段落の役割について理解している。 (1)カ) ・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) 【態】進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。	
..... 【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(1)キ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 (B(1)エ) 【態】粘り強く、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整え、学習の見通しをもって行事を案内する手紙を書こうとしている。	
【知・技】第2学年までに配当されて	

評価規準
いる漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 (B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (C(1)エ) 【態】登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。
【知・技】易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読しようとしている。
【知・技】指示する語句の役割について理解している。(1)カ) 【態】積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。
【知・技】引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】書くことにおいて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。

評価規準	
	【知・技】 ・改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(1)ウ) ・段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって調べたことを報告する文章を書こうとしている。
	【知・技】語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。
	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を讀んで思ったことや感じた

評価規準
たことを話し合おうとしている。
【知・技】考えとそれを支える理由や事例について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見通しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめようとしている。
【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】粘り強く集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って夏休みの思い出を書こうとしている。
【知・技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(3)ウ 【態】漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて粘り強く理解し、学習課題に沿って漢字の構成を捉えようとしている。
【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ 【態】進んでローマ字で表記されたものを読み、学習課題に沿ってローマ字で書いたり入力したりしようとしている。

3 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
9月 ～ 10月	場面をくらべながら読み、感想を書こう ちいちゃんのかげおくり 10時間（読⑩） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読み、感想をまとめる。 ☆戦争や平和について考え、平和を願う心を養う題材（道徳）	1～2 3～7 8～9 10	1 扉の詩を音読したり、P5「国語の学びを見わたそう」を見たりして、下巻の学習を見通す。 2 学習の見通しをもつ。 ・P13を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立て 3 第1場面と第4場面の「かげおくり」の様子を比べ、共通点や相違点を確認する。 ・二つの「かげおくり」の間には、どのような出来事があったかを考える。 4 第1場面から第4場面までの「ちいちゃん」の気持ちの変化を想像する。 ・行動や様子を表す言葉から、「ちいちゃん」の気持ちを想像する。 5 第5場面があることで、どんなことが分かるかを第4場面までと比べて考える。 6 「ちいちゃんのかげおくり」を読んで感じたことを、理由とともに文章にまとめる。 ・P29「まとめ方のれい」を参考にして、場面を比べて読んだり、詳しく読んだりして感じたことを、ノートに書く。 ・P165「言葉のたから箱」を参考にするとよい。 7 友達と感想を読み合う。 ・感じ方の共通点や相違点について交流する。 8 学習を振り返る。 ・初発の感想と比べて、どのような読みの変容があったかを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・単元で身につけた力をいかして、P144「メロディー大すきなわたしのピアノ」を読むことを確かめる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ
10月	修飾語を使って書こう 2時間（知・技②） ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。（知・技(1)オ）	1～2	1 修飾語の働きを知る。 ・「問いをもとう」を基に、文が分かりにくい理由を考える。 ・主語と述語について、既習の内容を確認する。 ・修飾語によって、文の内容が詳しくなることを理解する。 2 修飾語について、理解していることを確かめる。 ・P33の設問に取り組む。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかにしたい場面を考える。
10月	秋のくらし 2時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■秋を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆秋を感じたものの撮影（ICT活用）	1 2	1 「虫の声」を読み、生活の中で秋らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた秋を感じたものについて、ノートに書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。
10月	進行にそって、はんで話し合おう おすすめのーさつを決めよう 8時間（話・問⑧） ◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ◎目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)）	1～2 3～4	1 学習の見通しをもつ。 ・1年生から依頼があり、班ごとに楽しい本を決めて紹介するという設定を確認する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 目的と決めることを確かめ、紹介したい本とその理由を付箋に書く。 3 役割を決め、進め方を確かめる。 ・司会、記録、計時などの役割があることを確認する。 ・P37「進め方のれい」を参考にして、話し合いの進め方をノートに書く。

3 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	ア) ■グループで役割を決めて話し合い、考えをまとめる。 ☆インタビューによって調査する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆おすすめの本を選ぶ活動（図書館活用）	5～7 8	4 話し合いのしかたを確認する。 ・P38の二次元コードで話し合いの例を見て、話し合いのしかたを知る。 ・P38-41を見ながら、司会と参加者が気をつけることを確認する。 5 本を1冊に決めるために、グループで話し合う。 ・自分の役割を意識して、意見と理由を明確にしながら話し合いを進める。 6 学習を振り返る。 ・話し合いのしかたでよかったところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
11月	れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう すがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます 12時間（書⑥、読⑥） ◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く。 ☆食育に関わる題材（総合的な学習の時間） ☆食べ物について書かれた本を探す活動（図書館活用）	1 2～3 4～6 7～9 10～11 12	1 学習の見通しをもつ。 ・P43を見て、大豆について知っていることなどを話し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 文章全体の組み立てに着目して内容を捉える。 ・「はじめ」「中」「終わり」に分け、文章の話題を確かめる。 ・筆者が「中」で挙げている具体例を、表などにしてノートに整理する。 3 「はじめ」に「問い」を入れるとしたら、どのような「問い」を入れるかを考える。 4 「中」の書かれ方について考える。 ・それぞれの段落の中心となる文に線を引く。 ・どのような順序で事例が挙げられているのかを捉える。 5 筆者の説明の工夫をまとめ、考えを交流する。 ・文章全体の組み立てと各段落の組み立て、言葉の使い方、写真の使い方などに着目する。 6 P51の食べ物について書かれた本を読み、感想をまとめて友達に伝える。 ・初めて知ったことや説明のしかたなどの観点から感想をもつ。 7 学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 ・P52「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習のめあてを確かめる。 8 取り上げる材料について、調べて整理する。 ・P53「調べたことを整理するときは」を参考にして、調べたことを図や表にして整理する。 9 文章の組み立てと例の書き方を考える。 ・P53「組み立てを考えるときは」を参考にして、段落や事例の順序などを考える。 10 説明する文章を書く。 ・考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。 11 友達と感想を伝え合う。 ・書き方と内容の両面から、文章のよいところを伝え合う。 12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
11月	ことわざ・故事成語 4時間（知・技②、書②） ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うことができる。（知・技(3)イ） ○目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■ことわざの意味を調べ、ことわざ辞典を作る。	1～2 3～4	1 知っていることわざや故事成語を出し合い、関心をもつ。 2 ことわざや故事成語について知る。 ・P57のことわざの意味を調べる。 ・P58の故事成語の意味や由来を調べたり、P152「知ると楽しい『故事成語』」を読んで故事成語への関心を広げたりする。 3 グループでことわざ辞典を作る。 ・好きなことわざを選び、意味と文例をカードに書く。 ・どのような順でとじるかを話し合う。 ・できあがったことわざ辞典を読み合い、感想を伝え合う。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。

3 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
11月	漢字の意味 2 時間（知・技②） ◎漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）	1～2	1 同じ発音でも、意味が違えば使われる漢字が違うことを知る。 ・漢字と仮名を交ぜて書くことで、意味が分かりやすくなることを理解する。 2 設問に取り組み、漢字を正しく使い分けて書く。 3 P154「これまでに習った漢字」から、同じ読み方で意味の異なる漢字を見つけ、短文を作る。
11月	短歌を楽しもう 1 時間（知・技①） ◎易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1	1 短歌について知る。 ・短歌は「5・7・5・7・7」の31音で作られていることや、情景や心情が込められていることなどを確認する。 2 言葉の調子や響きを楽しみながら、声に出して繰り返し読む。 ・P63の二次元コードから、音声を聞くのもよい。 3 気に入った短歌を暗唱する。
11月	漢字の広場④ 2 時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する 2 P64の絵を見て、町の様子を説明する。 3 提示されている漢字を使って、町の様子を説明する文を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。
12月	登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしようかいしょう 三年とうげ 6 時間（読⑥） ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○引用のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■民話や昔話を紹介する。 ☆世界の文化に対する興味・関心を促し、その理解を図る題材（道徳、総合的な学習の時間） ☆民話や昔話を探す活動（図書館活用）	1 2～3 4 5～6	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでに読んだ民話や昔話を想起し、どんなところがおもしろかったかを伝え合う。 ・P65を見て、どのような内容の民話かを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・並行読書を行う場合は、P77「この本、読もう」なども参考にし、学校図書館などで民話や昔話の 2 「三年とうげ」の内容や書かれ方を確かめる。 ・設定、登場人物、出来事、展開、登場人物の行動や気持ちなどの観点から内容をまとめる。 3 「おじいさん」の変化を捉える。 ・行動や様子を表す言葉に着目し、ノートにまとめる。 4 「三年とうげ」のおもしろいところをノートに書く。 ・出来事、登場人物の行動や気持ち、考え方、言 5 民話を選んで読み、紹介する文章を書く。 ・おもしろいところを引用しながら、民話を紹介する文章を書く。 6 書いた文章を読み合い、感想を交流する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
12月	しょうかいする文章を書き、感想をつたえ合おう わたしの町のよいところ 10 時間（書⑩） ◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけすることができる。（思・判・表B(1)オ） ○考えとそれを支える理由について理解することができる。（知・技(2)ア） ■町のよさを紹介する文章を書く。 ☆身近な地域を観察・調査する題材（社会） ☆文章に適切な写真の撮影（ICT活用）	1 2～3 4～5 6～8 9～10	1 学習の見通しをもつ。 ・自分が住む町には、どのようなものがあるかを想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 紹介するものを決める。 ・紹介したいものとその理由を図を使って書き出し、書くことを選ぶ。 3 組み立てを考える。 ・P83「水野さんの組み立てメモ」を参考にして、どのような順序で書くかを考える。 4 紹介する文章を書く。 ・P84「水野さんが書いた、しょうかいする文章」を読み、紹介する文章を書くときのポイントを確認する。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・内容と書き方の両面から感想を伝え合い、自分の文章のよい点を考える。

3 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
			6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
12月	冬の暮らし 2時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■冬を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆冬を感じたものの撮影（ICT活用）	1 2	1 「ゆき」を読み、生活の中で冬らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた冬を感じたものについて、ノートに書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。
1月	詩のくふうを楽しもう 4時間（書②、読②） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■詩を創作する。 ☆詩を探す活動（図書館活用）	1 2～4	1 6編の詩を音読し、詩の工夫を見つける。 ・言葉のリズムや響きを楽しみながら音読する。 ・それぞれの行の最初の字をつなげたり、文字や詩全体の形を絵のように見たりする。 2 6編の詩の中から好きな詩を選び、おもしろいと思うところを友達と話し合う。 3 詩を創作する。 ・6編の詩の工夫をいかしながら創作する。 4 作った詩を友達と読み合い、交流する。 5 学習を振り返る。 ・活動を通して気づいた詩のおもしろさを発表する。
1月	四まいの絵を使って 2時間（書②） ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）	1～2	1 物語の基本的な組み立てを確かめる。 ・「始まり」「出来事」「解決」「結び」という組み立てを知る。 ・「三年とうげ」の組み立てを確かめる。 2 4枚の絵を並べ替えて、一つの物語を作る。 ・それぞれの絵について考えたことを、簡単に書き出す。 ・物語の基本的な組み立てを参考にして、おおまかな話の流れをメモする。 3 考えた物語の内容を友達と交流し、感想を伝え合 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
1月	カンジーはかせの音訓かるた 2時間（知・技②） ◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 設問の「カンジーはかせが作った歌」を音読す 2 漢字の音と訓を両方使った歌を作る。 ・P95「作り方」を参考にして歌を作る。P154「これまでに習った漢字」、P159「この本で習う漢字」を参考にしてもよい。 ・正しく音と訓が使えているかを確認する。 3 作った歌を友達と読み合う。
1月	漢字の広場⑤ 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認す 2 P96の絵を見て、学校でどんなことをしているのかを説明する。 3 提示されている漢字を使って、日記をつけるように学校の様子を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。
1月	読んで考えたことをつたえ合おう ありの行列 7時間（読②） ◎指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを表現することができる。（思・判・表B(1)カ）	1	1 学習の見通しをもつ。 ・P97を見て、ありやありの行列について知っていることを出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。

3 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	◎文章を読んで理解したことを基ついで、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。（知・技(1)オ） ■文章を読んで考えたことを伝え合う。 ☆生き物の生態や不思議さに目を向けさせる題材（理科）	2～5 6 7	2 「ありの行列」で説明されていることを確かめる。 ・「問い」と「答え」が、どの段落にどのように書かれているかを捉える。 ・ウイルソンが調べたことやそこから考えたこと 3 ウイルソンの研究の進め方、ありが行列を作る仕組みについて、書かれていることを短くまとめる。 ・P104「言葉に着目しよう」を参考にして、段落 4 「ありの行列」とP103「もっと読もう」を読んで、考えたことを文章にまとめる。 ・興味をもったこと、もっと知りたいことを中心にして書く。 5 書いた文章を友達と読み合う。 ・共通点や相違点を見つけて伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
1月 ～ 2月	言葉について考えよう つたわる言葉で表そう 5時間（知・技②、書③） ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■相手に伝わる文章を書く。 ☆体験したことを報告する文章にまとめる活動（社会、総合的な学習の時間）	1～3 4～5	1 学習の見通しをもつ。 ・P107を読み、「問いをもとう」を基に、伝えたいことがうまく伝わらなかった理由について考える 2 体験したことや感じたことを、よりよく伝えるためにはどうするとよいかを考える。 ・様子や気持ち伝わる言葉を使い、ロボロボの話し方を改善する。 ・似た意味でも言葉から受ける感じが違うことを知り、伝えたいことに合う言葉を選ぶ大切さを知る。 ・P109を読み、使える言葉を増やしていくきっかけにしよう 3 冬休みの出来事とそのときの気持ちを200字で書き、友達と読み合って、学習の全体を振り返る。 ・P165「言葉のたから箱」を参考にしてもよい。
2月	書き表し方をくふうして、物語を書こう たから島のぼうけん 8時間（書⑧） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■物語を創作する。	1～3 4～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・宝物を探す冒険というと、どんな物語が思い浮かぶか考える。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P112-113の地図から想像を広げ、物語の構想を練る。 ・P112「物語のないようを考えるときは」を確認 3 物語の組み立てを考える。 ・P92「四まいの絵を使って」で学んだことをいかし、「始まり」「出来事」「解決」「結び」の組み立てに当てはめる。 4 物語を創作する。 ・P114-115「物語のれい」を読み、書き表し方のよさを見つける。 ・比喩や修飾語を用いるなどして、読み手を引きつけるように言葉を選んで書く。 ・P114「書き表し方を考えるときは」を参考に、表現を工夫して書く。 5 友達の物語を読み、感想を伝え合う。 ・物語の内容と言葉の使い方のよさを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
2月	つたえたいことを、理由をあげて話そう お気に入りの場所、教えます 8時間（話・聞⑧） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ）	1～2	1 学習の見通しをもつ。 ・学校の中で自分が好きな場所を出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 みんなに教えたいお気に入りの場所と、その理由を考える。 ・P117「話すことを考えるときは」を参考に、お気に入りの場所について考えを整理する。P167「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。

3 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■お気に入りの場所を発表する。 ☆発表に適切な写真の撮影（ICT活用） ☆発表の練習を撮影し見返すことでよりよくする活動（ICT活用）	3～4 5～6 7～8	3 分かりやすく伝えるために、資料を用意する。 ・どのような資料が必要かを考え、必要に応じて写真を撮りに行くなどする。 4 組み立てを考え、発表メモを作る。 ・P118「発表メモのれい」やP119「発表のれい」を参考に、組み立ての工夫を見つける。 ・「はじめ」「中」「終わり」の組み立てを意識し、分かりやすく伝わるように発表メモを作る。 5 グループで練習をする。 ・P118の二次元コードの動画を見て、話し方の工夫を確認する。 ・P119「話し方をくふうするときは」を参考にし、ポイントを意識して練習をする。 ・必要に応じて練習の様子を撮影し見返して、話し方をよりよくする。 6 発表会を開き、感想を伝え合う。 ・組み立てや話し方についてよかったところを伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
3 月	登場人物について考えたことを、つたえ合おう		
	モチモチの木 12時間（読⑫） ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■登場人物について考えたことをまとめ、伝え合う。 ☆他者への愛情をもち、勇気をもって実行する姿勢を育てる題材（道徳）	1～2 3～9 10～12	1 学習の見通しをもつ。 ・P121を見て、物語の内容や「モチモチの木」はどのような木なのかを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立て 2 場面ごとに登場人物の行動や会話などを確かめ 3 登場人物の性格や気持ちの変化を想像する。 ・P134の「言葉に着目しよう」を参考にし、「豆太」の性格を想像する。 ・着目する点を選び、「豆太」は変わったのかどうかを考え、話し合う。 4 「豆太」について感じたことや考えたことを、ノートに書く。 ・文章のどの叙述から考えたのかを明確にし、自分の経験と比べて考えたことをまとめる。 5 まとめた考えを伝え合う。 ・友達の考えと自分の考えを比べて、共通点や相違点をノートに書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
3 月	漢字の広場⑥ 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○修飾と被修飾との関係について理解することができる。（知・技(1)カ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認す 2 P137の絵を見て、季節ごとの人物の行動や周りの様子を説明する。 3 提示されている漢字を使って、それぞれの季節の様子を説明する文を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。
3 月	三年生をふり返って 1時間（書①） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。 ☆一人一人のキャリア形成と自己実現を育む題材（特別活動）	1	1 3年生の学習を振り返る。 ・P140「『たいせつ』のまとめ」を基に、国語で学んだことを振り返る。 2 自分が身につけたと思う言葉の力を書き、友達と伝え合う。

評価規準

【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】

・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)

・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)

【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って物語を読んだ感想をまとめようとしている。

【知・技】

・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。(1)オ)

・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解している。(1)カ)

【態】粘り強く修飾と被修飾との関係について理解し、学習課題に沿って修飾語を使って文を書こうとしている。

【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。

【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。(2)イ)

【思・判・表】

・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)

・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)

評価規準

【態】粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。

【知・技】

・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ)
・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)

【思・判・表】

・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)

・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ)

【態】目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。

【知・技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)イ)

【思・判・表】「書くこと」において、目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】積極的にことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使い、学習課題に沿ってことわざ辞典を作ろうとしている。

評価規準
【知・技】漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使っている。 ((1)ウ) 【態】積極的に漢字と仮名を用いた表記を理解し、これまでの学習をいかして文や文章の中で使おうとしている。
【知・技】易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って短歌を音読したり暗唱したりしようとしている。
【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。 (B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
【知・技】 ・引用のしかたを理解し使っている。 (2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。
【知・技】考えとそれを支える理由について理解している。(2)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書こうとしている。

評価規準
【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。
【知・技】段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【態】書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書こうとしている。
【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿って漢字の音訓を使った文を書こうとしている。
【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。(1)オ) ・指示する語句と接続する語句の役割、言葉の役割について理解している。

評価規準	
	割、段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに積極的に気づき、学習の見通しをもって相手に伝える文章を書こうとしている。
	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにし、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、

評価規準
相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) 【態】進んで話の中心が明確になるように話の構成を考え、学習課題に沿ってお気に入りの場所を発表しようとしている。
【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に粘り強く想像し、学習課題に沿って考えたことをまとめ、伝え合おうとしている。
【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) ・修飾と被修飾との関係について理解している。(1)カ) 【思・判・表】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

4 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
4 月	力を合わせてばらばらに 1 時間（話・聞①） ○様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ■必要なことを聞いて情報を集める話し合いをする。	1	1 扉の詩・目次・P5「国語の学びを見わたそう」を読み、4年生の国語の学習でできるようになりたいことを書き留める。 2 教材文を読んで手順を確かめて、どんな話し合いをするのかを見通し、グループをつくり、テーマを決める。 3 自分が考えた特徴を一人ずつ話したり、友達の話聞いて予想したりする。 4 紙に書いて同時に見せ合う。 5 どのようなことに気をつけながら聞き、特徴を伝え合ったのかを振り返る。
4 月	春のうた 1 時間（読①） ◎詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■想像しながら詩を音読する。 ☆自然のすばらしさに感動し、自然や動植物を大切にすることを育てる題材（道徳）	1	1 詩を音読し合うという学習の見通しを立てる。 ・教師の範読を聞き、「自分も音読してみたい」という思いをもつ。 2 言葉からどんな様子や気持ちかを想像し、音読のしかたを工夫して、音読する。 3 ペアで「春のうた」の音読を聞き合う。 4 学習を振り返る。 ・P17「この本、読もう」を参考に、他の詩の音読にもつなげる。
4 月	なりきって書こう つづけてみよう 1 時間（書①） ○修飾と被修飾との関係について理解することができる。（知・技(1)カ） ○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ■好きなものなどになりきって想像したことを書く。	1	1 創作文を書くという学習の見通しを立てる。 ・P19の創作文例（「リク（犬・八さい）」）を読み、「書きたい」「読み合いたい」という思いをもつとともに、学習の進め方を確かめる。 2 なりきるものを選び、ペアで書きたい内容を伝え合うを通して、書く内容や文章の構成をはっきりさせる。 3 想像したことを150～200字で書く。 4 書いたものをいろいろな相手とペアで読み合い、感想を伝え合う。 ・友達の感想から、自分の創作文のよいところを確かめる。 5 P20「つづけてみよう」を読み、言葉日記をつけることに年間を通して継続的に取り組む意欲をもち、「ノートの書き方」でノートの書き方の工夫例を確かめる。
4 月	ふしぎな出来事をとらえて読み、考えたことを話そう 白いぼうし 7 時間（読⑦） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ■不思議なところについて考えたことを伝え合う。	1 2 3～5 6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・P21を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に 2 場面と登場人物を整理し、不思議なところを探しながら「白いぼうし」を音読する。 3 不思議だと思ったことが書かれている場面について、言葉に着目しながら、出来事を中心にして、登場人物の会話や行動などを整理する。 4 登場人物の性格を想像し、それぞれの人物にとっての「白いぼうし」はどのような物なのかについて考える。 5 不思議だと思ったことについての考えを書いてまとめる。 6 不思議だと思ったことについてまとめたことを伝え合う。 ・友達の考えを聞いて、感じたことを書き留め 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
4 月	図書館の達人になろう 1 時間（知・技①） ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■本の探し方を考えながら学校図書館で本を探す。 ☆学校図書館を活用した調べ学習（図書館活用）	1	1 他教科等の学習内容など、図書館を活用して調べたいことを確かめ、学習の見通しをもつ。 2 知りたいことに合った本を探す方法を確かめる。 3 学校図書館の資料を活用して必要な情報を調べ 4 調べて分かったことや本を読んだ感想を、記録カードに書いてまとめる。

4 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
4 月	漢字辞典を使おう 2 時間（知・技②） ◎漢字辞典の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）	1 2	1 漢字辞典を開いて書かれている内容を確認めるとともに、部首や画数の順で並んでいることや、索引を用いて調べるなどの特徴を理解する。 2 音訓索引、部首索引、総画索引、それぞれを用いた辞典の引き方を理解する。 3 調べたい漢字について調べることを繰り返し、適切な調べ方を身につける。
4 月	春の楽しみ 2 時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■春の行事の様子を伝える手紙を書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1～2	1 挿絵やさまざまな資料を見て、春らしさを表現する言葉や春の行事を表す言葉をたくさん挙げる。 ・絵や写真を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 2 書きたい相手や伝えたい思いをはっきりさせて、手紙に書く内容を考える。 3 春の行事を表す言葉を用いて、伝えたい思いが伝わるように手紙に書く。友達と読み合い感想を伝え合う。 ・送る相手や伝える内容を明確にし、春の自然の様子や行事を表す語句を使って手紙を書く。 手紙で言葉で表現するよさを味わう。
5 月	大事なことを落とさずに聞こう 聞き取りメモのくふう 【コラム】話し方や聞き方からつたわること 6 時間（話・聞⑥） ◎必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○相手を見て話したり聞いたりすることができる。（知・技(1)イ） ■聞きたいことを聞き、その内容を伝えるためにメモを取る。 ☆ICT端末を活用した録音・録画（ICT活用）	1 2 3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の体験談を聞き、先生たちが小学生の頃に夢中になっていたことを想像して、題材への関心を高める。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 メモを取る話題と目的を確認める。 3 メモの取り方について考える。 ・二次元コードを使って音声を読み、メモを取る。 ・P46のメモの例を見て、それぞれの工夫を見つけ、自分のメモと比べる。 4 学校の先生に話を聞き、メモを取る。 ・聞き取りメモを基に、話の内容をクラスの友達に伝える。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・P48「話し方や聞き方からつたわること」を読み、話し方や聞き方の違いで相手の受け止め方や伝わることに違いが生じることについて考える。
5 月	カンジーはかせの都道府県の旅 1 2 時間（知・技②） ◎第4 学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ■都道府県名を使った文を作る。 ☆地域に目を向けさせる題材（社会）	1～2	1 都道府県名を用いた例文の全体を読み、学習の内容を把握する。 2 都道府県名を使って文を作る。 3 同じ都道府県を選んだ相手や異なる都道府県を選んだ相手とさまざまなペアになり、書いた文を伝 4 都道府県名に用いられる漢字を使った言葉を探し、発表する。
5 月	漢字の広場① 2 時間（書②） ◎第3 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く	1～2	1 教科書の絵を見て、町や周りの様子を想像し、提示された言葉を使いながら、町のことを紹介する文を書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを正すなどして文を整える。 3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることのよさを実感する。
5 月	筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう 思いやりのデザイン アップとルーズで伝える 【じょうほう】考えと例 8 時間（知・技①、読⑦） ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)ア）	1 2 3～4	1 学習の見通しをもつ。 ・P53を見て、題名やリード文から説明文を想像する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「思いやりのデザイン」を読み、筆者の考えを捉えて自分の考えをもつ。 ・筆者の考えとその示し方を確認め、例を対比することによってどんなことが分かるかを考える。 ・筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。 3 「アップとルーズで伝える」を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習のめあてを確認める。

4 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	○接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■筆者の考えに対してもった自分の考えを伝え合う。 ☆情報の発信のしかたやその意図に目を向けて課題を解決する学習（総合的な学習の時間）	5 6 7 8	4 段落どうしの関係を考える。 ・段落と写真の対応関係を考える。 ・筆者の考えが書かれた文章を見つける。 ・筆者の考えがどのように伝えられているかをつかむ。 ・P65「考えと例」を参考にしながら、それぞれの段落どうしの関係を捉える。 5 「アップ」と「ルーズ」をどのように対比しながら説明しているかを捉える。 ・「アップ」と「ルーズ」を対比して説明することのよさについて考え、話し合う。 6 筆者の考えに対する自分の考えをもつ。 7 「アップとルーズで伝える」ということについて考えたことを発表する。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 9 P65「考えと例」を読み、課題に取り組む。
6 月	気持ちが伝わる手紙を書こう お礼の気持ちを伝えよう 4 時間（書④） ◎相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ） ■お礼の手紙を書く。 ☆校外学習の見学先への礼状送付（社会、総合的な学習の時間）	1 2 3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・お礼の手紙を書きたい相手を考えて、活動への意欲を高める。 ・「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 誰に何のお礼を伝えるのかを考える。 ・何に対してお礼を言いたいのかを明確にするため、詳しく書き出す。 3 改まった手紙の形式に沿って、内容を考える。 ・「初めの挨拶」「本文」「結びの挨拶」「後付け」といった、改まった手紙の形式を確かめる。 4 手紙を書いて、読み返す。 ・文末の表現や文字の間違い、言葉遣いに誤りがないかを確認する。 5 手紙を送る。 ・P69を参考にして、封筒に宛名と差出人の名前と住所を書く。 6 学習を振り返る。 ・手紙で気持ちを伝えることのよさを話し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
6 月	漢字の広場② 2 時間（書②） ◎第3 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 教科書の絵を見て、それぞれの場面を想像し、提示された言葉を使いながら、夏の楽しみを説明する文を書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを正すなどして文を整える。 ・主述の照応や句読点に気をつけて読み返す。 3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることのよさを実感する。
6 月	場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう 一つの花 7 時間（読⑦） ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■心に残ったことを伝え合う。	1 2～3 4～5 6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・P71を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学習計画を立てる。 2 物語の設定を確かめ、内容を捉える。 ・どんな状況（時代、季節、場所等）の物語か、その中での登場人物の思いを会話や行動から確かめる。 3 「一つだけ」という言葉に着目して読む。 ・P84「たいせつ」で、「くり返し出てくる物や言葉」に着目して読む方法を確認する。 ・「一つだけ」という言葉が最後の場面に出てこない理由や、題名が表していることを考える。 4 場面と場面を比べて読んで、心に残った登場人物の行動を、理由とともにノートに書く。 5 書いたことを伝え合い、互いの考え方や感じ方の違いを見つけ話し合う。

4 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
			6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
6 月	つなぎ言葉のはたらきを知ろう 2 時間（知・技②） ◎接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）	1 2	1 つなぎ言葉の働きに気づく。 ・「問いをもとう」を基に、つなぎ言葉とその役割について考える。 2 P86の表を参考にして、P87の課題に取り組む。 3 つなぎ言葉を使って短い文を書き、友達と交流す 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を確かめる。
6 月	短歌・俳句に親しもう（一） 1 時間（知・技①） ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■短歌や俳句を音読したり暗唱したりして親しむ。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1	1 短歌・俳句を何度も声に出して読み、言葉の調子や響きを楽しむ。 ・おおよその意味が書かれた文を参考にして、言葉の響きやリズムを感じながら声に出して読み、風景や作者の心情を思い浮かべ、話し合う。 ・気に入った短歌や俳句を暗唱して楽しむ。
6 月	【じょうほう】要約するとき 2 時間（読②） ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表C(1)ウ） ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ■文章を要約する。 ☆多くの情報を集め、目的を意識して内容を要約、発信（総合的な学習の時間）	1 2	1 これまでに、話や本、文章の内容を相手にうまく伝えられなかった経験を思い出す。 2 P90を読んで、要約するときに気をつけることを確かめる。 3 説明する文章を要約するときに注意することについて考える。 ・P91の文章例を見て、要約した箇所がどのように用いられているかを確かめる。 4 物語のあらすじを伝えるときに注意することについて考える。 5 P54「思いやりのデザイン」を、内容を知らない人に説明するつもりで、100字程度で要約し、友達と読み合う。 ・必要な言葉や内容が抜けていないか、まとめ方を工夫しているところはあるかに気をつけて読み 6 学習を振り返る。 ・「いかそう」を確かめる。 ・P138「あせの役わり」の要約に取り組む。
6 月 ～ 7 月	見せ方を工夫して書こう 新聞を作ろう 【コラム】アンケート調査のしかた 10 時間（書⑩） ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■新聞を作る。 ☆調べたことの整理、表現（社会、総合的な学習）	1 2 3 4～5 6 7～8 9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・P93、96の新聞や、実際の新聞を見て、読む人のことを考えた新聞の工夫を見つける。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 どんな新聞を作るかについて話し合う。 ・教材文を読み、作り方の手順を確かめる。 3 取材には、どんな方法があるかを確かめる。 ・P98「アンケート調査のしかた」を確認する。 4 出来事や事柄を正しく伝えるために、どのような取材をするときよいのか、取材したい内容に合った方法を考え、取材をする。 5 取材メモを基に、割り付けを考える。 ・それぞれが集めた材料をグループで確かめ、記事の大きさや割り付ける場所を考える。 ・何を言葉で伝え、何を写真や図などで伝えるのかを考え、写真や図の大きさや場所を考える。 6 取材メモを基に、それぞれが担当する記事を書く。 ・実際の新聞を参考に、記事の書き方を考える。 ・記事の種類や伝えたい内容に合わせて、記事の文章の組み立てを考える。 ・記事の本文を書き、伝えたい内容に合った見出し、見出し、清書して仕上げる。 7 記事を推敲し、清書して仕上げる。 8 完成した新聞を読み合い、感想を伝え合う。 9 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
7 月	カンジーはかせの都道府県の旅 2 2 時間（知・技②） ◎第 4 学年までに配当されている漢字を	1～2	1 都道府県名を用いた例文の全体を読み、学習の内容を把握する。 2 都道府県名を使って文を作る。

4 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	読むとともに、潮吹き書き、文や文庫の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ■都道府県名を使った文を作る。 ☆地域に目を向けさせる題材(社会)		3 同じ都道府県を選んだ相手や異なる都道府県を選んだ相手とさまざまなペアになり、書いた文を伝 4 都道府県名に用いられる漢字を使った言葉を探し、発表する。
7月	夏の楽しみ 2時間(書②) ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏の行事などを俳句にする。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)	1～2	1 挿絵や写真を見たり、短歌や俳句を音読したりして、夏の自然の様子や行事を表す言葉を考える。 ・絵や写真を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 ・短歌や俳句を読み、夏の風景を表す言葉からその様子を豊かに想像する。 2 夏の行事に関する言葉の一つ選んで、夏の行事の様子を表した俳句を作る。 3 繰り返し声に出して読み返したり、友達と読み合ったりして、感想を伝え合う。 ・季節を言葉で表現するよさを味わう。
7月	本は友達 本のポップや帯を作ろう 神様の階段 5時間(読⑤) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ■読んでほしい1冊をポップや帯で紹介する。 ☆読書生活の充実(図書館活用)	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・図書館や書店で、本のポップや帯を見た経験を語り合う。 ・学習の課題を設定し、学習計画を立てる。 2 本の読み方について話し合う。 3 P106を参考にして、読みたい本を選んで読む。 4 P108「神様の階段」を読み、紹介してみたいことを話し合う。 5 紹介したい事柄がはっきりするよう、本を読み返し、帯やポップにまとめる。 ・P107のポップや帯の例などを参考に、内容に盛り込む事柄を確かめる。 ・選んだ本を読み返し、心に残る場面や叙述、作品を読んで感じたことや考えたことなどを確かめる。 6 読んだ本のよさを紹介する。 7 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。
9月	忘れもの ぼくは川 2時間(読②) ○詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■詩から受けた印象を伝え合う。	1～2	1 場面の様子や人物の気持ちを想像しながら、声に出して読む。 2 それぞれの詩の特徴的な表現に着目し、何が何にたとえられているかを考えて、様子を思い浮かべ 3 たとえを使った表現によってどんな印象を受けたかを話し合う。
9月	あなたなら、どう言う 3時間(話・聞③) ◎考えとそれを支える理由との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■グループで役割を決めて、それぞれの立場で話し合いをする。 ☆ICT端末の活用による録音、録画(ICT活用)	1～2 3	1 P120の状況を踏まえ、グループで役割を決めて、それぞれの立場でやり取りをする。 ・役割を交代してやり取りを積み重ねることで、それぞれの立場での思いを理解する。 ・なぜそのような言い方をしたのかを話し合う。 ・互いが納得する方法を考える。 2 よりよい言い方を考え、自分とは違う立場になって考えることのよさについて考える。 3 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9月	パンフレットを読もう 2時間(読②) ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■パンフレットの工夫について話し合	1 2	1 身の回りでどんなパンフレットを見たことがあるかを紹介し合う。 ・それぞれのパンフレットに共通することを出し合い、パンフレットの特性を明らかにする。 2 P124-125のパンフレットやパンフレットの実物を読んで、気づいたことを話し合う。 3 知りたい情報を得るためには、パンフレットをどのように読めばいいか考える。 4 パンフレットの工夫について話し合う。 ・パンフレットには、作られた目的や伝えたい相手に応じて工夫がなされていることを知る。

4 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	う。 ☆調べ学習における情報収集（社会、総合的な学習の時間）		5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9月	どう直したらいいかな 2時間（書②） ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ） ■文章を推敲する。 ☆日常生活や学習場面での記述とその見直し（各教科等）	1 2	1 文章を書いた後、これまでどのように見直していたかを想起する。 2 推敲の際に気をつけることを、文例を通して押さえる。 ・P126-127の卓球クラブの紹介文例を比べて読み、どこをどのように直したのか、なぜそのように直したのかを考えて話し合う。 ・推敲の際には、間違いを直したり、相手や目的に合うように書き換えたりすることを確認める。 3 P127の町の特徴を説明する文例を、1年生に読んでもらう文章に書き直す。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確認める。
9月	いろいろな意味をもつ言葉 2時間（知・技②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○国語辞典の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）	1 2	1 同音異義語があることを理解する。 ・「問いをもとう」を基に、同音異義語に出会った経験について想起する。 ・詩「とる」を参考にして、同音異義語のそれぞれの意味について考え、課題に取り組む。 2 国語辞典を使って、例示されている言葉の意味を調べ、意味の異なる用例を集めたり、言葉遊びの詩を作ったりして紹介し合う。 3 学習を振り返る。 ・「いかそう」を確認める。
9月	ローマ字を使いこなそう 2時間（知・技②） ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書くことができる。（知・技(1)ウ） ☆パソコンのキーボード入力など、必要な場面におけるローマ字の活用（I C T活用） ☆ローマ字表記と英語の違いの確認（外国語活動）	1 2	1 ローマ字の使われ方を知る。 ・「問いをもとう」を基に、ローマ字で書かれている言葉にはどのようなものがあるのかを、日常生活を振り返って確かめる。 2 ローマ字で表記する際、二つの書き方（訓令式、ヘボン式）があることを知る。 3 例示された言葉や身の回りの言葉を、訓令式とヘボン式でそれぞれ書く。 4 場面に応じた訓令式とヘボン式の使い分けについて考える。 5 日本語のローマ字表記と英語は、違うことを知る 6 学習を振り返る。 ・「いかそう」を確認める。
9月	漢字の広場③ 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 教科書の絵を見て、場面や出来事を想像し、提示された言葉を使いながら、「おむすびころりん」と「浦島太郎」の話を完成させる。 ・「そして」「しかし」などのつなぎ言葉を使って書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることのよさを実感する。

評価規準

【知・技】様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ)

【態】積極的に、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、情報を集める話し合いをしようとしている。

【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)

【態】積極的に情景などを具体的に想像して読み、学習課題に沿って、想像しながら詩を音読しようとしている。

【知・技】修飾と被修飾との関係について理解している。(1)カ)

【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)

【態】進んで感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、なりきって想像したことを書こうとしている。

【知・技】

・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ)

【態】進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って、不思議なところについて考えたことを伝え合おうとしている。

【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)

【態】進んで読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして、本の探し方を考えながら学校図書館で本を探そうとしている。

評価規準

【知・技】漢字辞典の使い方を理解し使っている。(2)イ)

【態】進んで漢字辞典の使い方を理解し、学習課題に沿って、漢字辞典を使って調べようとしている。

【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】積極的に春の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、春の行事の様子を伝える手紙を書こうとしている。

【知・技】

・相手を見て話したり聞いたりしている。(1)イ)

・必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。(2)イ)

【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ)

【態】粘り強く必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話の中心を捉え、学習の見通しをもって、聞いたことを伝えるためにメモを取ろうとしている。

【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。

【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)

【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。

【知・技】

・接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ)

・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】
・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア)

評価規準

・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)

【態】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、自分の考えを伝え合おうとしている。

【知・技】

・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア)

・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(1)キ)

【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】進んで相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、お礼の手紙を書こうとしている。

【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)

【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。

【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)

【態】粘り強く、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったところを伝え合おうとしている。

評価規準

【知・技】接続する語句の役割について理解している。(1)カ)

【態】積極的に接続する語句の役割を理解し、これまでの学習をいかして、つなぎ言葉を使って文を書こうとしている。

【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)

【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。

【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C1)ウ)

【態】粘り強く目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、文章を要約しようとしている。

【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。(2)イ)

【思・判・表】

・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア)

・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B1)イ)

【態】進んで書く内容の中心を明確にして構成を考え、学習の見通しをもって、新聞を作ろうとしている。

【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【態】

評価規準

【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。

【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】積極的に夏の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、夏の行事の様子を俳句で表現しようとしている。

【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)

【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)

【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって、本をポップや帯で紹介しようとしている。

【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)

【態】進んで二つの詩を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習課題に沿って、詩から受けた印象を伝え合おうとしている。

【知・技】

・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア)

・考えとそれを支える理由との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)

【態】積極的に、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習課題に沿って、異なる立場に立って話し合いをしようとしている。

【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)

【思・判・表】

・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ)

・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)

【態】積極的に目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿

評価規準
て、パンフレットの工夫について話し合おうとしている。
【知・技】 ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ) ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(1)キ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B1)エ) 【態】進んで文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、学習の見通しをもって、文章を推敲しようとし
【知・技】 ・様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) ・国語辞典の使い方を理解し使っている。(2)イ) 【態】進んで様子や行動を表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、言葉遊びの詩を作ろうとしている。
【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(1)ウ) 【態】積極的にローマ字の表記を考え、これまでの学習をいかして、ローマ字を書こうとしている。
【知・技】 ・第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) ・接続する語句の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B1)エ) 【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。

4 年下卷

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
9月 ～ 10月	気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう ごんぎつね 【コラム】言葉进行分类しよう 12時間（知・技①、読⑪） ◎言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の結末についての感想を書く。	1 2～6 7～8 9 10～11 12	1 扉の詩・目次・P5「国語の学びを見わたそう」を読み、下巻の国語の学習を見通す。 2 学習の見通しをもつ。 ・P13を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に、場面と場面を結び付けたり比べたりして、登場人物の気持ちの変化を考える。 3 登場人物の気持ちの変化について考えたことを基に、物語の結末についての感想をまとめる。 4 書いた感想をグループで読み合う。 ・新たに考えたことや思ったことを書き加える。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 ・単元で身につけた力をいかして、P150「手ぶくろを買いに」を読む。 6 P35「言葉进行分类しよう」を読む。 ・性質による言葉の分類があることに気づく。
10月	漢字を正しく使おう 2時間（知・技②） ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○第4学年までに配当されている漢字を読み、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第4学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 書くときや読むときに迷ってしまう漢字について考える。 ・漢字を正しく用いるためにはどのようなことに注意すればよいのかについて、関心を高める。 2 仮名で書くと同じになる言葉を取り上げて、適切な漢字の使い方について考える。 3 送り仮名の適切な付け方について考える。 4 いろいろな読み方をもつ漢字を取り上げて、それぞれの読み方とその使い方について考える。
10月	秋の楽しみ 2時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■秋の行事の楽しさを伝える手紙を書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1～2	1 挿絵や写真を見たり、短歌や俳句を音読したりして、秋の自然の様子や行事を表す言葉を考える。 ・絵や写真を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 ・短歌や俳句を読み、秋の風景を表す言葉からその様子を豊かに想像する。 2 好きな秋の行事の楽しさを知らせる手紙を書く。 書いた手紙を紹介し合い、感想を伝え合う。 ・日付や宛名等、手紙の書き方を確認する。 ・送る相手や伝える内容を明確にし、秋の自然の様子や行事を表す語句を使って手紙を書く。 ・季節を言葉で表現するよさを味わう。
10月	役わりをいしきながら話し合おう クラスみんなで決めるには 8時間（話・聞⑧） ◎比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■役割を意識しながらクラス全体で話し	1 2 3～4	1 学習の見通しをもつ。 ・クラスで話し合いたい議題を考える。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 役割を決め、目的と議題を確かめる。 ・話し合いにおける役割を理解し、分担する。 ・日常生活の中から必要性の高い議題を選ぶ。 3 話し合いの準備をする。 ・P42-45の話し合いの例を、二次元コードで見られる動画で視聴したり、文章で読んだりして、気をつけるとよいことを考え、交流する。 ・司会グループや提案者、参加者がそれぞれ気をつけることよいことを確かめる。 ・司会グループは進行計画を立て、提案者や参加者は議題に対する自分の考えをまとめておく。

4 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	合って考えをまとめる。 ☆役割を意識して話し合う姿勢を育てる 題材（特別活動） ☆自分と違う考えと接するときに、約束に則って適切に判断する態度について考える題材（道徳） ☆ICT端末を活用した録音・録画（ICT活用）	5～8	4 クラス全体で話し合いを行い、気づいたことを振り返る。 ・話し合いを振り返り、よかったところや次に気をつけたいところを伝え合う。振り返ったことを基に、別の議題で役割を変えて話し合う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
11月	中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書く 未来につなぐ工芸品 工芸品のみりょくを伝えよう 12時間（書⑥、読⑥） ◎事典の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表C(1)ウ） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■調べて分かったことなどをまとめて書く。 ☆インターネットを活用した情報収集（ICT活用） ☆図書館を活用した調べ学習（図書館活用） ☆我が国の伝統と文化を大切にすることを育てる題材（道徳）	1 2～3 4 5～6 7 8 9 10～11 12	1 学習の見通しをもつ。 ・P47を見て、題名やリード文から工芸品に対するイメージを広げる。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 中心となる語や文を見つけて要約する。 ・筆者の伝えたいことは何かを考えながら読み、文章の構成を捉える。 ・まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、それを用いて文章全体を200字以内で要約する。その際、4上P90「要約するとき」を参考にするとよい。 3 工芸品や筆者の考えについて考えたことを、ノートにまとめる。 4 要約した文章を使いながら、考えたことを伝え合 5 工芸品に関する資料や図鑑を読み、内容を友達に伝える。 6 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 7 工芸品についてのリーフレットを作る流れを確かめる。 ・P56「問いをもとう」「目標」を基に、学習のめあてを確かめる。 8 紹介したい工芸品について詳しく調べ、分かったことを書き出して整理する。 9 組み立てや資料の使い方を考える。 ・P58-59の作例を読み、資料の使い方など、リーフレットの書き方のよさを見つけ、自分の書く文章の組み立てや資料の使い方を考える。 10 考えた組み立てに沿って文章を書く。 ・表紙や裏表紙を作って仕上げる。 ・元になる資料や事典の文章を読み返し、自分が伝えたいことの中心となる語や文が含まれているかを確かめる。 11 リーフレットを読み合い、感想を伝え合う。 12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
11月	慣用句 2時間（知・技①、書①） ◎長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使うことができる。（知・技(3)イ） ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■慣用句の意味を調べて文を作る。	1～2	1 教材文を読み、昔から伝わる慣用句について知 2 国語辞典を使って、P61の慣用句や興味のある慣用句の意味を調べる。 ・国語辞典にどのように例文が書かれているかを確かめる。 3 国語辞典を作る人になったつもりで、提示された慣用句の例文を作る。 ・慣用句の意味を調べ、例文を作る。 ・作った例文を友達と交換し、正しく慣用句を使えているかどうか確かめ合う。
11月	短歌・俳句に親しもう（二） 1時間（知・技①） ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■短歌や俳句を音読したり暗唱したりして親しむ。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1	1 短歌・俳句を何度も声に出して読み、言葉の調子や響きを楽しむ。 ・おおよその意味が書かれた文を参考にして、言葉の響きやリズムを感じながら声に出して読み、風景や作者の心情を思い浮かべ、話し合う。 ・気に入った短歌や俳句を暗唱して楽しむ。
11月	漢字の広場④ 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識	1～2	1 絵を見て学校の様子を想像し、3年生までに習った漢字を使って、文章を書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 ・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確かめ、間違いを直す。

4 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。 (思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることのよさを実感する。
12月	つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合う		
	友情のかべ新聞 8時間 (読⑧) ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 (思・判・表C(1)エ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■おもしろいと思ったところを伝え合う。 ☆関連図書の読書(図書館活用)	1 2 3～4 5 6～8	1 学習の見通しをもつ。 ・P65を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「この本、読もう」で取り上げられている本などのミステリーから読みたい本を選び、並行して読む。 2 登場人物の性格や行動を確かめる。 3 書かれていることつながりを見つけながら読み、人物の気持ちや関係の変化、「ぼく」は何を手がかりに推理したかを考える。 ・叙述と叙述とを結び付けながら、どのような謎が、どのような叙述のつながりで解き明かせそうかを考える。 4 おもしろいと思ったところについて、理由とともに書きまとめる。 ・着目した謎と、それを解き明かす証拠の叙述を結び付けて、おもしろさを説明する文章に書きまとめる。 5 書いた文章を基に、おもしろいと思ったことを話し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で取り上げられている本などのミステリーを読んでおもしろいと思ったところを伝え合う。
12月	理由や例を挙げて、考えを書く		
	もしものときにそなえよう 10時間 (書⑩) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■調べて考えたことを文章に書く。 ☆自然災害に備えた防災学習(社会、理科) ☆インターネットを活用した情報収集(ICT活用) ☆図書館を活用した調べ学習(図書館活用)	1 2～4 5～6 7～8 9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・自然災害への備えについて知っていることを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 テーマを決めて調べ、整理する。 ・「大雨」「津波」など、大きなテーマを選び、その中から特に詳しく知りたいことを決める。 ・さまざまな本や資料、インターネットを活用して情報を調べる。 ・分かったことはカードに書くなどして整理する。図や表を使って内容ごとに分類する。 3 文章の組み立てを考える。 ・P87の作例を読み、自分の考えを伝えるための書き方の工夫を見つけ、気づいたことを話し合う。 4 自分の考えをまとめた文章を書く。 ・挙げている理由や事例が考えを支えるものとなっているかを確認する。 ・文章の最後には、引用文献、参考文献をそれぞれ書く。 5 書いた文章を読み返す。 6 文章を読み合い、感想を伝える。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
12月	冬の楽しみ 2時間 (書②) ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬の行事の楽しさを伝えるかるたを作る。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)	1～2	1 挿絵や写真を見たり、俳句を読んだりして、冬の行事や様子を表す言葉を考える。 ・絵を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 2 自分の住む地域の冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作る。 ・読み札と取り札の書き方を確認する。 ・地域の冬の行事の楽しさを表す語句を使って読み札を作り、それに対応した取り札を作る。 ・完成したかるたで遊んだり、読み札の表現で工夫しているところを見つけて、伝え合ったりする。 ・季節を言葉で表現するよさを味わう。

4 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
1 月	自分だけの詩集を作ろう 4 時間（書②、読②） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩や詩集を読み、自分だけの詩集を作る。 ☆テーマに合った詩の収集（図書館活用）	1 2 3～4	1 3 編の詩を読んで、それぞれの「月」の様子を思い浮かべ、感じたことを伝え合う。 ・ 3 編の詩から想像される「月」が全く違うものであることや、自分と友達との感じ方に違いがあることに気づき、同じテーマで複数の作品を読むことの楽しさや感想を交流することのよさを知り 2 テーマを決めて、詩を集める。 ・ 言葉の使い方や書かれ方に目を向け、集めた詩とその理由をノートに書き出す。 3 集めた詩の中から自分の詩集に載せる詩を選ぶ。 ・ 自分の意図するテーマが明確になるように、集めた中からどの詩を載せるか検討し、載せる順番を考える。 4 詩を選んだ理由を最後のページに書き、表紙や目次を付けて、本にする。 ・ 自分の意図するテーマについて、最後のページで説明をする。 5 できあがった詩集を読み合う。 ・ 友達と詩集を読み合い、テーマが伝わるかどうかや感じ方の違いについて交流する。
1 月	言葉から連想を広げて 2 時間（書②） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■連想したことを基にひと言で詩を書く。	1～2	1 まど・みちお作「ニンジン」を読み、連想を広げてひと言で詩を書くことに関心を高める。 2 P95の「にんじん」を中心にしたマップを例に、表現したいことからさまざまに発想を広げ、思いついた言葉を書き出す。 3 書き出した言葉を組み合わせたり、順序を変えたりして、どのように表現するのかを考える。 4 ひと言で詩を書き、互いに読み合う。 ・ 身の回りから題材を選んでひと言で詩を書く。 ・ 互いに読み合い、相手がなぜそのように表現したのか、連想の道筋を考える。 5 学習を振り返る。 ・ 「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。
1 月	熟語の意味 2 時間（知・技②） ○第4 学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 「熟語」の意味を理解する。 2 訓を手がかりに熟語の意味を考える。 ・ 熟語を訓で読んでその意味を考え、友達と説明し合う。 3 漢字の組み合わせから熟語の意味を考える。 ・ 漢字の組み合わせを手がかりに熟語の意味を考え、友達と説明し合う。 ・ 国語辞典や漢字辞典を引き、熟語の意味と自分たちの説明が一致するか確かめる。
1 月	漢字の広場⑤ 2 時間（書②） ○第3 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 教科書の絵を見て、休日の様子を想像し、3 年生までに習った漢字を使って、文章を書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 ・ 漢字や送り仮名、句読点等が正しく使っているかを確かめ、間違いを直す。 3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることのよさを実感する。
1 月	きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう 風船でうちゅうへ 8 時間（読⑧） ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ○様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）	1 2 3～6	1 学習の見通しをもつ。 ・ P99を見て、題名やリード文から、文章の内容を想像する。 ・ 教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 文章の内容を確かめ、興味をもったところをはっきりさせる。 ・ 「もっと読もう」も併せて読み、自分が最も興味をもったことを明確にする。 3 興味をもったことに沿って大事な言葉や文を書き出して要約し、友達と読み合う。 ・ 書き出した言葉や文を使ったり、自分の言葉を用いたりして文章を要約する。 ・ 交流を通して、興味をもったところが違えば要約のしかたも異なることに気づく。

4 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	■興味をもったところを中心に要約して紹介する文章を書く。 ☆調査・結果・考察など、記録・報告における事実と考えの整理（理科、総合的な学習の時間）	7 8	4 教材文を紹介する文章を書く。 ・要約した文章を使い、感想とともに教材文を紹介する文章を書く。 ・「何の話か」「要約」「感想」という構成で、教材文を紹介する文章を書く。 5 友達と紹介文を読み合う。 ・自分との違いや、「いいな。」と思うところを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
2 月	言葉について考えよう つながりに気をつけよう 4 時間（知・技①、書③） ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■つながりに気をつけて文章を書く。	1 2～3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・P113を読み、「問いをもとう」を基に、分かりやすく書くために必要なことを考える。 2 言葉と言葉のつながりについて考える。 3 例文を比較して、文と文のつながりについて考える。 4 例文を比較して、1文の長さについて考える。 ・例文を読み、1文にまとめることで分かりやすくなることもあることを知る。 5 P116の文章を、分かりやすくなるように書き直す。 ・これまでの学習内容をいかして書き直す。 ・友達と、どこをどのように直したのかを説明し 6 学習を振り返る。
2 月	言葉を選んで詩を書き、友達と読み合おう 心が動いたことを言葉に 7 時間（書⑦） ◎書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ■心が動いたことを詩に書いて友達と読み合う。	1 2～3 4 5～6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・心を動かされたことを振り返り、紹介し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 詩に書きたいことについて詳しく書き出す。 ・心を動かされたことの中から、最も伝えたい題材を選ぶ。 3 詩の組み立てを考える。 ・どんな詩を書きたいか、行数や連の数などから考えてみる。 4 言葉を選んで、詩を書く。 ・心を動かされたときのことについて、いちばん伝えたいことを中心に連想を広げて言葉を書き出す。 ・書いた作品を読み返し、心が動かされたときの 5 友達の詩の工夫を見つけ、感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
2 月 ～ 3 月	調べて分かったことを話そう 調べて話そう、生活調査隊 8 時間（話・聞⑧） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ◎話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ）	1 2～4 5～6	1 学習の見通しをもつ。 ・普段の生活の中で疑問に思ったことを出し合い、題材への関心を高める。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 調べたいことを決める。 ・自分やみんなの生活について、感じていることをグループで出し合い、調べたいテーマを決め 3 アンケートを取り、結果を整理する。 ・4上P98「アンケート調査のしかた」を参考に、アンケート調査をした経験をいかしてアンケートを取る。 4 組み立てを考え、資料を作る。 ・アンケートから分かったことを明確にして、グラフや表にまとめる。 5 発表する準備をする。 ・P123「発表の例」を読んだり、動画を見たりして分かりやすく伝えるための工夫を考える。 ・互いの練習の様子を動画で撮影して工夫点を確認する。

4 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	(思・判・表A(1)イ) ■調査の報告をする。 ☆目的を意識して調査結果を整理、発表(社会、理科、総合的な学習の時間) ☆ICT端末を活用した録音・録画(ICT活用)	7～8	6 発表し、感じたことを伝え合う。 ・話し方の工夫を意識して発表する。 ・自分の生活と比べながら聞き、質問をしたり発表のよかったところを伝えたりする。 ・友達の感想から、自分の考えが正しく伝わっているか考える。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
3月	読んで考えたことを、友達と伝え合おう スワンレイクのほとりで 7時間(読⑦) ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語を読んで考えたことを伝え合う。	1 2 3～5 6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・P125を見て、題名やリード文から物語を想像する。 2 物語の組み立てや、登場人物の気持ちを確かめる。 3 登場人物の気持ちの変化を、観点を選んで考える。 ・同じ観点や違う観点のひと、どのような考えを 4 物語の最後で、登場人物が書こうとしていることは何かを、理由とともに考える。 5 考えたことを伝え合い、自分の考えと比べながら聞いて、感じたことを話す。 ・交流を通して新たに気づいたことや、一人一人の解釈や感じ方の違いを振り返る。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
3月	漢字の広場⑥ 2時間(書②) ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。 (思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 教科書の絵を見て、1年間の出来事を振り返ったり想像したりし、3年生までに習った漢字を使って、学級新聞の記事を書く。 2 書いた記事を読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 ・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確かめ、間違いを直す。 3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることのよさを実感する。
3月	四年生をふり返って 1時間(書①) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■1年間の国語科での学びを振り返り、書く。	1	1 1年間の学び全体を振り返る。 2 P146「『たいせつ』のまとめ」などを見て、どのようなことを学んだのか確かめる。 3 特に身についたと思う言葉の力を書きまとめる。

評価規準

【知・技】言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】

・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)

・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)

【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。

【知・技】

・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ)

・第4学年までに配当されている漢字を読み、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第4学年に配当されている漢字を漸次書いている。(1)エ)

【態】進んで同音異義語や送り仮名の付け方などについて理解し、学習課題に沿って、漢字を文や文章の中で使おうとしている。

【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】積極的に秋の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、秋の行事の様子を伝える手紙を書こうとしている。

【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。(2)イ)

【思・判・表】

・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)

・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)

【態】積極的に役割を果たしながら話し合い、学習課題に沿って、考えをま

評価規準

とめようとしている。

【知・技】

- ・事典の使い方を理解し使っている。(2)イ
- ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ

【思・判・表】

- ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ
- ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C1)ウ

【態】積極的に、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもって、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。

【知・技】長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使っている。(3)イ

【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア

【態】進んで慣用句の意味を知り、学習の見通しをもって、慣用句を使った文を書こうとしている。

【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア

【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。

【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ

【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認

評価規準

たりして、文や文庫を整えている。
(B(1)エ)
【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。

【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ
【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。
(C(1)エ)
【態】積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしている。

【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア
【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)
【態】積極的に自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見通しをもって、調べて考えたことを文章に書こうとしている。

【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ
【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)
【態】積極的に冬の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作ろうとしている。

評価規準

【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)

【思・判・表】

・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

・「読むこと」において、詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)

【態】進んで目的を意識して詩を選び、学習の見通しをもって、自分だけの詩集を作ろうとしている。

【知・技】必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。(2)イ)

【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

【態】進んで連想を広げ、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、ひと言で詩を書こうとしている。

【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ)

【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、漢字や熟語を正しく読んだり書いたりしようとしている。

【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)

【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。

【知・技】

・様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】

・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)

・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)

【態】進んで、文章を読んで理解した

評価規準

ことに基ついて感想や考えをもち、学習課題に沿って、要約して紹介する文章を書こうとしている。

【知・技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解している。(1)カ)

【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)

【態】進んで、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解し、これまでの学習をいかして、つながりに気をつけて文章を書こうとして

【知・技】

・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)

・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解している。(1)カ)

【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)

【態】進んで感想を伝え合い、これまでの学習をいかして、心が動いたことを言葉にして書いた詩を読み合っている。

【知・技】

・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ)

・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】

・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)

・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ)

・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。

評価規準

の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ)

【態】進んで、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、これまでの学習をいかして、調査の報告をしようとしている。

【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1オ)

【思・判・表】
・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)

・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)

【態】進んで一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、学習の見通しをもって、物語を読んで考えたことを伝え合おうとしている。

【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1エ)

【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)

【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。

【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1ア)

【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】進んで経験したことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
4 月	ひみつの言葉を引き出そう 1 時間（話・聞①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ■友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話す。	1	1 扉の詩、目次、P9「国語の学びを見わたそう」を見て、学習の進め方を確かめたり、見通しをもったりする。 2 P17を読み、5年生の国語学習での目標や楽しみなことを書く。 3 P18-19を読み、活動のしかたを確かめる。 4 気持ちや様子を表す言葉を、一人一つずつカードに書く。他の人に言葉が見えないように、グループの中で交換する。 5 一人がカードを持ち、グループで2分間話す。 ・カードを持たないメンバーは、どうすればカードを持つ人が「ひみつの言葉」を口にするかを考えながら話す。 6 カードに書かれている言葉を確かめ、会話を振り返る。 7 カードを持つ人を交代して、再度行う。 8 話してみて感じたことを振り返る。
4 月	かんがえるのって おもしろい 1 時間（読①） ◎詩を音読することができる。（知・技(1)ケ） ○詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■音読して、想像したことを伝え合う。	1	1 詩を声に出して読んだり、友達の音読を聞いたりして、描かれていることを想像する。 ・「どこかとおく」「しらないけしき」などの言葉が表していることを考える。 2 思い浮かべた様子や自分の経験と重ねて感じたことをノートに書く。 3 ノートに書いたことを基にして、詩を読んで感じたことを伝え合う。 4 学習を振り返る。
4 月	名前を使って、自己しょうかい 続けてみよう 1 時間（書①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ■自分を紹介する文章を書く。	1	1 P23の作例を基に、名前を使って自分を紹介する文章の書き方を確かめる。 2 自分を紹介する文章を書く。 ・名前の文字から始まる言葉を思い浮かべ、自分の書きたいことに合ったものを選ぶ。 ・前後の文とのつながりを考えながら、文章を書く。 3 書いた文章をグループで読み合い、感想を伝え 4 「いいな。」と思った作品を、クラス全体に紹介する。 5 名前を使って自己紹介をしてみても気づいたことを振り返る。 6 P24「続けてみよう」を読み、日々のことを記録することの大切さに気づき、ノートの書き方について学ぶ。
4 月	人物の心情や人物どうしの関わりをとらえ、印象に残ったことを伝え合おう 銀色の裏地 5 時間（読⑤） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■印象に残ったことを伝え合う。 ☆友情、信頼や相互理解に関わる題材（道徳）	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・P25を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「理緒」の心情や、他の人物との関係を捉える。 ・P36「言葉に着目しよう」を参考に、「理緒」の心情や、他の人物との関わりが表れているところに線を引く。 ・P37「関係を図に表す」を参考に、線を引いたところを使って、登場人物の関係を図に表す。 3 登場人物の心情や人物どうしの関係が、どのように変化したのかについて想像する。 ・変化のきっかけになった出来事や言動について考える。 ・「理緒」から見た「高橋さん」の人物像について考える。 ・題名でもある「銀色の裏地」という言葉の意味について考える。 4 P37「考えのまとめ方」を参考に、強く印象に残ったことをまとめる。 ・物語の中の印象的な表現や、自分の経験と重ねて感じたことから考える。 5 考えたことを伝え合い、新たに考えたことや感じたことをノートに書く。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
			6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
4 月	図書館を使いこなそう 1 時間（知・技①） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■本を探して、記録カードを書く。 ☆図書館で本を探す活動（図書館活用）	1	1 何かをさまざまな角度から調べるときに、どのように本を探しているかについて、経験を紹介し合 2 図書館での本の探し方について理解する。 ・「日本十進分類法」について知る。 ・著作権の観点から、図書を活用する際の留意点を確かめる。 3 図書館で、複数の棚から本を探す。 ・自分でテーマやキーワードを決めて探す。 4 P41の記録カードの例を見て、読書記録のつけ方を知る。
4 月	漢字の成り立ち 2 時間（知・技②） ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ）	1 2	1 漢字には、大きく分けて四つの成り立ちがあることを、例とともに確認する。 2 P43の設問 1 に取り組む。 ・漢字辞典を使って、形声文字について確かめ 3 P43の設問 2 に取り組む。 ・漢字辞典を使って、漢字の成り立ちを確かめ 4 学習を振り返る。
4 月	春の空 1 時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■春らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP45の春に関わる言葉、俳句を参考に して、春らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。
5 月	話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう		
	きいて、きいて、きいてみよう 6 時間（話・聞⑥） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ○話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ） ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ■インタビューをし、報告する。 ☆インタビューを行い、報告する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆インタビューの録音・録画（ICT活用）	1 2 3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・生活の中で、どのような「きく」があるのかを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 インタビューの順番を決め、話題を考える。 ・話し手との関わりを思い出しながら、きいてみたい話題を幾つか挙げる。 ・その人の人柄を引き出せそうな話題を考え、質問を挙げる。 3 インタビューのためのメモを用意する。 ・絞った話題について、質問に対する答えを予想し、インタビューのためのメモを書く。 4 活動のしかたや気をつける点を確かめる。 ・P48-49を読み、きき手、話し手、記録者の役割やインタビューの具体的なやり取り、報告のしかたなどについて、全体で確認する。 5 役割を交代しながらインタビューをする。 6 記録したメモを基に報告の準備をする。 7 記録者がインタビューの内容について報告を行い、報告を聞いて気づいたことを伝え合う。 8 「きくこと」について考えたことを伝え合う。 ・役割の違いによって、きき方がどのように違うのかについて話し合う。 9 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
5 月 ～ 6 月	文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう 見立てる 言葉の意味が分かること 【情報】原因と結果 7 時間（知・技①、読⑥） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(1)ア）	1～2	1 学習の見通しをもつ。 ・P51を見て、文化や言葉とものの見方の関わりについて考える。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「見立てる」を読み、事例や文章構成に着目して筆者の主張を見つけて、自分の考えを伝え合う。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	(2)ア) ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)力) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ■考えたことを伝え合う。 ☆外国語や異文化への興味をもち、理解する態度を養う題材(外国語、道徳、総合的な学習の時間)	3 4 5～6 7	3 「言葉の意味が分かること」を読み、筆者の主張を見つける。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習のめあてを確かめる。 ・文章を「初め」「中」「終わり」に分けて、各段落の内容を捉え、文章構成と内容を確認する。 4 文章の要旨を150字以内でまとめる。 5 文章構成や事例の挙げ方、原因と結果の関係、事例と筆者の考えの結び付きなどを確かめる。 ・P63「原因と結果」、P60-61「言葉に着目しよう」を参考にする。 6 筆者の考えや、事例の示し方に対する自分の考えをまとめる。 ・共感できる点や疑問に思う点に変化があったかを考える。 7 自分の考えを伝え合う。 ・筆者の考えに触れながら、文章から読み取れる筆者の考えに対する自分の考えを話す。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
6月	敬語 2時間(知・技②) ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ☆礼儀や言葉遣いが、円滑な人とのつながりをつくることについて考える題材(道徳)	1 2	1 敬語について知る。 ・「問いをもとう」を基に、言葉遣いについて自分なりの考えとその理由をもつ。 ・丁寧語・尊敬語・謙譲語について理解し、ノートにまとめる。 2 P65の設問1に取り組む。 ・どのような表現に変えるとよいかを考え、理由とともにノートに書いて、話し合う。 3 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。
6月	表現を工夫して、俳句を作る 日常を十七音で 3時間(書③) ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ○俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けすることができる。(知・技(1)ウ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■俳句を作る。	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・P66の二つの俳句を読み、「問いをもとう」に沿って感想を話し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 俳句を作る材料を集める。 ・P67のメモの例を参考にして、生活の中で気づいたことや、驚いたこと、心が動いたことなどを短い文で書き留める。 3 材料を基に、5・7・5の17音の形にする。 4 P68を参考に、表現の工夫のしかたを確認する。 5 作った俳句の表現を工夫する。 6 作った俳句を友達と読み合い、言葉や表現を工夫したところや、友達の俳句への感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
6月	漢字の広場① 1時間(書①) ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	1	1 P70に提示された言葉を使いながら、図書館の人になったつもりで、本の場所や図書館の使い方などについて説明する文や文章を書く。 2 書いた文や文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文や文章を読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認する。
6月	古典の世界(一) 2時間(知・技②) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ■古文を音読する。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を	1 2	1 古典の世界を想像して、関心をもつ。 ・P71の絵や文章から気づいたことを出し合う。 2 二次元コードの音声参考に、四つの古典作品の冒頭を音読し、現代語訳や解説から内容の大体を 3 作品を読んで感じたことや考えたことなどをノートに書き、伝え合う。 4 四つの作品を再度読んだり、子ども向けの古典作品集などを読んだりする。 ・「この本、読もう」で紹介されている本も参考にするとよい。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	養う題材（道徳）		5 学習を振り返る。
6月	【情報】目的に応じて引用するとき 2時間（書②） ◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)エ） ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■引用カードを書く。 ☆レポート等を作成する際に、目的に応じて適切な引用を行う活動（理科、社会、総合的な学習の時間）	1～2	1 P76上段を見て、自分にも似た体験がないか想起して紹介し合い、目的に応じた引用の重要性について考えることを押さえる。 2 P76下段を読んで、情報を書き留めるときに気をつけることを確認する。 3 P77の文章と「山下さんの引用カード」を読んで、気づいたことを話し合う。 4 「山下さんの引用カード」を参考にして、「手洗いの際に、蛇口を開めることの大切さを説明する文章を書く場合」という設定で、引用カードを書く。 5 どのような引用カードを書いたのか、伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。
6月～7月	伝えたいことを整理して、報告しよう みんなが使しやすいデザイン 8時間（書⑧） ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■報告する文章を書く。 ☆よりよい社会や学校生活をつくろうと考える題材（道徳、総合的な学習の時間） ☆調べたことを報告する文章の書き方を工夫する活動（理科、社会、総合的な学習の時間） ☆インターネットによる情報収集（ICT活用）	1 2 3～4 5 6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・ユニバーサルデザインについて、知っていることを紹介し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 調べたいことを見つける。 ・P79を参考に、家や町の中にあるものから、誰もが使いやすいように工夫されているものを探す。 3 調べ方を選んで取材し、集めた情報を整理する。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考に、適切な方法を選んで調べる。 ・P76「目的に応じて引用するとき」の学習を参考にして、調べたことを記録する。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考にしながら、集めた情報を整理する方法について考える。 4 報告する文章の構成を考える。 ・P82の作例や二次元コードから見られる作例（全文）を参考に、文章の構成を考える。 5 報告する文章の下書きを書く。 ・小見出しを立てるなどして、まとまりが分かるように書く。 ・本などから引用する場合は、他と区別して書く。 ・まとめは、それまでに述べてきたことと対応させる。 6 下書きを読み直して、清書する。 7 書いた文章を読み合って感想を伝え合う。 ・どんなところがよかったか、そう感じた理由とともに、感想を伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
7月	同じ読み方の漢字 2時間（知・技②） ◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	1 P84上段の問題に取り組み、同じ訓をもつ漢字でも、意味や使い方に違いがあることに気づく。 2 P84の設定1・2に取り組む。 3 P85上段を読み、同じ音をもつ熟語でも、意味や使い方に違いがあることに気づく。 4 P85の設定3・4に取り組む。 5 学習を振り返る。
7月	夏の夜 1時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP87の夏に関わる言葉、俳句を参考に、夏らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。
7月	本は友達		

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	作家で広げるわたしたちの読書 モモ 5時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■本の魅力を伝え合う。 ☆作家を意識して選んだ本を読む活動（図書館活用）	1 2～4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・普段、どのように本を探しているかを想起する。 2 自分の本の選び方について、友達と話す。 ・さまざまな観点があってよいが、作家に着目した発言が出るようにしたい。 3 「モモ」を読んで、感想を伝え合う。 4 これから読みたい作家を決めて、その作家の本を探して読む。 5 P91の作例を参考に「しょうかいカード」を書き、本を紹介し合う。 6 自分の選んだ作家や作品の魅力を紹介し合い、気づいたことを伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。
9月	かぼちゃのつるがわれは草なり 2時間（読②） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■考えたことを伝え合う。	1 2	1 二つの詩を音読する。 ・繰り返しの表現に着目しながら読む。 2 「かぼちゃのつるが」を読み、繰り返しの表現により、どのような様子が想像されるかについて、話し合う。 ・「はい上がり」「葉をひろげ」が、どう繰り返され、何を表しているかを考える。 3 「われは草なり」を読み、「われは草なり」とは、どのようなことを表しているかについて考える。 ・繰り返しの表現が、各連の中で、他の表現とどう二つの詩を読んで、繰り返しの表現があることの効果について、考えをまとめる。 5 学習を振り返る。
9月	どちらを選びますか 2時間（話・聞②） ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ■立場に分かれて話し合う。 ☆適切な資料を用意し、相手が納得する説明をする活動（特別活動）	1～2	1 P104-105を読み、学習の進め方を確認する。 2 海を薦めるチーム（二人）と、山を薦めるチーム（二人）に分かれて、チームごとに薦める理由を考えてノートに書き出す。 3 話し合いを行う。 ・それぞれのチームが意見を言った後、質疑応答をして、互いの考えの違いをはっきりさせる。 ・各チームは、質疑応答を踏まえて考えを整理し、改めて意見を述べる。 ・先生役は、説得力があったチームを判定する。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9月	新聞を読もう 2時間（読②） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けするなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ■新聞記事を読む。 ☆新聞記事等による情報収集（社会、総合的な学習の時間）	1 2	1 新聞の1面の構成について確認する。 ・実際の新聞を用意し、構成を確認しながら、気づいたことや疑問点などをノートに書く。 ・新聞のそれぞれの面には、どのような分野の記事が書かれているかを確認する。 2 P108-109の二つの記事を読み、どんな違いがあるか、どうして違うのかを考え、ノートに書く。 3 二つの記事を比べて考えたことについて話し合う。 4 新聞の中から自分が興味をもったニュースを一つ選び、そのニュースについて、複数の記事を読み比べ、思ったことや考えたことをノートに書く。 5 ノートに書いたことを基に、自分の選んだニュースや記事について紹介し合う。 6 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9月	文章に説得力をもたせるには 2時間（書②） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■考えたことを伝え合う。	1 2	1 意見文における「主張」と「根拠」について知 2 P110-111の意見文の例を読み、「主張」と「根拠」がどのように書かれているかを確認する。 ・「予想される反論」と「反論に対する考え」があるのとないのでは、主張の伝わり方がどのように変わるかを考える。 ・「まとめ」で「主張」と同じ内容が繰り返されていることの効果を考える。 3 自分が毎日を安全に過ごすための方法について意見文を書くことと仮定して、構成や、どのまとまりにどんなことを書くかを考えて、伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
9月	漢字の広場② 1時間（書①）	1	1 P112に提示された言葉を使いながら、作家になったつもりで、登山家の半生を文章に書く。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。		2 書いた文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文章を友達と読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認する。
9月 ～ 10月	物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう たずねびと 6時間（読⑥） ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■考えたことを伝え合う。 ☆戦争や平和について考えさせるとともに、平和を願う心を養う題材（道徳） ☆紹介された本を選んで読む活動（図書館活用）	1 2 3～4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P113を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 本文を読んで、「綾」の心情の変化を捉える。 ・それぞれの場面で「綾」が出会ったものや、登場人物を確かめる。 ・P128「心情の変化をとらえる」を参考に、行動や会話、心情や情景を表す表現に着目して、「綾」の心情の変化を捉える。 3 P129「言葉に着目しよう」を参考にし、物語の全体像を想像する。 ・「きれいな川」や「ただの名前」が、「綾」にとってどんなものになったかを考える。 ・原爆や戦争に対する「綾」の見方がどう変わったかを考える。 ・「綾」が訪ねた場所や出会った人が、それぞれ「綾」に何を伝える役割をしていたかについて考える。 4 自分の思いや考えにどのような変化があったかについて、ノートにまとめる。 ・P129「考えをまとめる例」を参考にする。 5 まとめたことを友達と伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・単元で身につけた力をいかして、P260「チェロの木」を読むことを確かめる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
10月	漢字の広場③ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	1	1 P131に提示された言葉を使いながら、各教科での学習や学校生活について、学級日誌に記録するように文章を書く。 2 書いた文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文章を友達と読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認する。
10月	方言と共通語 2時間（知・技②） ◎共通語と方言との違いを理解することができる。（知・技(3)ウ）	1～2	1 方言と共通語について知る。 ・「問いをもとう」を基に、言葉の中には方言があることに気づく。 ・「方言分布図」を参照し、自分の住んでいる地方で、塩の味を表す言葉としてどう言うか、話し合おう。 2 方言と共通語の特徴と必要性を確かめる。 3 設問に取り組む。 ・自分の住む地域の方言を知る。 ・「たずねびと」の方言の効果について話し合う。 ・方言を使った場合と共通語を使った場合のそれについて話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を読み、これからの生活にいかす視点をもつ。
10月	秋の夕 1時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に對する感賞を養	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP135の秋に関わる言葉、俳句を参考に、秋らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	○語感や言葉の使い方に対する感覚を認識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■秋らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）		4 学習を振り返る。
10月	たがいの立場を明確にして、話し合おう よりよい学校生活のために 【コラム】意見が対立したときには6時間（話・聞⑥） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ◎互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■身の回りの問題について、それぞれの立場から考えを伝えて話し合う。 ☆身近な問題に気づき、仲間と共に解決を図る学習（特別活動、社会、総合的な学習の時間） ☆ICT端末の機能を使って、出てきた考えを整理する活動（ICT活用）	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・学校生活の中でこうなるといいと思うことについて、考えを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 学校生活の中から、議題を決める。 ・新たにしてみたいことや解決したい身近な課題を見つけて、ノートに書く。 ・書いた課題を基にクラスで一つの課題を選び、議題を決める。 3 自分の立場を明らかにするために、考えを書き出す。 ・P138「自分の考えを明らかにするときは」を参考にする。 ・議題についての自分の意見を付箋等に出して書き出す。 4 話し合いのしかたを全体で確認して、進行計画を立てる。 ・P138「進め方の例」を参考にする。 ・グループごとに司会や記録などの役割や、時間配分等を決める。 5 話し合いのときに気をつけることを確認する。 ・「考えを広げる話し合い」「考えをまとめる話し合い」それぞれについて、よりよい意見の伝え方や質問のしかた、意見のまとめ方などを確かめる。 6 話し合いの計画に沿って、グループで話し合う。 ・前時までの学習をいかして話し合う。 ・各自の考えを書いた付箋を利用して、それぞれの考えを整理する。P140「ふせんを使って整理する例」を参考にする。 7 話し合った結果をクラス全体へ報告し、感想を伝え合う。 ・話し合いの中でよかったところを伝え合い、話し合いのよりよい進め方として確かめ合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
11月	浦島太郎——「御伽草子」より 1時間（知・技①） ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ○親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○時間の経過による言葉の変化に気づくことができる。（知・技(3)ウ） ■古典の文章を読み、知っている話と比べて思ったことを話す。 ☆二次元コードから朗読を視聴（ICT活用）	1	1 P144-145を読み、「浦島太郎」の結末について知ることを発表し合う。 2 二次元コードを活用して古典の文章の朗読を聞いたのち、繰り返し音読する。 3 「知っている話と違う」「今の自分たちにも、気持ち分かる」などの視点で考えをもち、友達と話し合う。 4 学習を振り返る。 ・昔の言葉と今の言葉を比べたり、昔の人のものの見方や感じ方について感想をもったりしてまとめる。
11月	和語・漢語・外来語 2時間（知・技②） ◎語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づくことができる。（知・技(3)ウ） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を認識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ）	1	1 言葉には、「和語」「漢語」「外来語」があることを知る。 ・「問いをもとう」を基に、違う言い方があることに気づき、使い分け方について考える。 ・P146の①と②を読み、それぞれから受ける印象の違いについて伝え合う。 ・和語、漢語、外来語の定義を理解する。 2 P147の設問に取り組み、漢語と和語で意味が異なる場合があることを知る。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
		2	3 和語・漢語・外来語の使い分けについて考える。 ・それぞれの特徴をまとめる。 4 身の回りにある文章から、和語・漢語・外来語を探して発表し合い、どのような文章の中に多く見られるかを確かめる。 5 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。
11月	資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう		
	固有種が教えてくれること 自然環境を守るために 【コラム】統計資料の読み方 10時間（書⑤、読⑤） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)エ） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたリ、論の進め方について考えたりすることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ■筆者の説明のしかたの工夫について、考えをまとめて話し合ったり、統計資料を根拠にして意見文を書いたりする。 ☆図表・グラフ等と文章を関連させながら、説明されていることを読み取る活動（社会、算数、理科） ☆理由や根拠を明確にしながら自分の考えを記述する活動（社会、理科、家庭科） ☆固有種や環境について目を向けて考える題材（理科） ☆統計資料がある本を読む活動（図書館活用） ☆グラフや表の作成（ICT活用）	1 2～3 4～5 6 7 8～9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・P149を見て、固有種について知っていることや、自然環境について関心のあることなどを出し合う。 ・自然環境について、自分の考えを文章に書くことを確かめる。 ・教材文を読み、P158「問いをもとう」「目標」 「固有種が教えてくれること」を読むことで、初めて知ったことや興味をもったことを出し合う。 ・筆者の説明の工夫に着目して読んでいくことを確かめる。 2 「固有種が教えてくれること」を読み、初めて知ったことや興味をもったことを出し合う。 ・筆者の説明の工夫に着目して読んでいくことを確かめる。 3 文章の構成を整理して、内容を捉える。 ・「初め」「中」「終わり」のまとまりを確かめる。 ・筆者の考えの中心を捉える。 ・「中」のそれぞれの段落に見出しをつけて整理して、「中」を大きく二つに分ける。 4 筆者が図表やグラフ、写真を使った意図と効果を考える。 ・P158「資料の効果を考えるときは」を読み、意図や効果を考えるときの手がかりにする。 5 筆者の考えや説明の工夫について、資料の効果にも触れながら、自分の考えをまとめる。 ・図表やグラフ等の効果についても触れる。 6 筆者の説明の工夫について、グループで伝え合う 7 学校図書館などで、環境に関する図書を読み、内容や説明のしかたについて感想を伝え合う。 8 学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 ・P160「問いをもとう」「目標」を基に、見通しをもつ。 9 前時までの学習をいかし、環境問題について自分の考えを書くことを確かめる。 ・「問いをもとう」の二次元コードから見られる動画を参考に、日本や世界にある環境問題の中で、特に解決したいものを考える。 10 統計資料を集め、自分の考えをもつ。 ・P161の二次元コードから、環境問題に関するさまざまな統計資料を見てみる。 ・統計資料とそこから分かることを紹介し合う。 ・P165「統計資料の読み方」を読んで参考にす 11 自然環境について、自分の考えをもつ。 ・P162-163の作例を読み、自分の書く文章の見通しをもつ。 ・自分の考えの根拠に適した統計資料を決める。 12 「初め」「中」「終わり」の構成で、書くことを整理する。 ・付箋紙やカードなどを使って、何を、どの順序で書くのかを決める。 13 グラフや表を用いて、考えを書く。 ・自分の考えに合った資料を用いる。 ・P162「グラフや表を用いて書くときは」、P163「グラフや表を用いて書くときの言葉」を読んで、説得力のある文章になるように工夫する。 ・書き上げたら読み返して、説得力のある文章になっているか確かめる。 14 書いた文章を友達と読み合い、説得力のあるところについて、意見や感想を交流する。 15 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
11月	カンジー博士の暗号解読 2時間（知・技②） ◎第5学年までに配当されている漢字を	1～2	1 P166を読み、暗号の解読のしかたを確かめる。 ・同音の漢字が解読の鍵であることに気づく。 ・漢字辞典や国語辞典を使って、漢字を確かめ

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）		2 設問に取り組み、グループで確かめ合う。 3 暗号文を作り、グループで解き合う。
12月	古典の世界（二） 1時間（知・技①） ◎親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ■漢文を音読する。 ☆国語に対する関心と、我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1	1 教師の範読（朗読CD、デジタル教科書、二次元コードの音声）を聞き、読み方やリズムを知る。 2 「論語」や漢詩「春暁」を声に出して読む。 ・漢文特有の言い回しやリズムを味わう。 ・日本語訳（大意）を参考にして意味を捉え、問答の場面や、漢詩の情景を想像する。 ・内容を自分に引き寄せて感想をもち、紹介し合う。 3 グループで交互に音読を聞き合いながら、漢文特有の言い回しやリズムを楽しむ。
12月	漢字の広場④ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、それぞれの県についての文を書く。	1	1 P170に提示された言葉（県名）を使いながら、それぞれの県に入る文を書く。 2 書いた文を読み返すなどして、構成などを考える。 3 書いた文を見せ合って紹介し合うとともに、示された漢字を確認する。 ・クラスやグループで都道府県をぐるりと完成させ、遊んで楽しむ中で、漢字に親しむ。
12月	伝記を読み、自分の生き方について考えよう やなせたかし——アンパンマンの勇氣 5時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。（知・技(3)オ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ■伝記を読み、自分の生き方について考えたことを交流する。 ☆自分の郷土に目を向けさせる題材（総合的な学習の時間） ☆伝記の選書（図書館活用）	1 2～3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・P171を見て、やなせたかしについて、知っていることを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習の見通しをもつ。 ・P181「この本、読もう」も参考にしながら、興味のある伝記を選ぶ。 2 伝記に取り上げられている出来事を確かめる。 ・P182「伝記の表現」から、特色を知る。 ・それぞれの出来事で「たかし」がしたことや考えたこと、人生における意味を確かめる。 3 考え方に着目して、「たかし」の人物像をまとめる。 4 「たかし」の行動や考え方について、自分の考えを書く。 5 選んで読んだ本（伝記）について、考えたことを200字程度で書く。 6 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
12月	意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう あなたは、どう考える 6時間（書⑥） ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけすることができる。（思・判・表B(1)カ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■意見文を書く。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動（社会、総合的な学習の時間） ☆意見や理由とその根拠を説明する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆ICT端末に文章構成の表を用意し、付箋機能を使い、文章の構成を考える活動（ICT活用）	1 2 3 4～5	1 学習の見通しをもつ。 ・他の人の意見を読んで共感したり、意見をもった経験について発表する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 自分の関心のあることから題材を決め、主張を考える。 ・P187の作例を読み、よいところを見つける。 ・P185の投書の例や「題材の例」を参考にして、題材を集めて、その中から決める。 ・P185「主張をはっきりさせるには」を参考に主張の理由や根拠を書き出す。 3 自分の考えを見直したり、グループで見せ合ったりして、他の立場から自分の考えを見直す。 ・主張や理由、根拠について、説得力があると感じたところや補ったほうがよいところを友達と伝え合う。 ・友達の見解を参考にし、自分の主張に対する反論を予想する。 ・必要に応じて、実際にあった出来事を思い出し、図書館やインターネットで情報を調べたり文章の構成を考える。 4 P186の倉田さんの例を参考に、集めた情報から、どれをどの順番で取り上げるかを決める。 ・P186「学びをいかそう」を参考に、説得力を意識した文章構成になるように確かめる。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
		6	5 構成を基に、意見文を書く。 ・P187「考えを表す言葉」を参考にする。 6 書いた文章を読み返して、文章を推敲する。 7 意見文を読んで感想を伝え合い、文章のよさを見つける。 ・P188の感想の例や質問の例を参考にする。 ・P188「感想や質問を伝え合うときは」を参考にして、質問や感想で意見文のよさを引き出した り、気づいたりできるようにする。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返ると ともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力 を押さえる。
12月	冬の朝 1 時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■冬らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP191の冬に関わる言葉、俳句を参考にして、冬らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・自分が書いた「春夏秋冬らしいものや様子」を見直して、振り返ることができるように。
1月	好きな詩のよさを伝えよう 2 時間（書①、読①） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩を紹介する文章を書く。 ☆詩集を読む活動（図書館利用）	1 2	1 教科書にある詩を繰り返し音読し、好きなところや気づいたことなどについて、ノートに書く。 2 それぞれの詩の工夫を確かめる。 ・「言葉に着目しよう」を参考に考え、伝え合 3 教科書にある詩からお気に入りの詩を選び、どこが いいのかをまとめて書く。 4 好きな詩を紹介するカードを書く。 ・これまでに読んだ詩や詩集などからお気に入りの詩を選び、表現のよさを考える。 5 カードを基にして詩を紹介し合う。 6 学習を振り返る。 ・「この本、読もう」で読書の幅を広げる。
1月	言葉でスケッチ 2 時間（書②） ◎目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■情景が伝わるように書く。	1 2	1 メモの書き方をつかむ。 ・P194「観点にそってメモに書き出そう。」を参考にする。 ・教材にある子どもの写真を基に、観点を作ってメモを作成する。 ・メモを作成して、観点に沿って整理する。 2 P195「例」のよいところを見つけて、情景が伝 わってくる表現の工夫のしかたを確かめる。 3 自分が選んだ写真を、言葉で表現する。 4 完成した文章を読み合い、よいところを伝え合 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押 さえ、この後の「書くこと」単元で活用すること を確かめる。
1月	熟語の読み方 2 時間（知・技②） ◎第5学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）	1 2	1 P196上段の熟語は、それぞれの漢字を音読みと訓 読みのどちらで読んでいるかを考える。 2 重箱読みと湯桶読みの熟語について理解する。 3 設問1に取り組み、音読みと訓読みの組み合わせ になっている熟語を探す。 ・重箱読みと湯桶読みに分ける。 4 P197を読んで、特別な読み方をする熟語があるこ とを知る。 5 設問2に取り組み、熟語の読み方を考える。 6 特別な読み方をする熟語を見つけてクイズにし て、紹介し合う。
1月	漢字の広場⑤ 1 時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができ	1	1 P198に提示された言葉とつなぎ言葉を使って、駅 からおばあちゃんの家までの道順を案内する文章 2 書いた文章を読み返すなどして、つなぎ言葉の使 い方や構成などを考える。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	る。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■示された言葉やつなぎ言葉を使って、道順を案内する文を書く。		3 書いた文章を見せ合い、違う道順や違う表現で書いた友達と紹介し合うとともに、示された漢字を確認する。
1 月	事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう 想像力のスイッチを入れよう 6 時間 (読⑥) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■メディアとの関わりについて考えを伝え合う。 ☆メディアとの関わり方について理解し、考えをもつ題材(総合的な学習の時間、日常生活)	1 2～3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P199を見て、「想像力のスイッチ」という言葉から連想することを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 筆者が伝えようとしていることを捉える。 ・文章のまとまりごとに述べられていることをまとめて、概略をつかむ。 3 筆者が挙げた事例と、それぞれの事例に対する筆者の意見をまとめる。 4 事例を挙げて説明することの効果について話し合う。 5 筆者が考える「想像力のスイッチ」について、まとめる。 ・なぜその表現にしたのかを考える。 ・表現に対する自分の意見をもつ。 6 P206「もっと読もう」を参考にして、自分の経験を想起して、メディアとの関わり方についての自分の考えを文章に書く。 7 書いたものを読み合い、互いの考え方の類似点や相違点を見つけて伝え合う。 ・取り入れたい友達の考えを明らかにする。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
1 月	複合語 2 時間 (知・技②) ◎語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	1 2	1 複合語について知る。 ・「問いをもとう」を基に、言葉と言葉が結び付いて、新しい意味をもつことに気づく。 2 複合語の種類を確認する。 ・複合語の組み合わせ方を理解して、設問 1 に取り組む。 3 複合語の特徴を確認する。 ・長い複合語や略語について理解する。 ・発音や音の高低が変わる複合語があることを確認する。 ・設問 2 に取り組む。 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。
2 月	言葉について考えよう 言葉を使い分けよう 3 時間 (知・技①、書②) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■手紙を書く。	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・P213を読み、「問いをもとう」を基にどんなことを考えていくかの見通しをもつ。 2 相手に応じた言葉の選び方について考える。 ・「お知らせをどう書き換えればいいのか」について話し合う。 ・P214「言葉を選ぶときは」を読んで、選び方について確認する。 3 相手や場に応じた言い方について考える。 ・「お知らせ」をどう書き換えればいいのかについて話し合う。 ・P215「言い方を変えるときは」を読んで、よりよい言い方について確認する。 4 P215の課題に取り組む。 ・相手に合わせて言葉を選び、相手や場に応じた言い方をすることの大切さを確認する。 5 言葉や表現に気をつけて手紙の文面を考える。 ・友達と評価し合う。 6 学習を振り返る。 ・これからの生活や学習にいかす視点をもつ。
2 月	読む人を意識して構成を考え、物語を書こう もう一つの物語 6 時間 (書⑥) ◎話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)イ)	1	1 学習の見通しをもつ。 ・別の展開について考えてみたい物語を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	さる。（知・技(1)カ） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。（思・判・表B(1)イ） ■別の物語に書き換える。	2 3 4 5 6	2 作例を基に、「何を」「どのように」書き換えているかをつかむ。 3 書き換えたい物語を選び、変える部分を考える。 ・P218「変える部分を考えるときは」を読み、変え方の参考にする。 ・変える部分を友達と紹介し合って、書き換える物語と、書き換える部分について決める。 4 読む人を意識して、物語の構成を考える。 ・P219「物語の基本的な構成」「塩谷さんの構成メモ」を参考に、構成メモを作成する。 ・塩谷さんの構成の工夫を見つけて、読む人にどう楽しんでもらおうとしているかを予想する。 ・P219「物語の構成を考えたときは」を読んで、構成を考える参考にする。 5 表現を工夫して、物語の下書きをする。 ・読む人にどう感じてほしいかを意識して、物語の「どこに」「何を」書けばよいかを考える。 ・物語の場面を想像して、会話文や登場人物の様子、情景などを工夫して書き表す。 6 物語を清書する。 ・P220「学びをいかそう」を参考に、表現を工夫する。 ・推敲して、仕上げる。 7 読み合って、感想を伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
2月 ～ 3月	事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう 「子ども未来科」で何をする 6時間（話・聞⑥） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ） ◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考慮することができる。（思・判・表A(1)イ） ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■提案するスピーチを行う。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動（社会、総合的な学習の時間） ☆意見や理由と根拠を説明する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆練習時のスピーチの録音・録画（ICT活用）	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・自分が学んでみたいことを考え、発表し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P225「山下さんのスピーチ」を参考に、「何を」「どのように」に伝えるスピーチなのかの見通し 3 考えてみたいテーマを決める。 ・どんな課題があるかを想起して、自分が考えたテーマを決める。 ・課題にしようとしているテーマについて、グループで情報交換する。 4 テーマから課題を考え、情報を集める。 ・自分が決めたテーマについての課題を挙げて、「子ども未来科」で調べそうなことを考える。 ・P223「情報を集めるときは」を参考に、説得力を上げるための情報を集める。 5 スピーチの構成を考える。 ・内容や話す順序を考え、スピーチメモを作る。 ・提示する資料を作る。 ・P224「構成を考えたときは」「資料を作るときは」を読んで、参考にする。 6 スピーチメモを基にして、練習をする。 ・P225「山下さんのスピーチ」や二次元コードを参考に、効果的な言葉の選び方や話し方、資料の示し方などを工夫する。 7 スピーチをする。 ・動画に撮っておき、見返す。 8 感想を伝え合う。 ・話の構成、話し方の両面から、友達のスピーチのよかったところを伝え合う。 9 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
3月	登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう 大造じいさんとガン 6時間（読⑥） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○文章を音読したり朗読したりすることができる。（知・技(1)ケ）	1 2～3	1 学習の見通しをもつ。 ・P227を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「残雪」に対する「大造じいさん」の心情と、その変化に着目して、物語の内容を捉える。 ・P246「言葉に着目しよう」を参考に、「大造じいさん」の心情を表す情景描写の効果について考

5 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の魅力を伝える文章を書く。 ■物語の魅力が表れているところを朗読する。	4 5～6	3 物語の山場について考える。 ・「大造じいさん」の心情が大きく変わるところを探す。 4 読み深める観点を選んで、物語の魅力を見つけて自分の言葉でまとめる。 ・P247「選んで読み深めよう」を参考にする。 ・観点が同じ人どうしや違う人どうしで考えを伝え合い、考えを深める。 5 物語の魅力とそう考える理由をまとめる。 ・物語の魅力がよく表れている場面や文を選んで、そう思う理由を書き表す。 6 選んだ場面や文を朗読で表現する。 ・物語の魅力について書いた文章や朗読について、グループで紹介し合い、考えを比べる。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
3月	漢字の広場⑥ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、出来事を報道する文を書く。	1	1 P249に提示された言葉を使いながら、新聞記者になったつもりで、出来事を報道する文章を書く。 2 書いた文章を読み返すなどして、構成などを考える 3 書いた文章を見せ合い、交流するとともに、示された漢字を確認する。
3月	五年生をふり返って 1時間（書①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。	1	1 1年間の国語学習を振り返る。 ・P252「『たいせつ』のまとめ」を読んで、領域ごとに自分が大切だと思ったことを書き加える。 ・学習で使ったノートやワークシートなどを見返して、それぞれの単元、時間で学んだことを想起する。 2 「自分自身についての言葉の力」と「その力のいかし方」について、自分の考えをまとめて書く。 3 書いた考えを友達と紹介し合う。

評価規準
【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(A(1)エ) 【態】進んで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話そうとしている。
【知・技】詩を音読している。(1)ケ) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア) ・文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ) 【態】積極的に文章の構成や展開について理解し、これまでの学習をいかして自分を紹介する文章を書こうとしている。
【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】粘り強く登場人物の相互関係や心情を捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことを伝え合おうとしている。

評価規準
【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ) 【態】進んで読書が自分の考えを広げることに関与することに気づき、これまでの学習をいかして本を探して、記録カードを書こうとしている。
【知・技】漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ) 【態】進んで漢字の由来、特質などに関心を持ち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って春らしいものや様子を文章に書こうとしている。
【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。(1)イ) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A1)エ) 【態】粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。
【知・技】 ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

評価規準
について理解している。(12)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(1)キ) 【態】進んで日常よく使われる敬語について理解し、学習課題に沿って使い慣れようとしている。
【知・技】 ・俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けている。(1)ウ) ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(B(1)オ) 【態】粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって俳句を作ろうとしている。
【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
【知・技】 ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って古文を音読しようとしている。

評価規準
【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) 【態】進んで目的に応じた引用のしかたを理解し、学習課題に沿って引用カードを書こうとしている。
【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】粘り強く目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。
【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【態】進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心をもち、これまでの学習をいかしてそれらを理解しようとしている。
【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って夏らしいものや様子を文章に書こうとしている。

評価規準
【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ) 【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の魅力を伝え合おうとしている。
【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ) 【態】進んで比喩や反復などの表現の工夫に気づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
【知・技】思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A1)オ) 【態】積極的に互いの立場を明確にして、これまでの学習をいかして立場に分かれて話し合おうとしている。
【知・技】文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C1)ウ) 【態】進んで必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って新聞記事を読もうとしている。
【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B1)イ) 【態】積極的に筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っ

評価規準	
ている。(I)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 (B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。	
【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(知・技(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。	
【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(I)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 (B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。	
【知・技】共通語と方言との違いを理解している。(3)ウ) 【態】進んで方言と共通語の違いに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。	
【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 (1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして	三苗の郷きやリブトに畑ノてい

評価規準
て、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。((B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って秋らしいものや様子を文章に書こうとしている。

【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。((A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。((A(1)オ) 【態】粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。
--

【知・技】 ・親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ) ・時間の経過による言葉の変化に気づいている。((3)ウ) 【態】進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、学習課題に沿って古典の文章について思ったことを話そうとしている。

【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づいている。((3)ウ) 【態】進んで和語・漢語・外来語などの由来に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。

評価規準

【知・技】 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) 【態】粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。	
【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)	

評価規準
【態】進んで漢字の読み方に関心を持ち、これまでの学習をいかして漸次書こうとしている。
【知・技】 ・親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア ・作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って漢文を音読しようとしている。
【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。
【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ) 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

評価規準
【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習の課題に沿って冬らしいものや様子を文章に書こうとしている。
【知・技】 比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に詩を読んでまとめた感想を共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。
【知・技】 比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】粘り強く自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題に沿って情景が伝わるように書こうとしている。
【知・技】 第5学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ) 【態】進んで熟語の読み方に興味をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
【知・技】 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)

評価規準	
	て、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 (B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 (1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習の見通しをもってメディアとの関わり方について話し合おうとしている。
	【知・技】語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態】進んで複合語の構成や変化について関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。 (1)ア) ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 (1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って手紙を書こうとしている。
	【知・技】話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、

評価規準

て、筋道の通った文庫となるように、文章全体の構成や展開を考えている。
(B(1)イ)

【態】粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって物語を書こうとしている。

【知・技】
・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。(1)イ
・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)

【思・判・表】
・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ)

・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。
(A(1)ウ)

【態】粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって提案するスピーチをしようとしている。

【知・技】
・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)
・文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ)

【思・判・表】
・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりしている。

評価規準
が、表現の効果を十分に生かしている。 (C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読ん でまとめた意見や感想を共有し、自分 の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に意見や感想を共有し、 学習の見通しをもって物語の魅力を伝 え合おうとしている。
【知・技】第4学年までに配当されて いる漢字を書き、文や文章の中で使っ ている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」におい て、文章全体の構成や書き表し方など に着目して、文や文章を整えている。 (B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに配当され ている漢字を書き、これまでの学習を いかして文を書こうとしている。
【知・技】言葉には、相手とのつなが りをつくる働きがあることに気づいて いる。(1)ア) 【思・判・表】「書くこと」におい て、目的や意図に応じて、感じたこと や考えたことなどから書くことを選ん でいる。(B(1)ア) 【態】進んで考えたことなどから書く ことを選び、学習課題に沿って1年間 の振り返りを書こうとしている。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
4 月	つないで、つないで、一つのお話 1 時間（話・聞①） ◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■グループで一人 1 文ずつつないで、一つのまとまった話を作る。 ☆よりよい人間関係の形成に関する題材（特別活動）	1	1 扉の詩、目次、P9「国語の学びを見わたそう」を見て、学習の進め方を確かめたり、見通しをもったりする。 2 P17を読み、6 年生の国語学習の目標を書く。 3 「つないで、つないで、一つのお話」の活動の目的と流れを確かめる。 4 最初と最後の 1 文を決め、グループで 2 周する間にお話が完結するように 1 文ずつ話をつなぐ。時間に余裕があれば、「もっと楽しもう」に挑戦する。 5 できたお話を発表して感想を伝え合ったり、友達とお話を作ってどう感じたかを振り返ったりする。
4 月	準備 1 時間（読①） ◎詩を音読することができる。（知・技(1)ケ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■詩の音読を聞き合い、感じたことを伝え合う。 ☆希望と勇気、努力と強い意志に関する題材（道徳）	1	1 詩の内容や情景を思い浮かべながら音読する。 ・誰に向かって、何を呼びかけているのかを考える。 ・言葉の順序や繰り返しの表現など、詩に用いられている表現の工夫に着目する。 ・心に強く響いた言葉が、聞く人の印象に残るよ 2 音読を聞き合い、互いに感じたことを伝え合う。 3 学習のまとめをする。
4 月	伝わるかな、好きな食べ物 続けてみよう 1 時間（書①） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ■文章を読み合い、紹介されている食べ物を当て合う。 ☆食生活への関心を高める題材（家庭科）	1	1 「伝わるかな、好きな食べ物」の活動の目的と流れを確かめる。 2 紹介する食べ物を決め、見た目や食感などの特徴を想起し、書く内容を考える。 3 比喩を用いるなど表現を工夫しながら、おいしさが伝わるように文章を書く。 4 文章を読み合い、何の食べ物かを当て合う。時間に余裕があれば、「もっと楽しもう」に挑戦する。 5 自分が書いた文章のよさや、友達が書いた文章で印象に残った表現について振り返る。 6 P24「続けてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。
4 月	視点や作品の構成に着目して読み、印象に残ったことを伝え合おう 帰り道 5 時間（読⑤） ◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■物語を読み、印象に残ったことについて考えをまとめ、伝え合う。 ☆友情や信頼、相互理解や寛容に関する題材（道徳）	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・P25を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「律」と「周也」の心情や関係の変化を考える。 ・P38「展開にそって比べよう」を参考に、同じ出来事や言葉に対する登場人物の捉え方や心情、考え方をまとめる。 ・二人の心情が伝わるように音読する。 ・P39「言葉に着目しよう」を参考に、複数の表現を関連づけて、天気雨の前後で二人の心情と関係がどう変わったのかを押さえる。 3 「律」と「周也」の人物像を考え、交流する。 ・さまざまな視点から二人の人物像を考える。 ・「1」と「2」に分けて書かれていることの効果を考え、友達と話し合う。 4 特に印象に残ったことについて考えをまとめる。 ・P39「考えをまとめるときの観点の例」を参考に、構成、内容、表現など、さまざまな観点から考えをもつ。 5 考えたことを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
4 月	公共図書館を活用しよう 1 時間（知・技①） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ☆公共図書館の資料やサービスの利用（図書館活用 社会）	1	1 公共図書館を利用した経験を想起する。 ・学校図書館との違いを考える。 2 公共図書館で利用できる資料やサービスを確かめ、利用してみたいものを出し合う。 3 P42「図書館以外の施設も活用しよう」を読み、図書館以外の施設にどんなものがあるかを知る。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	(図書館活用、社会) ☆公共図書館のウェブサイトや電子図書館の利用 (ICT活用)		4 P43の記録カードの例を参考に、読んだ本や調べたことの記録のしかたを知る。 ・実際に、学校図書館や公共図書館で調べたことを記録カードに書く経験をするといふ。
4月	漢字の形と音・意味 2時間 (知・技②) ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。(知・技③ウ) ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技①エ)	1 2	1 同じ部分をもつ漢字には、音も共通する場合があることを理解する。 ・P44の設問1に取り組む。 2 同じ部分をもつ漢字には、意味のうえでつながりがある場合があることを理解する。 ・P45の設問2に取り組む。 3 学習のまとめをする。 ・形(部分)、音、意味の関係に着目して、漢字を読んだり書いたりしようとする意識をもつ。
4月	春のいぶき 1時間 (書①) ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技①オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B①ア) ■身の回りで感じた「春」を、俳句や短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材 (社会、道徳)	1	1 春のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「春」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確認したり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 2 自分の地域の今の「春」を、俳句や短歌に表す。 ・俳句や短歌の形式や決まりを確認する。 ・自分が感じた、どのような「春」を伝えたいのかを考え、それが表れるような言葉を選んで作る。 3 書いた作品をグループで読み合う。 ・春の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。
5月	インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう 聞いて、考えを深めよう 6時間 (話・聞⑥) ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技①オ) ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A①エ) ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技①キ) ■インタビューをする。 ☆よりよい学校生活、集団生活の充実に関する題材 (道徳) ☆礼儀や敬語が円滑な人とのつながりをつくることを実感する活動 (道徳) ☆インタビューを通して必要な情報を集め、自分の考えを深める教材 (社会、総合的な学習の時間) ☆ICレコーダーなどの機器によるインタビューの録音 (ICT活用)	1 2 3～4 5 6	1 学習の見直しをもつ。 ・学校のよいところや学校にどんな人が関わっているかを想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 インタビューの相手を決め、知りたいことを明らかにする。 ・P49「インタビューの相手を考えるときは」を参考に、学校のよいところとの関連を考えながら、インタビューの相手を決める。 ・P49「インタビューの準備をするときは」を参考に、質問や自分の考えをまとめ、インタビューの準備をする。 3 インタビューをする。 ・P50-51の桜井さんのインタビューを読んだり、二次元コードから動画「インタビューの様子」を視聴したりして、相手の思いや考えを引き出すために気をつけたいことを、友達と出し合う。 ・P50「インタビューをするときは」を参考に、相手の思いや考えを引き出すインタビューを行う。 4 話を聞いて考えたことを、伝え合う。 ・考えが深まったり、変化したりした点を明確にする。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
5月 ～ 6月	漢字の広場① 1時間 (書①) ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技①エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B①オ) ■絵の中の出来事を伝える記事を書く。	1	1 教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっている出来事を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、それぞれの出来事を町の人に伝える記事を書く。
5月 ～ 6月	主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう 笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 【情報】主張と事例 7時間 (知・技①、読⑥) ◎図表や絵画などを読み解く能力を高める	1～2	1 学習の見直しをもつ。 ・P53を見て、心の動きが体や時間とどのように関わっているかを考える。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■主張を述べた文章を読み、自分の考えを伝え合う。 ☆物事を科学的に考えるよさに目を向ける題材（理科）	3 4 5 6 7	2 「笑うから楽しい」を、筆者の考えと事例の関係に着目しながら読む。 ・どの段落に筆者の考えと、その基となる事例が書かれているかを確認する。 ・事例を挙げることの効果について考える。 ・この文章に対する自分の考えを友達と話す。 3 「時計の時間と心の時間」を読む。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習のめあてを確認する。 4 文章全体の構成を捉える。 ・「時計の時間」「心の時間」の定義を確認する。 ・「笑うから楽しい」の学習を振り返ったり、P65「主張と事例」を読んだりして、どの段落に筆者の考えが書かれているか、どんな事例が挙げられて 5 筆者が複数の事例を挙げた意図を話し合う。 ・それぞれの事例について、自分の経験を振り返ったり、実験結果を詳しく読み取ったりする。 ・P62-63「話し合いの例」を参考に、複数の事例を挙げた筆者の意図を話し合う。 6 筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。 ・共感・納得したり、疑問に思ったりしたことを、自分の経験を踏まえてまとめる。 7 考えをグループで伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
6月	文の組み立て 2時間（知・技②） ◎文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。（知・技(1)カ）	1 2	1 言葉の順序について理解する。 ・「問いをもとう」を基に、日本語の文の語順の特徴について、友達と考えを出し合う。 2 主語と述語の関係について理解する。 ・一つの文の中に主語と述語の関係が二つ以上出てくる場合があることを知る。 ・主語と述語の関係が複数ある場合には、短い文に分けると読みやすくなることを確認する。 3 P67の設問1・2に取り組む。 4 学習のまとめをする。 ・「いかそう」を読み、文の組み立て方について、今後いかしたい場面を考える。
6月	表現を工夫して短歌を作り、読み合おう たのしみは 3時間（書③） ◎短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■日常の中の楽しみや喜びを短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 短歌に表したい場面を決める。 ・P69の短歌二首を読み、内容を理解する。 ・P69「題材を決めるときは」を参考に、生活の中にある「たのしみ」を探し、そのときの様子や気持ちを細かく思い出す。 3 短歌を作る。 ・短歌が5・7・5・7・7の31音でできていることを確かめ、「たのしみは」で始まる短歌の形にする。 ・比喩を用いたり、言葉の順序を変えたりし、表現を工夫する。 4 短歌を読み合い、感想を伝え合う。 ・P70「感想を伝え合うときは」を参考に、「たのしみ」を感じた題材や場面の切り取り方、それを伝える言葉の使い方などで工夫している点について交流する。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
6月	天地の文 1時間（知・技①） ◎近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ）	1	1 教材文を音読する。 ・リード文を読んで、「天地の文」の成り立ちやおおまかな内容を理解する。 ・二次元コードの音声「天地の文」を参考に、文語調のリズムや響きに親しみ、音読する。 2 大意を参考に内容を捉え、繰り返し音読する。 ・時間や週日など、暮らしの基本となる決め事が書かれていることを確認する。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	知ることのできる。（知・技(1)イ） ■文語調の文章を音読する。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）		3 学習のまとめをする。 ・文語調ならではの言葉の響きやリズム、筆者の考えなどについて感想をもつ。
6 月	【情報】情報と情報をつなげて伝えるとき 2 時間（書②） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■条件に即して、報告書を書き直す。 ☆調べた情報を整理して伝える方法を学ぶ教材（理科、社会、総合的な学習の時間）	1 2	1 情報を整理して伝える必要性を理解する。 ・P74の矢島さんの例を見て、情報どうしの関係を整理することの大切さを感じる。 ・身近な例を取り上げて、情報と情報にはどのような関係があるか、またその関係を伝えるための言葉や表現を知る。 2 P75の設問（▼）に取り組む。 ・「地産地消」の定義を付け加えたり、情報と情報をつなぐ言葉を挿入したりする。 ・複数の情報の共通点を見つけ、まとめの文を書く。 3 学習を振り返る。 ・「いかそう」を読み、書くときだけでなく、文章を読むときにも、情報と情報との関係に着目するとよいことを確認する。
6 月 ～ 7 月	構成を考えて、提案する文章を書く デジタル機器と私たち 8 時間（書⑧） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■考えたことや伝えたいことを基に提案する文章を書く。 ☆デジタル機器への関心を高める題材（ICT活用） ☆図書館での情報収集（図書館活用） ☆インターネットによる情報収集や、文書作成ソフトによる制作（ICT活用） ☆インタビューによる情報収集（社会、総合的な学習の時間） ☆調べたことを基に、提案する文章を書く活動（社会、総合的な学習の時間）	1 2～3 4～5 6～7 8	1 学習の見直しをもつ。 ・デジタル機器との付き合い方を振り返る。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 グループでテーマを決める。 ・P77「テーマを決めるときは」を参考に、さまざまな観点からテーマを考える。 3 情報を集めて、提案内容を考える。 ・本やインターネットで調べたり、身近な人にインタビューしたりする。 ・集めた情報に関連する体験を出し合い、提案内容を検討する。 4 提案する文章の構成を考える。 ・P78「提案する文章の構成を考えるときは」や、P79「ふせんを使って、構成を考える例」を参考に、文章の構成を話し合う。 ・P278「課題解決に向けて考える」を参考にするとよい。 ・話し合いを振り返り、どのように構成を決めたかをノートに書く。 5 提案する文章を書く。 ・P80「岩木さんたちが書いた、提案する文章」や二次元コードから見られる作例（全文）を基に、提案する文章のイメージを共有し、グループで分担を決める。 ・P79「提案する文章を書くときの言葉」やP74「情報と情報をつなげて伝えるとき」の学習を参考にする。 ・文書作成ソフトを用いてもよい。 ・書き終わったらグループで読み返し、説得力があるかどうかを確かめる。 6 読み合って、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
7 月	夏のさかり 1 時間（書⑩） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■季節を感じる語句を使って、手紙を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1	1 夏のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「夏」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確認したり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 2 自分の地域の今の「夏」を、手紙に書く。 ・手紙の形式を確かめる。 ・自分が感じた、どのような「夏」を伝えたいのかを考え、それが表れるような言葉を選んで書く。 3 書いた手紙をグループで読み合う。 ・夏の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
7 月	本は友達 私と本 星空を届けたい 5 時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■テーマに沿って読んだ本を紹介するブックトークを行う。 ☆ブックトークに向けた読書（図書館活用） ☆共生社会に目を向ける題材（道徳）	1 2 3 4 5	1 学習の見直しをもつ。 ・リード文を読み、自分の読書生活を振り返る。 ・「見直しをもとう」を基に、学習計画を立てる。 2 本を読むことをきっかけに、どのように知識や考えを広げたり深めたりしているかを話し合う。 3 印象深い本について、友達と話す。 ・これまでに読んだ中で、心に残っている本を想起し、その本がもつテーマについて、友達と話をし合う。 4 テーマに着目して、複数の本を読む。 ・P87「テーマと本の例」やP280「本の世界を広げよう」を参考に、一つのテーマに関する複数の本について、並行読書を始めてもよい。 5 「星空を届けたい」を読み、ブックトークの手順を確かめる。 ・「星空を届けたい」を読んで、印象に残ったことを交流する。 ・P88「ブックトークの例」を読み、「初め」「中」「終わり」の構成で、テーマに沿って本を紹介することを理解する。 6 ブックトークをする。 7 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で本の読み方を押さえる。
9 月	せんねん まんねん 名づけられた葉 2 時間（読②） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■詩を読み、考えたことを伝え合う。 ☆個性の尊重、努力と強い意志に関する題材（道徳）	1 2	1 二つの詩を音読する。 2 表現の工夫に着目して、詩の内容を捉える。 3 二つの詩の題名が表していることや、描かれている思いについて、話し合う。 ・繰り返しの表現や比喩など、表現の工夫に着目する。
9 月	いちばん大事なものは 2 時間（話・聞②） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎互いの立場や意図を明確にしながらいかに計画的に話し合い、考えを広げたりまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ■メンバーを替えながら、グループで考えを尋ね合う。 ☆よりよい人間関係の形成に関する題材（特別活動） ☆相互理解、寛容に関する題材（道徳）	1 2	1 これからの生活で、どのようなものや考え方を大事にしていきたいか、自分の考えをノートに書く。 2 3 人一組のグループをつくり、考えを伝え合う。 ・互いの考えがよく分かるように、理由や、これまでの経験などを尋ね合う。 ・メンバーを二度入れ替え、同様に考えを聞き合ったり、前のグループで出た話題などを共有したりする。 ・最後に、初めのグループに戻って、交流する。 3 最終的な考えをまとめ、交流する。 ・変わったり深まったりした自分の考えを、ノートに書く。 ・書いたものを見せ合い、互いの「いちばん大事なものの」や、対話する意義について交流する。
9 月	インターネットでニュースを読もう 3 時間（読③） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■ニュースサイトと新聞を比較して読む。 ☆インターネットによる情報収集（ICT活用）	1 2 3	1 ニュースサイトの読み方や活用のしかたについて学習することを理解する。 ・P105脚注を基に、「ニュースサイト」とは何かを確認する。 2 ニュースサイトのトップページの特徴を知る。 ・P105「トップページの例」を参考に、トップページの特徴を考える。 ・ニュースサイトを利用した経験を話し合う。 3 ニュースサイトと新聞の記事を比べる。 ・P106の恐竜化石に関するニュースを基に、ニュースサイトと新聞の相違点を考える。 ・P107の吹き出しとニュースサイトの記事を照らし合わせ、情報の正しい読み取り方について考える。 ・さらに情報を得たいときの検索のしかたについて学習する。 4 実際にニュースサイトにアクセスし、興味のあるニュースを読んだり、さらに知りたいことを検索したりする。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。
9 月	文章を推敲しよう 1 時間（読④）	1	1 P108とP308を読み、「推敲」について知る。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	2時間（書②） ◎文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ） ■文章を推敲する。 ☆持続可能な社会に関する題材（社会）	2	2 P108の設問（▼）に取り組む。 ・P108「書きこみの例」を参考に、文章に赤字で書き込む。 3 P109の設問（▼）に取り組む。 ・桜井さんの直した文章と、自分が赤字で書き込んだ点とを比べる。 ・気づいたことを、グループで話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。
9月	漢字の広場② 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の人々の行動を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、遊園地での人々の行動を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、遊園地での人々の行動を、文章に書く。
9月 ～ 10月	作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう やまなし 【資料】イーハトーヴの夢 8時間（読⑧） ◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■物語と資料を重ねて読み、作品世界について考えたことを書いて、伝え合う。 ☆生命や自然との関わりに関する題材（道徳） ☆キャリア形成と自己実現に目を向ける題材（特別活動）	1 2～3 4～5 6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・P111を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「やまなし」の作品世界を捉える。 ・二枚の青い幻灯に描かれた谷川の風景が分かる言葉や文を探す。 ・資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について感想を伝え合う。 3 「やまなし」の作品世界を読み深める。 ・作者の独特な表現に着目し、心を引かれる表現から情景を豊かに想像する。 ・かへの様子、水や光の様子、上から来たものについて、「五月」と「十二月」の場面が使われている言葉に着目して対比する。 ・作者がなぜ「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのかを考える。 4 作者が作品に込めた思いを考える。 ・P133「考えをまとめるとき」を参考に、自分の考えを文章にまとめる。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・友達のと違うところや、「いいな。」と思ったところを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつとともに、P266「物語の世界を作る表現」で表現や構成に着目して本を読むことへの意欲を高める。
10月	漢字の広場③ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵を基に、冒険物語を書く。	1	1 教科書の絵を見て、絵の中の魔法使いを主人公にした冒険物語のストーリーを考える。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、魔法使いが冒険する物語を書く。
10月	熟語の成り立ち 2時間（知・技②） ◎語句の構成や変化について理解することができる。（知・技(1)オ） ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	1 漢字二字の熟語の成り立ちを理解する。 ・漢字二字の熟語には、4通りの成り立ちがあることを理解する。 ・P136の設問1に取り組む。 2 漢字三字の熟語の成り立ちを理解する。 ・漢字三字の熟語には、3通りの成り立ちがあることを理解する。 3 漢字四字以上の熟語の成り立ちを理解する。 ・普通は、幾つかの語の組み合わせでできていることを確認する。 4 P137の設問2に取り組む。 ・新聞や本などから、漢字三字以上の熟語を探してもよい。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
			5 学習のまとめをする。
10月	秋の深まり 1時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■身の回りで感じた「秋」を、俳句や短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1	1 秋のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「秋」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確認したり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 2 自分の地域の今の「秋」を、俳句や短歌に表す。 ・俳句や短歌の形式や決まりを確認める。 ・自分が感じた、どのような「秋」を伝えたいのかを考え、それが表れるような言葉を選んで作 3 書いた作品をグループで読み合う。 ・秋の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。
10月	目的や条件に応じて話し合おう みんなで楽しく過ごすために 【コラム】伝えるにくいことを伝える 6時間（話・聞⑥） ◎思考に関わる語句の量を増し、話の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ◎互いの立場や意図を明確にしながらい画的に話し合い、考えを広げたりまとめたることができる。（思・判・表A(1)オ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ■目的や条件に応じて話し合う。 ☆学校における多様な集団の生活の向上に関する題材（特別活動） ☆親切や思いやり、相互理解や寛容に関する題材（道徳） ☆探究的な課題の解決に関する活動（総合的な学習の時間）	1 2 3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでの学校や地域の行事を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 議題を確認める。 ・活動の目的や条件をはっきりさせ、話し合いの見通しをもつ。 3 自分の考えを明確にする。 ・P142「考えを書き出した例」を参考に、主張、理由、根拠に分けて、考えを整理する。 4 グループの中で役割を決め、進行計画を立てる。 ・司会や記録係などの役割を決める。 ・P142「進め方の例」を参考に、進行計画を立て、時間配分を決める。 5 話し合いで気をつけることを考える。 ・P143「考えを広げる話し合いのときは」やP144「考えをまとめる話し合いのときは」、P143の二次元コードから視聴できる動画「話し合いの様子」を参考に、どのようなことに気を付けて話し合うとよいかを考える。 ・P146「伝えるにくいことを伝える」を参考に、話し合いでの発言のしかたについて考える。 6 進行計画に沿って、話し合う。 ・P143「話し合うときに意識すること」を参考に、話し合いの目的や、それぞれの考えの共通点・相違点、利点・問題点などを明確にする。 ・進行計画に沿って、考えを広げる話し合いと、考えをまとめる話し合いを区別しながら活動を進める。 ・話し合いの過程を共有できるように、記録係を中心に記録を取り、整理しながら進める。 ・話し合いで決まった仮の結論を実際に試し、問題点や改善点が生じた場合には、考えを広げる話し合いとまとめる話し合いを繰り返す。 7 話し合ったことをクラスで共有し、感想を伝え合う。 ・話し合いの結果だけでなく、話し合いのしかたのよかった点も伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかにそう」で身につけた力を押さえる。
10月	話し言葉と書き言葉 1時間（知・技①） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ）	1	1 話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・「問いをもとう」を基に、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。 ・P148の二次元コードから、話し言葉の例を音声で聞いてもよい。 ・P148-149「話し言葉」、P149「書き言葉」を読み、話し言葉と書き言葉、それぞれの特徴や気をつけるべき点を整理する。 2 P149の設定問1に取り組む。 ・好きな教科やスポーツなど、身近なテーマで友達に短いインタビューをする。 ・聞き取ったことを文章に書いて見せ合い、話し言葉と書き言葉の違いを確認める。

6 年

[illegible]

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	に注意して正しく書くことができる。 (知・技(1)ウ) ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	2	3 P171の設問1・2・3に取り組む。
12月	漢字の広場④ 1時間(書①) ○第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■絵の中の出来事などを説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、テレビ局の様子や出来事を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、どこで、どんなことが行われていたかなど、見学したことを家の人に分かりやすく伝える文章を書く。
12月	物語を読んで考えたことを、伝え合おう		
	ぼくのブック・ウーマン 4時間(読④) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けてまとめ、語り合う。 ☆本の役割や読書の意義に目を向ける題材(図書館活用) ☆翻訳作品についての関連読書(図書館活用)	1 2 3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・P173を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 物語の設定を確かめる。 3 物語全体を通して、「カル」がどのように変化したのかを考える。 ・「カル」の視点から語られていることの効果を考える。 ・「カル」の、「ブック・ウーマン」や本に対する見方の変化が分かる表現を探す。 ・本が読めるようになったことに対する「カル」の思いが、物語全体にもつ意味を考える。 4 物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験などと結び付けながらノートにまとめる。 ・P185「生活や読書経験と結び付ける視点の例」「考えをまとめる例」を参考に、考えをまとめ 5 まとめたものをグループで読み合い、考えの共通点や相違点を語り合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で、翻訳作品を読むことへの意欲を高める。
12月	相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう		
	おすすめパンフレットを作ろう 6時間(書⑥) ○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ■推薦したいものを、パンフレットにまとめる。 ☆図書館での情報収集(図書館活用) ☆インターネットによる情報収集(ICT活用)	1 2 3 4～5	1 学習の見通しをもつ。 ・リード文を読み、元気になったり感動したりした映画や音楽、本などを想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 グループで推薦したいもののテーマを決め、情報を集める。 ・P189「取り上げるものの例」を参考にテーマを決め、どんな人に推薦したいかを考える。 ・P311「図を使って考えよう」を参考に、出てきたアイデアを整理する。 3 集めた情報を基に、グループでパンフレットの構成を考える。 ・P190「パンフレットの構成を考えたときは」を参考に構成を考え、分担を決める。 4 担当するページの割り付けと、推薦する文章の構成を考える。 5 推薦する文章を書く。 ・P192「すいせんする文章の例」を読み、どんな工夫があるかを友達と話し合う。 ・書き終わったら、P192「書き表し方を工夫するときは」を用いて、自分が書いた文章を確認したり、グループみんなで推敲したりする。 ・P108「文章を推敲しよう」で学習したことを振り返り、推敲する際の参考にする。 ・P191「参考にした資料を示すときは」を参考に、裏表紙を書く。 ・グループ全員の分が完成したら、1冊にまとめる。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
		6	6 読み合って、感想を伝え合う。 ・心を動かされた内容だけでなく、言葉や写真の選び方、割り付けのしかたなど、書き表し方についてもよいところを伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
12月	冬のおとずれ 1時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■季節を感じる語句を使って、手紙を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1	1 冬のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「冬」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確認したり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 2 自分の地域の今の「冬」を、手紙に書く。 ・手紙の形式を確認する。 ・自分が感じた、どのような「冬」を伝えたいのかを考え、それが表れるような言葉を選んで書く。 3 書いた手紙をグループで読み合う。 ・冬の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。
1月	詩を朗読してしょうかいしよう 2時間（読②） ◎詩を朗読することができる。（知・技(1)ケ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■お気に入りの詩を朗読して紹介する。 ☆詩集からお気に入りの詩を選ぶ活動（図書館活用）	1 2	1 三つの詩を朗読する。 ・詩を読んで感じた様子や思いが伝わるように、工夫する。 2 お気に入りの詩を朗読する。 ・これまでに読んだ詩や、詩集などから、お気に入りの詩を選ぶ。 ・選んだ詩について、どこが心に響いたのかを、表現や内容から考える。 ・お気に入りの詩を朗読し、友達に紹介する。詩から感じたことも伝える。
1月	知ってほしい、この名言 2時間（書②） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■名言を紹介する。 ☆本やことわざ辞典、名言集などによる情報収集（図書館活用） ☆インターネットによる情報収集（ICT活用）	1 2	1 名言だと思う言葉を集める。 ・本やテレビ、インターネットなどで集めたり、ことわざ辞典や名言集などから選んだりする。 ・集めた言葉を付箋に書き出す。 2 集めた言葉を整理する。 ・集めた言葉を、「自分にとって大事か」「みんなに教えたいか」などの点から整理する。 ・P311「図を使って考えよう」を参考にするとよい。 3 言葉を選んでカードに書き、読み合う。 ・紹介したい言葉を幾つか選び、誰の言葉か（出典）、その言葉の意味、紹介したい理由などをカードに書く。 ・カードを読み合い、友達が紹介した言葉の中で心に残ったものをノートに書く。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確認する。
1月	日本の文字文化 【コラム】仮名づかい 2時間（知・技②） ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。（知・技(1)ウ） ◎語句の由来などに関心をもち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ） ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1 2	1 「問いをもとう」を基に、身の回りで使われている文字や、その特徴について考える。 2 P200-201「日本語の表記」を読む。 ・「漢字仮名交じり文」「表意文字」「表音文字」などの言葉を知るとともに、日本語の表記の特徴を理解する。 3 P201の設問1に取り組む。 4 P201-202「仮名の由来」を読む。 ・平仮名や片仮名の成り立ちを理解する。 ・二次元コードから見られる資料「万葉仮名」を使って、周りにある言葉を万葉仮名で表してもよい。 ・P203「仮名づかい」を読み、注意が必要な言葉について考える。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
			5 学習のまとめをする。 ・P276「言葉の交流」と関連を図ることも考えられる。 ・「いかそう」を読み、漢字や仮名、ローマ字の使い分けに関し、今後にいかす視点をもつ。
1月	漢字の広場⑤ 1時間(書①) ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■絵の中の様子を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、商店街の通りやお店の中の様子、人々の会話を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、商店街の様子を表す文章を書く。
1月	筆者の考えを読み取り、テーマについて考えを述べ合おう 「考える」とは 6時間(読⑥) ◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■複数の文章を読み、考えたことを伝え合う。 ☆一人一人のキャリア形成と自己実現に関する題材(特別活動) ☆真理の探究に関する題材(道徳)	1 2 3～4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P205を見て、「考える」とは何かを考える。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 それぞれの文章で筆者が最も伝えたいことを考える。 ・筆者が最も伝えたいことが書かれている叙述を探す。 ・それぞれの筆者が「考える」ことをどのように捉えているかを、短い文で表す。 3 筆者がどのように自分の考えを伝えようとしているか、文章の特徴を明らかにする。 ・論の展開のしかたや構成、事例に着目する。 ・P212「言葉に着目しよう」を参考に、筆者の書き方の特徴が表れている言葉や表現を見つける。 4 三つの文章を読んで考えたことをまとめる。 ・特に印象に残ったこととその理由、自分の知識や経験と比べて気づいたこと、自分の考えとの共通点や相違点などを書く。 ・「考える」ということに対する、自分の考えを書く。 5 グループで考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
1月	使える言葉にするために 1時間(知・技①) ◎第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ☆各教科の学習の中で使われる言葉(社会、算数、理科)	1	1 言葉を使う場面や、使い方を理解するために、どのようなことをすればよいか、友達と話し合う。 ・言葉を覚えてよかったこと、読み方や表記が分からなかったときの対処法などについて、考えを出し合う。 2 P216の設問(▼)に示されている言葉について、読み方や意味が分からないものがあれば、辞書で調べる。
1月 ～ 2月	言葉について考えよう 日本語の特徴 3時間(知・技①、書②) ○語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・	1 2	1 学習の見通しをもつ。 ・P217を読み、「問いをもとう」を基に日本語の特徴を考える。 2 同じ内容について書かれた、日本語と英語の文を比べ、気づいたことを話し合う。 ・P218の吹き出しを例に、文の組み立て(語順)、表記などに目を向けて考える。 ・英語以外の言語とも比べる。 3 P219の説明や「言語の特徴を考えるときは」を参考に、日本語の特徴をまとめる。 ・文の組み立てと表記に着目して、特徴を押さえる。 ・雨に関係する表現が豊富にある理由を考え、日本語の語彙の特徴を見いだす。

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	表B(1)ウ) ■日本語の特徴を紹介する文章を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳） ☆日本語と外国語の違いに気づき、その背景にある文化に対する理解を深める題材（外国語）	3	4 「日本語のここが面白い。」と思うところを紹介する文章を書き、友達と読み合う。 ・教科書やノートを見返して、題材を一つ選ぶ。 ・P66「文の組み立て」、P200「日本の文字文化」、P276「言葉の交流」を参考にするとよい。 ・具体例を基に、おもしろいと思ったところや理由、表現するときの留意点や活用方法などを書く。
2 月	書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう		
	大切にしたい言葉 6 時間（書⑥） ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■大切にしたい言葉に対する思いを書く。 ☆キャリア形成と自己実現に関する題材（特別活動）	1 2 3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・この6年間で出会った言葉を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 大切にしたい言葉を選び、関連する経験を書き出す。 ・P198「知ってほしい、この名言」で学習したことをいかす。 ・P311「図を使って考えよう」を参考に、集めた言葉を整理し、優先順位をつける。 3 書く分量を確かめ、文章構成を考える。 4 下書きをし、友達と読み合って推敲する。 ・P223「読み合って、助言するときは」を参考に、その言葉への思いがより伝わるように助言し 5 書き表し方を工夫して清書する。 ・P224-225の作例を読み、工夫している点と、その工夫のよさを話し合う。 ・P224「書き表し方を考えるときは」を参考に、書き表し方を工夫する。 6 読み合って、感想を伝え合う。 ・付箋などを使って、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
2 月	資料を使って、みりよく的なスピーチをしよう		
	今、私は、ほくは 6 時間（話・聞⑥） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ） ◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。（知・技(1)キ） ○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ■自分の思いや考えを伝えるスピーチをする。 ☆キャリア形成と自己実現に関する題材（特別活動） ☆希望と勇気、努力と強い意志に関する題材（道徳） ☆プレゼンテーションソフトを使った活動（ICT活用）	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでの小学校生活を想起し、今、どんなことを思うかを考える。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 スピーチの話題と内容を決める。 ・P227「スピーチの内容を考えるとときは」を参考に、将来、どんな自分でありたいかそう考えるようになったきっかけや、そのときに感じたことを書き出し、整理する。 3 構成を考えて、スピーチメモを作る。 ・P227「岩木さんのスピーチメモ」を参考に、「初め」「中」「終わり」の構成で、大体的内容を考える。 4 発表に必要な資料を準備する。 ・どこで、どんな資料を見せると効果的かを考え、プレゼンテーションソフトなどを使って資料を作る。 ・P228「資料を作るときは」を参考に、情報量、文字や写真の大きさなどを工夫する。 5 スピーチの練習をする。 ・P229「岩木さんのスピーチ（「中」の部分）」や二次元コードから視聴できる動画「スピーチの様子」を見て、工夫を見つける。 ・練習の様子を撮影して見返すなどして、資料の示し方や話し方、言葉の選び方を工夫する。 6 スピーチの会を開く。 ・P229「スピーチをするときは」を参考に、資料の示し方や話し方などの工夫について考える。 7 感想を伝え合う。 ・友達のスピーチを聞いて、資料や話し方などについて、よかったところを伝える。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。
3 月	登場人物の生き方について、考えたことを話し合おう		

6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動
	海の命 6 時間（読⑥） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■それぞれの人物の生き方に対する考えを話し合う。 ☆よりよく生きる喜びや生命の尊さに目を向ける題材（道徳）	1 2 3～4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P231を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読んで、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 物語の構成と内容を確認する。 ・場面や出来事、「太一」と他の登場人物との関係を捉える。 3 周囲の人物との関わりが、「太一」の生き方や考え方にどのような影響を与えたのかを読み深める。 ・P245「選んで読み深めよう」から観点を一つ選び、選んだ観点を基に、周囲の人物の行動や会話に着目し、「太一」がそれをどのように受け止めたかを考える。 ・着目した点が同じ人や違う人と考えを伝え合い、考えを深める。 ・「太一」の考える「本当の一人前の漁師」とは、どんな漁師かを想像する。 ・「太一」が「瀬の主」を打たなかった理由を考える。 4 自分の考えをまとめる。 ・「海の命」とは何かを考え、まとめる。 ・それぞれの人物の生き方と、それに対する自分の考えをまとめる。 5 考えたことをグループで伝え合う。 ・P309「言葉の宝箱」を活用するとよい。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。
3 月	漢字の広場⑥ 1 時間（書①） ◎第 5 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中のさまざまな場面の様子を想像して、文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、いつ、どこで、どんなことがあったのか、6 年間の学校生活のさまざまな場面の様子を想像する。 2 提示された言葉を使い、5 年生までに習った漢字を正しく用いて、いつ、どこで、どんなことがあったのかを伝える文章を書く。
3 月	卒業するみなさんへ 中学校へつなげよう 生きる 人間は他の生物と何がちがうのか 4 時間（書①、読③） ○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○詩を朗読することができる。（知・技(1)ケ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩と文章を読んで、感じたことを伝え合ったり、考えをまとめたりする。 ☆相互理解や寛容、公平や社会正義、よりよく生きる喜びに目を向ける題材（道徳） ☆探究的な見方・考え方を働かせ、自己の生き方を考えていく題材（総合的な学習の時間）	1 2 3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・P248-249を見て、6 年間の国語の学習で取り組んできた活動を想起する。 2 6 年間で身につけた力を振り返る。 ・P250「中学校へつなげよう」やP262「『たいせつ』のまとめ」を参考に、身につけた言葉の力を振り返る。 ・特に身についたと思う言葉の力と、その力を今後どんな場面でいかしていきたいかを、P251に書き表す。 3 「生きる」を読み、感じたことを友達と話し合ったり、朗読したりする。 4 「人間は他の生物と何がちがうのか」を読み、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。 5 本単元をまとめる。 ・これからの生活や学習で、どのように言葉と向き合っていきたいかを考える。

評価規準

【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア)

【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)

【態】進んで話の内容を捉えながら相手の話を聞き、これまでの学習をいかしてお話作りに取り組もうとしている。

【知・技】
・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)

・詩を音読している。(1)ケ)
【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)

【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って感じたことを伝え合おうとしている。

【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)

【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ)

【態】積極的に表現を工夫し、これまでの学習をいかして互いの文章を読み合おうとしている。

【知・技】
・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)

・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)

【態】進んで登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことについて考えを伝え合おうとしている。

【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ)

【態】進んで公共図書館の役割や特徴について知り、学習課題に沿って利用してみたいものや本の記録のしかたについて考えようとしている。

評価規準

について考えようとしている。

【知・技】

・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)
・漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ)

【態】進んで漢字の由来、特質などについて理解し、これまでの学習をいかして漢字を文や文章の中で使おうとしている。

【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア)

【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして俳句や短歌を作ろうとしている。

【知・技】

・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)
・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(1)キ)

【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A1)エ)

【態】進んで話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習課題に沿ってインタビューをしようとしている。

【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B1)オ)

【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして記事を書こうとしている。

【知・技】

・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)

評価規準

・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】

・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア)

・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)

【態】進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。

【知・技】文の中での語句の係り方や語順について理解している。(1)カ)

【態】進んで文の中での語句の係り方や語順について理解し、これまでの学習をいかして設問に取り組もうとしている。

【知・技】

・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)

・語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)

【思・判・表】

・「書くこと」において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

・「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけている。(B(1)カ)

【態】学習の見通しをもって短歌を作り、積極的に短歌に対する感想や意見を伝え合おうとしている。

【知・技】

・近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)

・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ)

【態】進んで言葉の響きやリズムに親

評価規準

【意】進んで言葉の書き方・読み方に親しみ、これまでの学習をいかして音読しようとしている。

【知・技】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。
(2)イ

【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

【態】進んで情報と情報との関係づけのしかたについて理解を深め、学習課題に沿って報告書を書き直そうとしている。

【知・技】
・文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)

・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。
(B(1)イ)

【態】積極的に文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって提案する文章を書こうとしている。

【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。
(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。
(B(1)ア)

【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。

評価規準

【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ)

【思・判・表】

・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)

・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)

【態】進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかしてブックトークをしようとしている。

【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)

【態】積極的に表現の工夫に気づき、これまでの学習をいかして考えたことを伝え合おうとしている。

【知・技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)

【態】積極的に考えを広げ、学習課題に沿って考えを尋ね合おうとしている。

【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)

【思・判・表】

・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけている。(C(1)ウ)

・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)

【態】進んでニュースサイトの特徴を理解し、これまでの学習をいかしてニュースサイトと新聞を比較して読もうとしている。

【知・技】文の中での語句の係り方や

評価規準

語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。(1)カ)

【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)

【態】進んで文章全体の構成や書き表し方などに着目し、学習課題に沿って文章を推敲しようとしている。

【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)

【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。

【知・技】
・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)

・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)

【思・判・表】「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)

【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。

【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)

【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして物語を書こうとしている。

【知・技】
・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

・語句の構成や変化について理解している。(1)オ)

【態】進んで熟語の構成についての理解を深め、学習課題に沿って熟語を探したり組み合わせを考えたりしようとしている。

評価規準

【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。
 (1)オ)
 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。
 (B(1)ア)
 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして俳句や短歌を作ろうとしている。

【知・技】
 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。
 (1)ア)
 ・思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っている。(1)オ)
 【思・判・表】
 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)
 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)
 【態】粘り強く考えを広げたりまとめたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。

【知・技】話し言葉と書き言葉の違いに気づいている。(1)イ)
 【態】進んで話し言葉と書き言葉の違いに気づき、これまでの学習をいかして設問に取り組もうとしている。

評価規準

【知・技】

- ・親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア
- ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ

【態】進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、これまでの学習をいかして「柿山伏」を音読したり演じたりしようとしている。

【知・技】

- ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク
- ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ

【思・判・表】

- ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ

- ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえて、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C1)ア

- ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C1)ウ

【態】粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。

【知・技】

- ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。

評価規準

(1)ウ)
 ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)
 【態】工夫して漢字学習を行うことに進んで取り組み、これまでの学習をいかして漢字を正しく書こうとしている。

【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)
 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)
 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。

【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気づいている。(3)オ)
 【思・判・表】
 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。(C(1)エ)
 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)
 【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

【知・技】
 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア)
 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)
 【思・判・表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)
 【態】進んで引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって推薦したいものをパンフレットにまとめようとしている。

評価規準

【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。
 (1)オ
 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。
 (B1)ア
 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。

【知・技】
 ・詩を朗読している。(1)ケ
 ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ
 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。
 (C1)カ
 【態】進んで詩を朗読し、これまでの学習をいかしてお気に入りの詩を紹介しようとしている。

【知・技】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。
 (2)イ
 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア
 【態】進んで集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習課題に沿って名言を紹介しようとしている。

【知・技】
 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。
 (1)ウ
 ・語句の由来などに関心を持ち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ
 【態】進んで仮名及び漢字の由来、特質などについて理解し、これまでの学習をいかして適切な表記を考えようとしている。

評価規準

【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)
 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)
 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。

【知・技】
 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ)
 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)
 【思・判・表】
 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)
 ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)
 【態】粘り強く文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

【知・技】第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)
 【態】進んで第6学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、読み方や意味が分からない言葉を辞書で調べようとしている。

【知・技】
 ・語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)
 ・文の中での語句の係り方や語順について理解している。(1)カ)
 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)
 【態】進んで日本語の特徴について理

評価規準

解を深め、学習課題に沿って日本語の特徴を紹介する文章を書こうとしている。

【知・技】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)

【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

【態】積極的に自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって大切にしたい言葉に対する思いを書こうとしている。

【知・技】
・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。(1)イ)
・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(1)キ)

【思・判・表】
・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ)

・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)

【態】積極的に資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもって自分の思いや考えを伝えるスピーチをしようとしている。

評価規準

【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)

【思・判・表】

・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。

(C(1)エ)

・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)

【態】積極的に文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習の見通しをもってそれぞれの人物の生き方に対する考えを話し合おうとしている。

【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)

【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)

【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。

【知・技】

・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)

・詩を朗読している。(1)ケ)

【思・判・表】

・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)

・「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)

【態】積極的に6年間の国語学習を振り返り、これまでの学習をいかして、詩を読んで感じたことを伝え合ったり、文章に対する自分の考えをまとめたりしようとしている。